大日本蠶絲會報

第九拾七號

明治三十三年七月

目次

●論說
●百年以前に於ける本邦蠶の種類　農學士　外山龜太郎
●生絲水分檢査に就て　農學士　芳賀權四郎

●寄書
●山口縣蠶業保護奬勵の大要　藤島盈文
●桑樹肥培に就て　長崎誠夫
●蠶種鑑別法　中村卯之二郎
●繭乾燥倉庫建設の必要　小池市松
●擬絹絲に就て　松下憲三郎

●統計
●四月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表

●問答
●桑樹の件に就き質問竝答●肥料と蠶卵との關係に就き質問竝答●蠶卵不發生に就き質問竝答●二化蠶に濕桑給與の利害に就き質問竝答●蠶兒に適する濕度に就き質問竝答●木材煮烟に就き質問竝答●消毒用蟻酸アルデヒート液の件に就き質問竝答●上簇中の濕度に就き質問竝答

●外報
●米國に於ける養蠶業●上海蠶絲商況年報●里昂蠶絲市況

●雜報
●練木高橋前兩幹事に銀盃を贈る●技藝委員囑託●蠶業講習所蠶況（第三報）●生絲檢査月報●佛國の勞働時間改正と本邦製絲家●桑園品評會●世界の生絲供給高●三重縣室山伊藤製絲場の繭購入●衡器改正の協定が賣買兩者に及ぼす影響●島根縣蠶業講習所と羽前北進社蠶業傳習所●本年の蠶況●褒賞下賜●特例銀盃下賜●人事覺報

大日本蠶絲會事務所及會堂建設要旨

本會は去る明治二十五年四月の創設に係り歳を閲すること茲に九年にして今や會員は無慮五千有餘名の多きに達し支會の設立を見ること既に十一箇所に及へり其發達の速なること蓋し此種の團體中未曾て其比を見さる所なるへし而して本會か創設以來克く幾多の困難に耐へ以て今日の隆盛を見るに至りしものは固より氣運の然らしむる所に因るへしと雖も抑々亦有志諸君か熱心斯業の改進を企圖せらるゝの結果に外ならさるを信す是れ本會か特に有志諸君に對して深く感謝の意を表する所なり」本會は斯の如くに發達し會運は斯の如くに隆盛なりと雖も然れとも之を本會か豫期する所より觀れは相距ること尚ほ遠しとす」方今熟々内外の形勢を察するに斯業界の前途は愈々多事ならんとするの時運に向ひ從て本會の責務も亦將に益々多きを加へんとす」此時に當り本會か克く斯業界の屬望を曠うせさらんことを期せんには固より之に應するの設備なかるへからす然れとも其設備の一時に完全ならんことを望むは容易のことにあらす故に先つ其事務所及會堂に充つへき家屋を建設して以て漸次に完成を期せんと欲す現に事務所は僅に一小借家に過きす又從來大小の集會及品評會等の擧ある毎に一時他の家屋を假用し爲に幾多の不便不利を感するは夙に本會か諸君と共に深く遺憾とする所にして今更に之を喋々するを要せさるなり」是に於て本會は事務所及會堂建築の議を昨年六月十日の評議員會議に提出せしに滿場一致を以て之を可決せられたり然れとも本會固より其費を辨するの資あるにあらす一に有志諸君翼贊の力に依るにあらされは以て其目的を達するを得す由て左に建築費の概算を掲け敢て諸君の贊助を仰く希くは上來述ふる所の旨趣を洞察せられ以て其資を投せられんことを

明治三十三年七月

一建築費概算は左の如し

金五千圓　事務所及會堂二階建五十坪建築費

金壹千圓　品評會及大小集會に要する諸物品設備費

一建築設計は寄附金前項定額に滿つるを待て之に着手するものとす

一寄附金は金五拾錢以上たるへし

大日本蠶絲會

一寄附金は便宜の銀行爲替に取組まるゝか又郵便爲替なれは神田淡路町郵便受取所渡しに振込まれ本會に宛てゝ送らるへし

一寄附金は總て日本橋區萬町第百銀行に預託し嚴に之を保管す

一寄附金をなしたるものには謝狀若くは紀念章を贈與し且つ其金額及氏名を錄して永く本會に保存す

◎事務所及會堂建築資金寄附報告（第八回）

左の諸君は本會事務所及び會堂建築の擧を翼贊せられ各頭書の如く寄附せられたり

明治三十三年七月

大日本蠶絲會

金拾五圓	東京府	小川良助君
金五圓	同	○小島太之助君
金參圓	愛媛縣	○水沼久吉君
同	高知縣	○西内義顯君
金貳圓	廣島縣	○瀧村大吉君
金壹圓五拾錢	東京府	○村田才三郎君
同	高知縣	○土居伊太郎君
同	同	○池本馬太郎君
金壹圓貳拾錢	島根縣	○小野延二郎君
金壹圓	東京府	○佐々木唯市君
同	同	○町田悅太郎君
同	同	○平井濱吉君
同	同	○渡邊喜兵衛君
同	同	○久保庄次郎君
同	同	○井上清吉君
同	同	○田中今吉君
同	同	○青木傳次君
同	同	○西野芳寛君
同	同	○森田条藏君
同	同	○金子音次郎君
同	同	○小山彌一郎君
同	埼玉縣	加藤清三郎君
同	同	○宮倉信好君
同	同	○増岡伊三郎君
同	同	○市川半次郎君
同	茨城縣	○椎木永太郎君
同	栃木縣	佐藤國藏君

但佐藤君は第一回報告二頁下段七行目に記載すべきを脱漏せしにより茲に掲載せり

金壹圓
同　愛知縣　永谷定穀君
同　島根縣　島田駒太郎君
同　同　渡邊吉太郎君
同　山口縣　豐田武之助君
同　同　星田三治君
同　同　太田典君
同　高知縣　永田實稔君
同　同　松村兵馬君
同　同　井上正茂君
同　同　岡崎伊左馬君
同　同　三木貞太郎君
同　同　田島元衛君
同　同　杉本茂晴君
同　同　青木二男君
同　同　岡本漸君
同　同　明神武雄君
同　同　福留保秀君
同　同　遠藤春正君
同　同　村上正豊君

金壹圓
同　同　高知縣　下元鹿之助君
同　同　横田直榮君
同　同　秋澤齊君
同　同　矢木定穀君
同　同　門田正治君
同　同　佐伯二郎介君
同　同　石川豐太郎君
同　同　松本幹一郎君
同　同　内川一水君
同　同　多田役次君
金七拾錢　下田福松君
金五拾錢　東京府　中丸斧三郎君
同　同　森田新造君
同　同　埼玉縣　細井宇之助君
同　同　群馬縣　白石七五三作君
同　同　千葉縣　鮎川六衛君
同　同　山口縣　野坂治君
同　同　内山路一君
同　同　山村宮若君

●正誤

本會報第九拾號本欄三頁上段十二行「同埼玉縣佐藤國藏君」の一行は誤載に付取消す。

K. Toyama Photo.

大日本蠶絲會報第九拾七號　（明治三十三年七月）

論說

百年以前に於ける本邦蠶の種類（大日本蠶絲會第六回大集會演說）

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　外山龜太郎

今日は蠶の種類と云ふことに就きましての御話が大分澤山出ました、餘り重つて御迷惑だらうと思ひますけれども、極く古い事柄に就て一寸御話を致さうと思ひます、蠶の事の研究も大分唯今の所では種々の方面に於て道が開けまして、飼育の改良を初め致して蠶病の消毒、其他の事に於きましても段々實行されるやうに相成つて來ましたので、我々蠶業に從事致して居る者の實に愉快に堪へぬ次第でございますが、尙ほ重要な問題として近年現はれて來ましたのは只今曾さんの御講話にもございました通り種類を改良するとか、或は種類を一定せなければならぬと云ふやうな事で、これに就きましては私等も餘ほど面白く考へて居りますことでもありますするし、又其事柄と云ふことも大層必要で且つ目下の所迫つて居りますることでありますするから、出來得る限りどうか調べて見やうと云ふ考を持ちまして種々調べて見たこともございますが、殘念ながら種類と云ふことに就きましては學問的に研究を致しました事實の證據とすべきやうな事柄の甚だ少くないのに困つて居ります、それが爲に斯うしたら宜からう、或はあーしたら宜からう、と云ふ意見が澤山出る、併しそれが唯意見と云ふことに止つて實際の事はどうも分らぬが爲に色々迷ふことが多い、

さう云ふ不便を我々自からも感じました、依て蠶の種類に就て意見を述べまするに先立ちまして、事實を澤山集めて見たいと云ふのが私一個の考であつたのです、其第一着手と致しまして私は我が國の蠶の種類が今まで如何なる變遷を爲したものであるか、元はどう云ふ有樣であつたものが今日のやうになつたのか、之を知らうと企てたのであります、で此解釋が出來ますると云ふと在來の經過に就て我々の意見が定まります、それを土臺として今日の種類の改良も根底から其調査研究が出來まして充分なる意見が立ちます、只無暗に一小事實を證據として議論をするも何の効も無かろうと思はれる、さう云ふ方針で研究を致しました、所が此古い物の材料を得ると云ふことに就て甚だ困つたのです、出來得る限り古い材料を得たいと思つて種々苦心しましたけれども、只今の所で私等の手に實際得ることの出來ましたのは寶暦年間の初からして引續きまして當今までの繭並に其記載であります、本日其中で御話を致して置きたいのは詰り其中の最も古い部分たけでありまして、中古と云ふ程ではありませぬが文化、文政以後、明治の初り迄を第二期と致しまして、是は他日御話を致す積りでございます、本日御話をしまする事柄は桃園天皇寶暦初年からして光格天皇享和の末年に至るまでに亘りまして殆ど五十有餘年間の中で我々の手に這入つた蠶の種類だけのことを御話するのであります、其御話をしまするにも實物をこちらへ持つて來て御覽に入れる方が都合が宜いと思ひましたが、どうもさう云ふ譯にも行きませず、又中には原料を我々の手に供給することの出來ないものもありまして、爲に寫眞で御目に掛けなければならぬことになりましたからどうぞそれは御承知置きを願ひます、（本號口繪參觀）

種類に就て御話を致しまするに就ては先づ繭の形狀でございます、繭の形狀は實際私の手に集つた物に就て見まするとニ色あります、一種は丁度只今稱へて居りまする小石丸に近いやうなもので、極く長けの短い併し縊目の淺い、第二圖、三圖に示したようなものです、此寫眞は寶暦二年から十一年迄の間の寫眞であります、（寫眞は印刷の都合により減少せり）斯う云ふ風な繭が此時分に多かつた、私の手に多く

這入つたから多かつたらうと思ひます、もう一つは長い方（第一圖）で是は大ぶりと稱へて居ります、是は今日に比すれば小さいけれども、此時分には大ぶりの中に這入つて居つたのであります、それから安永の時分でありまして、安永の頃になりましても矢張り繭の形は寶暦頃と非常な差は無い、蠶の淺い、長さの短い、圓みを帶びたのが多い、（第四圖、五圖、六圖、七圖）此中にも大きなのと、小さいのと二種あつた、是が私の手許に多く集つた、それから天明から寛政の頃になりますと（只今から百十五六年以前）長い繭が流行つて來た、（第十三、十四、十五圖）圖に示してあるのは天明二年から三年迄の間の寫眞であります、それから第十二、十三、十四、十五圖が寛政で、こんな工合に細長い唯今の長野縣で出來る白龍と云ふ蠶れのすちつと行つた繭に蠶が似て居ります、其細長い奴と短い奴と此二つが競爭であつた、これは唯寫眞で形を御話するのであります、大きさは此通りで實物と少しも違ひませぬ、それで此大きさを數字で擧げますと大層な數になりますから寶暦から享和二年の間の物を一、二書いて見やうと思ひます、暦寶の頃でありますと長さと幅と分けて見ましたが、長さは七分からして八分位の間の物が多い、幅は膨れた所で四分内外、それから安永に得ましたのは私の手許にありますのは三年から九年迄の間であります、其中で一番長かつたものが八分であります、八分が最も長いので短いのは七分二厘位の物が一番短いのであります、幅はどの位かと云ふと最も膨れて居ります所で五分、それから最も小さい物で四分一厘、是が安永の時であります、それからして天明年間、二年から五年までのがありますが、其中で最も大きくありましたのは九分、それから短くありましたのが八分二厘、それから幅の方でありますと、極く短かかつたのが四分八厘、長いので五分であります、それから寛政の時には大分色々得ました、寛政は三年から始めまして十二年まで續いて居ります、是は最も長かつたのが八分六厘、それから短くあつたのが八分、さうして幅の狹いもので四分四厘、長いものが五分、それから享和であります、是は長いので九分八厘、短い

ので七分、幅は大概四分四厘位で、寶暦以降享和迄の繭の大きさはこんな物であります、即ち大きくつて長さ九分、小さくつて七分、そんなやうな有樣で、普通は七分八厘位が當り前のようであります、併し寶暦から享和迄數十年の間に於きまして此大きさが段々に大きくなつて來たと云ふのは事實であります、それからして絲の量であります、絲量は餘ほど必要な事でありますから十分に細かく調べた積でございます、勿論出殼繭でありますから全體の目方を計ることは出來ませぬ、此出殼繭を乾燥して水分を全く取り又中の蛹の皮も殘らず取つた目方はどの位あつたかと言ひますと、〇、一九四「グラム」〈一「グラム」は二分六厘六毛と云ふ積りで御覽を願ひたい〉と云ふのが一番此時分の重いので、輕い方では〇、一〇四「グラム」が一番輕い、中等な物でどの位かと云ふと〇、一三五乃至一三四「グラム」位の所である、此位の目方の物が寶暦の時分には多い、安永の頃になりますと矢張り此時分も重量は大抵似寄つて居ります、一番大きくありましたのが〇、一四七「グラム」で輕くありましたのが〇、一二二「グラム」、それから天明になりましては是は重いので〇、一八五最も輕いので〇、一三二「グラム」であります、それから寛政の時分で最も重くありましたのが〇、一九三「グラム」、それから輕くありましたのが〇、一二〇「グラム」、享和時分で重いのが〇、一八三「グラム」輕いのが〇、一二〇「グラム」、先づこんな目方であります、こんな小さい繭で只今から見ると殆ど驚くやうな小さな繭でありますが、是で中〻目方があつた、是は乾燥した繭の目方でありますけれども、是に一割内外の水を加へますと大抵〇、一五乃至〇、二「グラム」以上になる、して見ると生繭の繭層量は三厘九毛乃至五厘三毛餘であつて西ヶ原講習所の種類試驗に比較するも五厘以上あるものは上等の方である、して見ると絲量では今日と大差なしと云ふて宜しい、先づ目方の御話はこんなものであります、それから絲の太さはどの位あるかと云ふことであります、こんな風な小さい繭で目方が只今申したやうな工合であつて、太さはどうかと云ふと今日の物と餘り違ひは無いのみならず多小細いと云つて宜しい、けれども餘り差は無い、絲の太さを御話します前に計る仕方を御話して置きたい、で今迄佛蘭西で計つた表や、或は日本で河原農學士が先年絲の太さを計られたものがありますが、それと比較すると絲の太さが違つて居る、それ故に計り方を御話しないと或は間違ふといけませぬ、御案内の通り絲と云ふものは二本並んで一本の絲をなしをるもので、其切口を見ると三角形に類似してをる、さうして其上に先刻吉池さんから御話になつた（此日吉池氏の講話あり）「セリシン」とか云ふ樣な物に相當して居る物だらうと思ひますが、滑く掛かつて居ります、是も共に計算に入れました、それ故に他の調査と比較して見ますると少し太いかも知れませぬ、併し是は繭の外部及中部、のみで内部になると此の如き附着物が無くなりますから絲の眞正の太さであります、

先刻吉池さんの御話の中に繭の内部は餘ほど練減が少くない、それは「セリシン」の厚さに差があるかと云ふ御話であつたが是は事實であります、事實のみならずに明に顯微鏡の下で證明することが出來ます、絲は繭の内部、外部、中部で皆其構造が違ふ、どこが一番差が甚しいかと云ふと、内部と他の部分とである、今内部の絲と外部の絲とを比較して御覽になれば是は内部の絲である、是は外部の絲であると云ふことは一見して分る、それでありますから私は只今吉池さんの御觀察の緻密な事柄を感賞すると同時に其事柄が事實であると云ふ提灯持を茲で致して置きます、さう云ふ工合に絲の太さを計りましたのですが其絲の太さはどう云ふことになつて居るかと云ふと、こんな工合になつて居ります、（絲の太さで最大と云ふのは一本の絲の眞ん中の所で大抵五百回の絲であります）れば二百回から三百回の間位、細いと云ふ方は百回そこちの蛹廣に近いものと云ふ積りであります）、寶暦には極く太い所で〇、〇六「ミリメートル」（「ミルメートル」と云ふのは三厘三毛）、それから最も細い所で〇、〇二一「ミリメートル」通例の所でどの位かと云ふと一番多く計算の上に出た數は大抵〇、〇三から〇、〇二七「ミリメートル」位のものであります、それから其次には安永の時分でございます、安永は太いので〇、〇三六、細いので〇、〇二一、それから天明のが太いので〇、〇三一五、細いのが〇、〇二七、それから寛政時分が太いので矢張り

〇、〇三六、細いのが〇、〇二四、享和の方で太いのが〇、〇三四、それからして幅の小さいのが〇、〇二一、こんなやうな有樣であります、さうして見ますと絲の太さに付きまして實暦から享和頃になりました種類は闊いのであつても、長いのであつても、それ程違ひはなかつたのです、それからこんだは繭の性質はどんな工合であつたかと云ふのが一つの問題でありまして、所が是に就ては甚だ困難を致しました、此種類を私が自ら飼ふことは出來ず、と云つて其事柄を知つて居る者もございませぬ、非常に種々の記錄に付て見ました、其記錄は實暦より明和、それから享和迄に當ります種々の古い記錄を得ました其中から段々探り出しました、殊に其記錄は斯う云ふやうな繭の保存してあつた其家の記錄を探して見付けたのでありまして、實暦十年の日誌の中に庭蠶(五齡の蠶)百疋に付て七十二匁あると云ふことが書いてある、それから實暦九年の日誌には庭蠶百疋に付て七十六匁あつたと云ふて居る、それから明和でございます、明和の記錄を見ますと、それには庭蠶百疋に付て大抵六十五匁、それから、峡は十疋の目方が一匁八分二厘位あつた、安永五年の頃でございますと矢張り峡が十疋で一匁八分二厘と云ふやうな記載を得ました、それからして飼育します日數は寛延元年の記載に依ると掃立は八十八夜二日目位と云ふことが一般の期日であつた、上簇はいつ頃かと云ふと五月初旬で、其中の記載には世間は八十八夜が一般であるが、自分の家のは四月七日に掃立つて五月十二日に上簇した、實暦九年には四月十五日に掃立つて五月初旬に上簇した、安永には四月三日から掃立つて五月の十日か九日に上簇した、さうして見まするとこの時分も今も差は無いと思ひます、

此時分の事に就きまして蠶の種類に就て得たる所の智識は僅かこれつ切りであります、勿論是より以上に少し調べたことがありますが是は今諸君に明言することは出來ませぬから何れ機會を得て御參考に申すことに致します、是だけの事柄に就て先づ一般に觀察を下すと云ふことは或は輕卒かも知れませぬが私の手許で調べた物だけに就て觀察を下すと種類に就ては斯樣に評をしようと思ひます、

只今からして百年以前に飼育して居りました所の多くの種類と云ふものは繭は御覽の通り小さいけれども絲量は頗る多い、飼育も容易であつて、只今と比較すると非常に善い物であつたと云ふことを茲で明言して宜しからうと思ひます、それから先きの文化、文政を經まして以後の事柄は第二段の御話でありますけれども、其時分の事柄を茲で摘んで申しますと文化、文政になつて大層蠶の種類が發達して來た、繭の大さも十分で、種類も善く、繭の大さは大抵長さ一寸以上の物で幅は四分、五分、六分位の物が多くあります、前刻御話をした實暦から享和の頃で絲だけの目方を計つて見ました所が〇、一九内外の物であつた所が、天保からしてどう云ふことになつて居るかと云ふと〇、二「グラム」以上であります、大きいのでありますと〇、三「グラム」以上になつて居る物が幾らもあります、即ち生繭であると云ふと繭層量が八厘以上になるのです、で斯う云ふやうな所から考へますと此天保の前後が是も善い物が出たやうに思ひます、それが一歩一歩下つて明治の時代になつて種類が、がらつと落ちた、私の觀察の少ない爲めならんとは思はれるけれども、どちらに行つて見ても天保前後に殘つて居るやうな繭は我々の手に一回も得ることは出來ませぬ、又諸方の報告を見ましても一も見ることが出來ない、又明治になつては所々の試驗場又學校で報告が出て居りますから私が申さぬでも宜いやうでありますが、明治前後のと百年以前の種類と比較をしますと大きさの上に於ては明治の種類の方が進んで居る、併し絲の量及び太さに至つては百年以前の物と殆ど差はない、場合に依ると却つて今日のものゝ方が下つたように思はれるものもある、特に外國の種類、即ち佛蘭西の「ペアール」や「アルプス」とか云ふやうな物と比較すると絲量については外國の上等の種類に劣らないものが天保時代に多い、是だけは我々も驚いて居る事實であります、こんなことからして我國の蠶の種類と云ふものゝ有樣を見ますと明治の世になつて日本の種類は著しく退化したものと私は見て居ります、繭の性質、蠶の性質が劣つて居ると私は認めます、其原因は何であるかと言ひますと、種々なる原因があるに相違ありませぬが、製種家が成るべく新しい變つた種類を撰

由さうと云ふのが當時の目的になつて、折角固定した種類を、あれと是と掛合せ爲めに種類の破壞を來し且つ淘汰の方法を誤てとんな工合になつたのであろうと言ふことは今茲で申上ても差支へなかろうと思はれる、又日本の蠶の種類の歷史を調べて見ますと日本國の蠶業家が繭の形狀に力を盡して發達さした形跡が諸方に多く殘つて居る、其點に就ては淘汰が十分に行はれたものでありませうが、其以上になると淘汰が少しも行はれて居らぬ、表面に盡して絲の性質に於て手が盡して無かつたと云ふことは明かな事實であります、で終に臨んで特に御同樣注意をしなければならぬと思ふのは蠶の種類に就ては今後十分なる事實が畢つて、十分なる根底が出來るまでは甚しき變動は避ねばならぬと言ふことであります、餘り斯うでもない、アーでもないと、こねくり廻すと却つて不結果を來しますから、どうか種類と云ふことに就きましては一時のこねくりはやめにして帝國大學講習所其他種々の試驗所學校等の充分なる試驗に依賴し永遠の目的を以て種類の改良を謀るが宜しからうと思ひます、

私の御話は是だけで御免を蒙ります、それで是だけの材料を得ましたのには非常に骨折つて下さいました御方がありますが、殊に力を盡されたのは福島の伊達郡の中村佐平治君、伏黑村の佐藤與祖左衛門君、又本日もこちらに御見へになつて居る淺野德三君、横山清次郎君を始め此外材料を供給して下さつたのは澤山ございますが、茲に其厚意を謝します、又長野縣や群馬縣にては未だ一回も天保以前の繭に接しませんが、御所藏の御仁は其原料を余輩の手に供給せられんことを希望して置きます、今日は是で御免を蒙ります、

生絲水分檢査に就て

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　芳賀權四郎

蠶絲は其面一見緻密なるが如しと雖も實は數多の細竅を有し能く水を吸收し又能く之を放散す故に氣候の乾濕に從ひ其含水量に自然差違を生ずるを免かれず而して從來の實驗に徵すれば生絲の含有せる水分には天候の乾濕により少きは八分多きは一割五分其最も甚だしきものに至りては尙ほ二割の多きに達することあり如斯其含水量一定せざるを以て歐洲に於ても賣買取引上往々苦情を惹き起し爲に貿易上の圓滑を缺くに至りしを以て伊太利は之が矯正策として生絲の水分檢査を行ふの必要を認め千七百五十年チユラヴに蠶絲檢査所を創設するに至れり爾て千七百七十九年佛蘭西も亦伊太利の例に倣ひ里昂に之が檢査所を設立し共に蠶絲の水分檢査を施行するに至りしが其方法頗る不完全なりしを以て千八百三十一年佛國里昂商業會議所は生絲の平均含水量確定の必要を認め多年審議の末遂に生絲は其無水量の一割一分を以て平均含水量と決定し千八百四十一年より漸く之が實施を見るに至れり爾來各國生絲檢査所も亦等しく無水量の一割一分を以て生絲の公定含水量と認定するに至れるなり

如斯生絲の含水量は公定せられたるが故に佛國クラポー氏は一種の乾燥器を案出し之に依りて無水量を秤定し更に該無水量に公定水量を加へたるものを以て取引上の正量と爲すに至れり夫れ如斯して算出したる正量は假令乾濕を異にする邦土に之を輸くるも再び其量目に差違を生ずるの患なきを以て爾來歐米諸國の生絲貿易も亦伊太利佛蘭西と同一の境遇を經過し來りしが今や恰も原量賣買より將に正量賣買に推移せんとするの時機に際會せるは本年一月內外生絲貿易商間に新に締結せられたる取引法中水分檢査の一項あるに徵して明かなりとす而して該取引法の如きは素より正量賣買の實あるにあらず全く一時の姑息手段に過ぎずと雖も正量賣買開始の一階梯たるべきは豈し疑なきを信ず是れ畢竟本邦當業者も亦正量賣買の公平確實なるを認むるに至りし徵證にして生絲貿易上の一慶事と謂はざるべからず然れども驚くは竿頭更に一歩を進め此際全然正量の賣買に改め歐洲生絲と對等の取引を開始するに至らんこと切に望んで止まざる所なりとす該內外生絲商の契約したる新取引法を見るに左の如し

第一　水分檢査の件　外商請求に係る水分檢査は買方に於て水分多しと認めし場合に限り生絲檢査所の試驗を受け水分の爲め百分の二以上減量を顯せし時は其以上の減量高を買方より賣方に請求することを得　但し本件は本年七月一日より實施すること

第二　看貫風袋の件　生絲看貫の際使用する籠及金巾袋は凡て正量に依ること

第三　結束絲及胴紙目引の件　器械坐繰掛田の結束絲及胴紙は將來其一定を謀る希望あるを以て當分の内結束絲の目引は七分五厘とし胴紙は正量に依る事若し結束絲にして七分五厘より多きときは正量に依り計算すること

第四　代金仕拂の件　代金仕拂は從前の通りとす

第五　衡器の件　衡器は二百五十斤掛を使用し計算は四分の一以下を使用せざること

第六　扱絲の件　デニール試驗の爲め扱きたる絲はコロに卷きたるものを除き其他は悉皆賣方に返戻すること

以上第一項を除くの外は明治三十三年一月十七日より實施するものとす

其後茲に締結したる契約中第一條は意義明瞭を缺くの嫌あるに由り更に三月内外生絲商委員集會し第一條の意義は次の如く明確に解釋を下されたり

購入の生絲にして水分多量と認めたる場合には買主は隨意に正量檢査を生絲檢査所に請求することを得而して正量と總原量との差總原量の百分の二以上の減量は賣主より買主に辨償さるべし

斯の如く水分檢査は右の條項中最も重要にして生絲檢査所正量檢査と密接の關係を有し賣買上得失を敍つべき要點なるを以て茲に檢査方法を詳述し當業者をして正量檢査の手續を了得し且つ水分檢査の結果に依り賣方より買方に償ふべき減耗量の多寡を算出するの便に資せんとす

▲正量檢査手續　生絲檢査規程に曰く「正量檢査は生絲一個の原量を秤り九本を採りて之を三分し其二分を各〻乾燥器に入れ攝氏百十度乃至百三十五度の温を與ふること凡そ三十分間にして水分を蒸散せしめたる後各一分の減耗百分比例を求め其差〇、五以下なる時は二分の平均を求めて之を無水量とす若し其差〇、五以上なるときは更に殘りの一分を檢査し三分の平均を求めて之を無水量とし之に生絲固有の含水量一割一分を加へて正量とす

說明　正量檢査は一個の全量八貫目以上のものに施すべき規程なるに依り生絲檢査所に搬入したる生絲は個々其定量の有無を檢し受入を了し而して後之を解放し包紙の儘秤量して之が總全量を定め更に包紙胴紙括絲等の風袋量を秤り總全量より之を控除して總原量となす又同時に一個中より九本を拔き之をABCの三分に分ちて秤量し之を原量と定め以て全個の合水量を檢出するものとす即先つAの三本を第一乾燥器内にBの三本を第二乾燥器内に釣輪を以て吊下し攝氏百十度乃至百三十五度の温氣を通じ三十分乃至一時間を經過せば水分全く蒸散し無水量秤定せらる而してAB二分の含水量百分比例の差百分の〇、五未滿なるときはAB二分の原量及無水量に依りて全個の正量を算定すと雖も其差百分の〇、五以上に及はゝ更にCの三本に就き前同一の方法を以て無水量を秤定しABC三分の原量及無水量に依りて正量を定む而して正量算出の方法はABなる六本或はABCなる九本の無水量を總原量に乘じ六本或は九本の原量を以て之を除し全個の無水量を求め之に公定水量一割一分を加ふれば所要の正量を求め得べし

正量は總原量と等しきことあり或は減し或は超過することありて一定せざるを常とす之れ生絲の含水量に等差あるに由るものとす然れとも生絲の含水量にして一割以内に止まるものゝ如きは甚た稱なるを以て正量の總原量に超過するもの少く本所開始以來僅に十數件に過きず

左に正量檢査表を示して算法を知得し易からしむ

甲　表

全量	38.96	全量	38.96	全量	38.96
總原量	0.98	總原量	0.98	總原量	0.98
	37.98		37.98		37.98

一節より抜出したる本數　6　此原量　A 188.50 / B 177.50

原量より水分を除去したる無水量　A 170.40 / B 159.90

無水量 $\frac{365.70-330.00}{365.70}=9.68$ 水分百分比例　水分量－割一分

原量 365.70　無水量 365.70　無水量 34.30

總原量 37.98×330.00 / 365.70 = 34.30 總無水量

34.30×0.11＝3.77　正味原量 38.07

34.30+3.77＝38.07＝量　總原量 0.09

38.07－0.09＝37.98　全量 37.98

乙　表

總原量	34.15	總原量	34.15	總原量	34.15
全量	0.59	全量	0.59	全量	0.59
	33.46		33.46		33.46

一節より抜出したる本數　9　此原量 A 250.00 / B 228.10　C 10.20

原量より水分を除去したる無水量　A 240.00 / B 217.90　C

$\frac{689.10-597.10}{689.10}=13.36$　無水量 26.09

33.46×597.10 / 689.10 = 29.09　水分量－割一分

28.09×0.11＝3.19　正味原量 32.18

28.09+3.19＝32.18　總原量 1.98

32.18+1.98＝33.46　全量 33.46

丙　表

總原量	7.00	總原量	7.00	總原量	7.00
總原量	1.36	總原量	1.36	總原量	1.36
	72.64		72.64		72.64

一節より抜出したる本數　6　此原量 A 295.00 / B 277.90

原量より水分を除去したる無水量　A 295.35 / B 246.30

$\frac{295.20-473.15}{295.20}=9.91$　無水量 65.44　水分量－割一分

72.64×473.15 / 295.20 = 65.44　正味原量 7.20

65.44×0.11＝7.20　總原量 72.64

65.44+7.20＝72.64　全量 72.64

72.64+0.00＝72.64

備・考　總全量、風袋量、總原量、總無水量、正量等は凡て基を以て單位とし以下三位に於て四捨五入を行ひ二位に止む而して正量を算出するには六線對數表を用ゆ

前表の結果に依れば甲表の正量は總原量を超過すること九十グラム則ち二厘五毛餘の增加にして乙表の正量は總原量より少きこと一基二百八十グラム則ち三分八厘餘の減少を示し丙の正量は總原量と正に同一量なることを示す而して正量と總原量との較差は當業者の自今宜しく注意を加ふべきの點にして水分檢査の結果正量は總原量に比し何割何分の減耗なるや左表に示す水量百分比例及總原量と正量との較差百分比例とを對照せば一目瞭然たるべし例へば水量百分比例一割一分七厘一毛を含有する生絲の正量は總原量百分の一、九九八一の減耗にして今回新に協定せられたる契約に依れば所謂百分の二未滿の含水量なるを以て 2－1.9981＝0.0019 賣者は買者に對し幸ふして補償の義務を免れたりと雖も水量一割二分五厘を含有する生絲の正量は總原量百分の二、八七五の減耗に該當するを以て協定量百分の二を超過すること○、八七五にして（2.875－2＝0.875）則ち百斤に付八分七厘五を賠償せざるべからざるが如し

水分量及正量減差對照表

水量百分比例	減原差量百ゼ分正比量例ゾ	水量百分比例	減原差量百ゼ分正比量例ゾ	水量百分比例	減原差量百ゼ分正比量例ゾ
9.50	0.4550	71	0.2219	92	0.0112
51	0.4439	72	0.2108	93	0.0223
52	0.4328	73	0.1997	94	0.0334
53	0.4217	74	0.1886	95	0.0445
54	0·4106	75	0.1775	96	0.0556
55	0.3995	76	0.1664	67	0.0667
56	0.3884	77	0.1553	98	0.0778
57	0.3773	78	0.1442	99	0.0889
58	0.3662	79	0.1331	1.000	0.1000
59	0.3551	9.80	0.1220	01	0.1111
9.60	0.3440	81	0.1109	02	0.1222
61	0.3329	82	0.0998	03	0.1333
62	0.3218	83	0.0887	04	0.1444
63	0.3107	84	0.0776	05	0.1555
64	0·2996	85	0.0665	06	0.1666
65	0.2885	86	0.0554	07	0.1777
66	0.2774	87	0.0443	08	0.1888
67	0.2663	88	0.0332	09	0.1999
68	0.2552	89	0.0221	10	0.2110
69	0.2441	90	0.0110	11	0.2221
70	0.2330	91	0.0001	12	0.2332

10.13	0.2443	10.37	0.5107	10.61	0.7771
14	0.2554	38	0.5218	62	0.7882
15	0.2665	39	0.5329	63	0.7993
16	0.2776	40	0.5440	64	0.8104
17	0.2887	41	0.5551	65	0.8215
18	0.2998	42	0.5662	66	0.8326
19	0.3109	43	0.5773	67	0.8437
20	0.3220	44	0.5884	68	0.8548
21	0.3331	45	0.5995	69	0.8659
22	0.3442	46	0.6106	70	0.8770
23	0.3553	47	0.6217	71	0.8881
24	0.3664	48	0.6328	72	0.8992
25	0.3775	49	0.6439	73	0.9103
26	0.3886	50	0.6550	74	0.9214
27	0.3997	51	0.6661	75	0.9325
28	0.4108	52	0.6772	76	0.9436
29	0.4219	53	0.6883	77	0.9547
30	0.4330	54	0.6994	78	0.9658
31	0.4441	55	0.7105	79	0.9769
32	0.4552	56	0.7216	80	0.9880
33	0.4663	57	0.7327	81	0.9991
34	0.4774	58	0.7438	82	1.0102
35	0.4885	59	0.7549	83	1·0213
36	0.4996	60	0.7660	48	1.0324

10.85	1.0435	11.09	1.3099	11.33	1.5763
86	1.0546	10	1.3210	34	1.5874
87	1.0657	11	1.3321	35	1.5985
88	1.0768	12	1.3432	36	1.6096
89	1.0879	13	1.3543	37	1.6207
90	1.0990	14	1.3654	38	1.6318
91	11.101	15	1.3765	39	1.6429
92	1.1212	16	1.3876	40	1.6540
93	1.1323	17	1.3987	41	1.6651
94	1.1434	18	1.4098	42	1.6762
95	1.1545	19	1.4209	43	1.6873
96	1.1656	20	1.4320	44	1.6984
97	1.1767	21	1.4431	45	1.7095
98	1.1878	22	1.4542	46	1.7206
99	1.1989	23	1.4653	47	1.7317
11.00	1.2100	24	1.4764	48	1.7428
01	1.2211	25	1.4875	49	1.7539
02	1.2322	26	1.4986	50	1.7650
03	1.2433	27	1.5097	51	1.7761
04	1.2544	28	1.5208	52	1.7872
05	1.2655	29	1.5319	53	1.7983
06	1.2766	30	1.5430	54	1.8094
07	1.2877	31	1.5541	55	1.8205
08	1.2988	32	1.5652	56	1.8316

11.57	1.8427	11.81	2.1091	12.05	2.3755
58	1.8538	82	2.1202	06	2.3866
59	1.8649	83	2.1313	07	2.3977
60	1.8760	84	2.1424	08	2.4088
61	1.8871	85	2.1535	09	2.4199
62	1.8982	86	2.1646	10	2.4310
63	1.9093	87	2.1757	11	2.4421
64	1.9204	88	2.1868	12	2.4532
65	1.9315	89	2.1979	13	2.4643
66	1.9426	90	2.2090	14	2.4754
67	1.9537	91	2.2201	15	2.4865
68	1.9648	92	2.2312	16	2.4976
69	1.9759	93	2.2423	17	2.5087
70	1.9870	94	2.2534	18	2.5198
71	1.9981	95	2.2645	19	2.5309
72	2.0092	96	2.2756	20	2.5420
73	2.0203	97	2.2867	21	2.5531
74	2.0314	98	2.2978	22	2.5642
75	2.0425	99	2.3089	23	2.5753
76	2.0536	12.00	2.3200	24	2.5864
77	2.0647	01	2.3311	25	2.5975
78	2.0758	02	2.3422	26	2.6086
79	2.0869	03	2.3533	27	2.6197
80	2.0980	04	2.3644	28	2.6308

12.29	2.6419	14.83	2.9083	12.77	3.1747
30	2.6530	54	2.9194	78	3.1858
31	2.6641	55	2.9305	79	3.1969
32	2.6752	56	2.9416	80	3.2080
33	2.6863	57	2.9527	18	3.2191
34	2.6974	58	2.9638	82	3.2302
35	2.7085	59	2.9749	83	3.2413
36	2.7196	60	2.9860	84	3.2524
37	2.7307	61	2.9971	85	3.2635
38	2.7418	62	3.0082	86	3.2746
39	2.7529	63	3.0193	87	3.2857
40	2.7640	64	3.0304	88	3.2968
41	2.7751	65	3.0415	89	3.3079
42	2.7862	66	3.0526	90	3.3190
43	2.7973	67	3.0637	91	3.3301
44	2.4084	68	3.0748	92	3.3412
45	2.8195	69	3.0859	93	3.3523
46	2.8306	70	3.0970	94	3.3634
47	2.8417	71	3.1081	95	3.3745
48	2.8528	72	3.1192	96	3.3856
49	2.8639	73	3.1303	97	3.3967
50	2.8750	74	3.1414	98	3.4078
51	2.8861	75	3.1525	99	3.4189
52	2.8972	76	3.1636	13.00	3.4300

13.01	3.4411	13.25	3.7075	13.49	3.9739
02	3.4522	26	3.7186	50	3.9850
03	3.4633	27	3.7297	51	3.9961
04	3.4744	28	3.7408	52	4.0072
05	3.4855	29	3.7519	53	4.0183
06	3.4966	30	3.7630	54	4.0294
07	3.5077	31	3.7741	55	4.0405
08	3.5188	32	3.7852	56	4.0516
09	3.5299	33	3.7963	57	4.0627
10	3.5410	34	3.8074	58	4.0738
11	3.5521	35	3.8185	59	4.0849
12	3.5632	36	3.8296	60	4.0960
13	3.5743	37	3.8407	61	4.1071
14	3.5854	38	3.8518	62	4.1182
15	3.5965	39	3.8629	63	4.1293
16	3.6076	40	3.8740	64	4.1404
17	3.6187	41	3.8851	65	4.1515
18	3.6298	42	3.8964	66	4.1626
19	3.6409	43	3.9073	67	4.1737
20	3.6520	44	3.9184	68	4.1848
21	3.6631	45	3.9295	69	4.1959
22	3.6742	46	3.9406	70	4.2070
23	3.6853	47	3.9517	71	4.2181
24	3.6964	48	3.9628	72	4.2292

13.73	4.2403	13.97	4.5067	14.21	4.7731
74	4.2514	98	4.5178	22	4.7842
75	4.2625	99	4.5289	23	4.7953
76	4.2736	14.00	4.5400	24	4.8064
77	4.2847	01	4.5511	25	4.8175
78	4.2958	02	4.5622	26	4.8286
79	4.3069	03	4.5733	27	4.8397
80	4.3180	04	4.5844	28	4.8508
81	4.3291	05	4.5955	29	4.8619
82	4.3402	06	4.6066	30	4.8730
83	4.3513	07	4.6177	31	4.8841
84	4.3624	08	4.6288	32	4.8952
85	4.3735	09	4.6399	33	4.9063
86	4.3846	10	4.6510	34	4.9174
87	4.3957	11	4.6621	35	4.9285
88	4.4068	12	4.6732	36	4.9396
89	4.4179	13	4.6843	37	4.9507
90	4.4290	14	4.6954	38	4.9618
91	4.4401	15	4.7065	39	4.9729
92	4.4512	16	4.7176	40	4.9840
93	4.4623	17	4.7287	41	4.9951
94	4.4934	18	4.7398	42	5.0062
95	4.4845	19	4.7509	43	5.0173
96	4.4956	20	4.7620	44	5.0284

14.45	5.0395
46	5.0506
47	5.0617
48	5.0728
49	5.0839
14.50	5.0950

前述せるが如く合水量一割一分七厘一毛以上に至れば其超過額は賣者より買者に償はざるべからず故に水量一割一分七厘一毛は償否の限界點とす

◉寄書

◉山口縣蠶業保護奬勵の大要

在山口縣　大日本蠶絲會員　藤島盈文

明治二十九年蠶業を米作、水產の二業と合せて縣の三大事業となし爾來栽桑奬勵費、養蠶傳習所補助、養蠶巡回敎師雇入補助、共同殺蛹器新調補助、縣蠶業敎師を置き每年各郡に講習會を開設し有志家は蠶業奬勵會を組織し双方協力誘導啓發至らざるなき結果逐年秩序的に進步しつゝあり今左に本年實行せし大要を舉げん

（一）養蠶傳習所　養蠶傳習所を郡立となし多きは四ヶ所少くも一ヶ所各郡に開設し合計十四ヶ所何れも其經費は郡費を以て之に充て縣費よりは其幾分を補助せり各生徒には大概食費を支給す生徒の數は合計四百〇二人就れも女子にして男子は僅かに二人あるのみ先年來傳習所修業者は殆んど二千人以上に達す昨年よりは獨り養蠶の傳習のみならず坐繰製絲の傳習をもなすことゝなせり

（二）養蠶巡回敎師雇入補助　養蠶家十五名以上共同して季節中養蠶巡回敎師を招聘せんとするときは其經費の半額以内を縣費より補助するの規定を設たるにより逐年其傭入數を增加し本年の如きは敎師の

數三十九名共同せる當業者數八百名以上に達す其方法は大半共同して催青及種蠶の飼育をなし二齡より各戸に持歸り飼育し教師は始終之が示教の任に當れり今其効果を擧ぐれば舊慣に拘泥するの弊を漸次蟬脱せしめ改良の飼育をなすに至らしめたること、共同せる養蠶家をして非常の失敗に陷らしめざること、蠶業の收利を知らしむること等にして改良發達上裨益少からず故に其成蹟佳良なりと云ふを辭せざるなり

(三)短期養蠶講習會　毎年各郡に二ヶ所乃至三ヶ所の短期養蠶講習會を開設す其方法は從來一週日間に栽桑、養蠶法を最も平易簡明に口述了得せしめ其要領を筆記せしめ來りしが實驗上各自に筆記せしむるときは之が爲め精神を無益の方面に徒消し却て記憶すべき緊急の事項を減殺するの弊あるを認め現今に至りては其大要を印刷に付して配分し筆記は廢止することゝなせり講習生は十五年以上のものにして既に養蠶に從事したるもの又は其志望あるものは男女を問はず入會せしむるを以て逐次其數增加し年々各郡合計五百名以上を算し二十九年以來入會せるものを通計すれば其數實に二千四百名餘に達せり而して講習生は女子最も多く七分を占め男子は三分の割合なり其効顯一にして足らずと雖も蠶業の智識を普及せるが如き蠶業思想を確實ならしむるが如き改良飼育法を周知せしむるが如きは其主なるものにして養蠶巡回教師雇聘事業と相待て其成蹟良好なりとす

(四)共同殺蛹器補助　殺蛹は專門の事業に屬するを可とするか又は製絲家の事業とするを可とするか依然養蠶家の手に放任すべきかは一の問題にして斯業の發達せる地方は多くは第一、第二の方法に由れるが如きも本縣の狀態未だ茲に至らず養蠶家に共同殺蛹を行はしむるの要あるを以て共同殺蛹器を設置するものに對して地方費より補助を給せり是其目的一は適當の機を失せずして殺蛹し同時に蠶蛆を撲殺し一は從來奸商等に收繭を踏買せらるゝの弊害を豫防するにあり這は本年創始の事業にして其効顯著しからざるも當業家の大半殺蛹器を備ふるに至りたると賣買兩者の感動を惹起し收繭販賣上に良好の影響を及ぼしたる間接の利益は少からざるものなり

(五)蠶病消毒法　從來之が必要を說き實行を獎勵しつゝありしも當業者未だ其方法を知らず着手に躊躇せるを以て、隔靴搔痒の憾ありしが本年は縣費を以てフォルマリン水五拾瓶を購求し先づ製種家に配布し又ムラトリ式噴霧器を購求して各郡に配付し當業者に貸與せしめ且檢査員を四月上旬より任命し各戸に就き消毒法を指示督勵せしめたるを以て獨り製種家のみならず斯業の篤志家は自ら進んで藥劑又は器具を購求し又は種々の方法を以て消毒を實行したるもの少からず其成蹟の如何は目下調査中に屬するも一般の之に對する感情良好にして且効能も較々顯はれたるものゝ如し

(六)蠶業獎勵會　本會は昨年縣下有志家の奮て組織せるものにして縣に本部を置き各郡に支部を設く其目的斯業の振興を圖り同業者を扶掖し地方の福利を增進するにあり會費の如きは大半縣費より補助し(本年度は貳千圓を補助す)逐年敏捷に活動して蠶業の發達を助長すること尠からず實に斯業の進步を圖る上に於て好個の機關なり今實行しつゝある事業の大要を列擧すれば左の如し

一時宜に應し會報を發行して各會員に配付すること
一蠶病消毒の勵行を圖ること
一蠶種蠶具の共同購入をなすこと
一共同殺蛹共同販賣をなさしむること
一桑樹の栽培を勸誘すること
一蠶種の共同貯藏をなすこと
一稚種共同飼育を獎勵すること
一蠶蛆の豫防及び撲滅を圖ること
一蠶業講習會を開設し又は巡回教師雇聘を誘導すること

(七)蠶業の率先家及教師の養成　縣立山口縣農業學校内に養蠶科を設置し年々多數の青年蠶業家を養成す此等習得者は其地方斯業の率先者となり進んでは傳習所教師、巡回教師、蠶種檢査員等に就任す要するに前述の如く傳習生受講習生等の過半以上女子を以て占め既に其數數千の多きに達す顧ふに是吾縣下の特色にして他に見ること稀なるべきか今や大家先輩交々女子蠶業教育の必要を說くに當り防長二州の蠶業將來に囑望すべきもの多きを信ずるなり

●桑樹肥培に就て

高知縣吾川郡諸木村大日本蠶絲會員　長崎誠夫

桑樹は我國の命脈を維持する蠶絲を生ずるの根源にして之が肥培の良否は國家經濟の消長に關するや大

なり余や平素桑樹の肥培に就て考究する所あれば卿か所見を述べて諸君の一顧を煩さんとす

夫れ桑樹は永年作物なれば其肥料としては分解遲緩にして效能永久に渉るものならざるべからずと實に然り然れども效能緩漫にして久しきを保つ堆肥、藁稈、草肥、落葉等の如きものは土壤の理學的性質を改善すると共に滋養分を給するものにして桑樹の肥料としては實に缺くべからざるものなれども概して滋養分少ければ到底是等の肥料のみを以て充分なる生長をなさしむること難し故に比較的速效にして養分豐富なる蕓薹油粕、大豆粕、搾粕の如き肥料を施すべきは勿論のことなりとす然るに在來施肥の方法中には是等の濃厚肥料を施すに冬間又は春發芽前等に於てし養分吸收力最も弱き時に多量を與へ置き刈取後生長迅速にして隨て養分吸收力最も强き時に却て施肥を忘るものあるは抑も解せざる所なり如何となれば是等の肥料は比較的溶解速にして且つ養分多きものなれば吸收力の微弱なる時に一度に多量を施し置けば養分流失の損を免れず是れ土壤は完全なる養分の貯藏庫にあらず只養分を植物に給與するの取次をなすに過ぎざるものなれば降雨多き時は雨水の爲に洗ひ流され其效能を全からしむること能はざるに至るべし而して桑葉發芽後是等の肥料養分を吸收して生長を遂げ旺盛に向ひたるとき之を刈取るものなれば養分は枝條と共に刈去られ根株に於ては養分空虛となり萎縮病を招ぐの患多きのみならず此時に於ては土壤中の肥料も減少し來るものなれば特に肥料を施し秋季に至るまでの勢力を充分養はざるべからざるの必要あり

刈取後は桑樹生長の最も旺盛なる時なれば養分の吸收力も亦た隨て盛なるは今更贅辯を要せざる處なりされば此時に於て十分なる肥料を得るときは十分なる生長を遂け莖葉中に營養物質の成形せらるゝこと多く落葉に至れば葉中の營養物質は莖根皮中に歸り次年發芽の準備をなす故に刈取後十分なる施肥を行ふときは次年の發芽に要すべき營養物質を貯藏すること多ければ春發芽前施肥をなさゝるも尙ほ善く發芽繁茂するのみならず秋季に至るまで肥料の缺乏することなければ枝條の生長著しく隨て葉量亦多し之に反して刈取後施肥をなさゝるか或は施肥少きときは枝條の生長不十分にして營養物質の成形少く次年の發芽を助くるに足らず甚だしきは辛ふして其生活力を保つに止まるものあり斯の如きに至ては如何に冬間又は春發芽前に於て膏肥を施すも樹躰衰弱して十分之を消化するの作用を減ずるものなれば多量の膏肥を施すも到底其發芽展葉の不良なるは言ふを待たざる所なり又其發芽をなす順序は初め根より地中の養分を吸收して生長するにあらずして恰も種子の發芽するに根葉の完備するまで種子中に含有する營養物質を消費するが如く刈取後秋末までに貯藏されたる根莖皮中の營養分を以て生長するものなれば油粕、豆粕、搾粕の如き肥料は之を春季に施さず夏季刈取後に於て施すの甚だ必要なるを覺ゆるなり

●蠶種鑑別法

長野縣南安曇郡温村大日本蠶絲會員　中村卯之二郎

蠶種の健否善惡が養蠶の豐凶如何に關する實に因果の理數にして千古不磨の原則なり故に氣候は適順にして如何に飼育に熟達すと雖も蠶兒の根源たる蠶種にして虛弱不良なるときは好結果を得べからず蠶種の撰擇豈忽に附す可けんや今や我國の蠶業は旭日登天の勢を以て進歩しつゝあるが如しと雖も其掃立枚數と收繭額とを比較對照せば轉た慨嘆に堪へざるものあり余は多年の經驗により蠶種の良否鑑別の法を案出したれば當業家諸君に報じ共に斯業の發達を圖らんとす其一は水浸鑑別にして蠶卵紙面所々の卵子少量づゝを揉み落し茶碗の如き器物に水を盛りて投入するときは善良なる卵は器底に沈み虛弱なる卵は水上に浮ぶにより卵の健否を判別し得べく又一は肉眼鑑定にして鑷子又は一方細き棒の尖端を以て卵粒を緩く押へ試むるに無毒健全なる卵は舊に復するの彈力を有するも虛弱なる卵は押へたる局部凹みたる儘復舊の彈力なきものなり微粒子病毒の有無容易に識別するを得べし尤も余の試驗せるものは當地の特產たる風穴蠶種及秋蠶原種等の越年種なれども春蠶種に於ても敢て差異なかる可しと思考す同業家諸君幸に試みられ本業進歩の萬一に資するあらば幸甚之に過ぎざるなり

●繭乾燥倉庫建設の必要

在東京　小池市松

毎年全國何れの地方を問はず蠶業地に於ける收繭期に當りては製絲家及繭仲買人等は擧て資金の調達に繭の買入れに、繭の殺蛹に、繭の運搬に、繭の乾燥に寢食を忘れて東奔西走殆んど火事場の如き有樣を現はさゝるなし此間に於ける現象は千差萬別なりと雖も一億萬圓以上の生絲の原料を一時に買收せざるべからざるを以て資金は俄に需用を進め至る處金融逼迫を告げざるなし一方多數の繭買人は一時に蟻集

するを以て競爭の結果繭價は絲價と權衡を失するあり之を運搬せんとするに當りては荷物は一時に堆積し晝夜を分たず督勵を怠らずと雖も輙もすれば殺蛹時機を失して製絲場に到達し發蛾又は腐敗の難に遭遇するあり或は輕便乾燥器を携帶して行く〳〵買入繭の殺蛹を爲すものありと雖も其混雜の間に處する一時の姑息法たるに過ぎざれば全く之を行はざるに勝ると云ふのみにして良繭を損傷すること少からず故を以て養蠶家が四十日間の辛苦を以て收穫したる良繭も其製絲場に搬入せらるゝの間に於て必ず幾割の減損をなさゞるなし加ふるに其混雜の間蠻蛆は至る處出てゝ横行濶歩し其年の繭を損ずるのみならず次年に繁殖蔓延の動機を與ふるを以て其損害又計り知るべからず而して一方養蠶家が此間に於ける有樣如何を顧みれば繭買の輻湊し來るときは競爭の爲め意外の高價に賣却することを得ると共に之に反して繭買の來ること少ければ時價に伴はざる低價と雖も之を賣却するにあらざれば發蛾の難を免るゝ能はざるなり又製絲家或は仲買が競爭の爲め價格上騰し之を買ふも尋常にては相當の利益を得る能はざるに當りては百方奸譎の手段を施し養蠶家を瞞着するは常に目擊する所なりとす

養蠶家製絲家が斯くの如き混雜此の如き損害は到底免るゝ能はざる自然の結果にして之を救濟するの途なかるべきか余輩は現時の狀況此の如き無雜の現象を顯はす所以のものは全く此間に處する相當の機關を具備せざるに基くものなりと斷言せざるを得ざるなり之を譬ふるに農家が米穀の收穫をなすに當りて之を乾燥することなく田圃より收穫したる儘之を賣却せんか腐敗虫害の虞あるを以て急速瞬間を爭ふて賣却せざるを得ず爲めに價格の變動と物品の損傷とは免るゝを得ざるなり然して之を買收するもの又一時に大資本を要し直ちに乾燥俵裝の手數を經ざるべからざるにより其混雜危險は獨り當業者の間に於けるのみならず延て全國の經濟界を攪亂するに至るべし故に古來普通の農家は個々乾燥の後俵裝して之を倉庫に貯へ蟲害腐敗の豫防をなし價格の高低金融の緩急によりて徐に之を賣却するを以て米穀は繭に比し其生産價額の數十倍なるに拘はらず收穫期に於て敢て財界に著しき動搖を與へず各相當なる價格を以て靜穩に賣買せらるゝなり

由之觀之は現今蠶業界に大混亂大損害を現出する收繭期の弊害を矯正し整然秩序ある取引を爲し併て蠶業界の大敵たる蠻蛆の撲滅を期せんとせば養蠶家個々の生繭賣買を廢し殺蛹乾燥所及倉庫を設立し共同販賣の方法を設け併せて養蠶家に金融を與ふるの設備を完成するにあらざれば其目的を達する能はざるべしと信ず然れども此事たる素より容易の業にあらず其利害得失順序方法に至りては學者實業家の考案を要するもの頗る多しと雖も余輩又少しく攻究する所あり聊か左に所說を羅列し以て讀者の一顧を煩はさんとす

殺蛹器は從來製絲家の外蠶種製造者若くは新場の養蠶家間に於て小器械の設置をなすものありと雖も余が此に建設を主張するものは如此小規模のものにあらず是等の小器械は概ね一時殺蛹を行ひ發蛾を止むるに過ぎざるを以て之を買集めたる製絲家は概ね再乾燥を行はさるべからざるのみならず其乾燥の程度各異なるを以て寧ろ製絲家に於ては殺蛹せざる生繭を買入るゝに如かず故に輕便殺蛹器は世に行はる已に久しと雖も毫も進歩の跡を見ざるなり余の此に建設を望むものは彼の御法川式谷口式其他世に完全なりと稱せらるゝ大規模のものにして是等は殺蛹器のみのにして尚數百圓乃至數千圓の建設費を要すれば到底養蠶家個人用としては設置するを許さず此に於て余は當業者に組合或は合資株式等を以て一大團躰を組織するの必要あるを認むるなり

此事業たる極めて多數當業者の利害損益に關するものなるを以て本年公布せられたる產業組合法に據て之を設置するか若くは重要物產同業組合法に據て設立したる組合の監督保護の下に設置するを以て最も適當せる事業なりと思惟す已に前陳するが如く此事業は養蠶家と製絲家との間に立ち其連鎖となり双方の利益を增進するものなるを以て五千石以上の繭を蒐集し得るの地方に設立せは完全なる大器械を設備し之に相當せる資本を投下するも殺蛹手數料を以て優に之を維持し相當なる利益を配當し得べし又製產者は完全の殺蛹乾燥を卒へ徐々之を賣却し得るを以て其販賣上の利益を以て此殺蛹手數料を償ひ尚若干の利益を獲得すべきは明諒のことなりとす

然れども從來養蠶家は一日千秋の思を爲して上簇せしめ結繭を終るや否や之を掻き取りて賣却し直ちに現金に換ゆるの習慣なれば目前の都合に眩惑し譬へ完全なる殺蛹器を設くるも之れに殺蛹を依賴するもの極めて少からんか之を維持すること困難なるべしとの懸念あり此に於て乎余は之れに金融を與ふるの法を設け尚ほ一歩を進めて共同販賣となさんことを切望するものなり

繭は完全なる乾燥を施し堅實なる倉庫に貯ふるに於ては米穀其他の貨物と信用敢て異る所なかるべし故に乾燥場を設くると共に堅固完全なる繭倉庫の建設を要す已に此倉庫に納入したる繭預證に對して時價

の三分の二若くは七八割の貸金をなすは資本家に取りて敢て危險の業にあらず故に此貸金の方法完備せば養蠶家は敢て依托殺蛹を以て不便利となすものあらざるべし

然して倉庫に納めたる後に於ても尚其物品の所有主を區別し所有主の手に於て個々の販賣をなさしめん乎少數の貨物は好價を得る能はざるのみならず其煩雜到底堪ゆべきにあらず此に於てか共同販賣の必要あり共同販賣の利益あるは今更喋々を要せず大數貨物の取引は時間と費用を節し顧客の信用を得る以て價格を貴からしむるは當然のことなりとす然れども生産物は眞否精粗の階級あり猥りに之を混合すべきにあらず必ず之を分類し等級を附して之を販賣するときは數量と等級に依て價金を算出し殺蛹手數料と貸金及其利子を引去り以て生産者に配當するの方法を設けざるべからず故に殺蛹乾燥倉庫には生産者の信任せる販賣委員と熟練なる技術者と多數の繭撰別工女を置かざるべからず是等の設備に就ては少からざる費用を要すべしと雖も從來製絲家が繭を買入るゝに當り繭買入、運搬、乾燥、繭撰別等に要する費額は生産費の主要部分にして凡そ百斤の生産費を百六十圓に積算せば少くも其三分の一即五十圓餘を要する割合なりと云ふ故に此數種の業務は殺蛹乾燥場に於て直搨するを以て從て夫れ丈け生絲の生産費を減ずるにより只製絲家の業務の幾分を割て乾燥業者に移すに過ぎずして而かも製絲家が混雜の間火事場的仕事をなすものに比せば其業務の整理して費額の減少するは云ふを俟たず故に製絲家は此殺蛹場の繭に對しては其支出すべき費額を加へそれ丈け高價に購入するも尚ほ利益あるは疑を容れざる所なりとす

以上の方法に依て殺蛹乾燥場の設立を普及せしめば製絲家は從來の如く一時に困難事業の原料を購入貯蓄するの必要なく從て大資金調達の困難もあらずして一二の倉庫に特約をなし徐ゝ必要に從て原料を引出し生絲相場の好時機に當りて生絲を販賣するを得ば從來の如く積濱賣込商の鼻息を窺ふの必要もなく徒らに外商の意志に左右せらるゝが如き弊に陷らず常に絲價の平衡を保ち亂高下を現はすが如き宿弊を矯正すると鮮からざるべし又養蠶家は生繭の賣買をなすことなく收繭は直ちに乾燥倉庫に納入するを以て蠶業界の强敵たる蠶蛆は乾燥倉庫以外に出てざるにより之を殺滅するに容易なるを以て此乾燥倉庫にして普及せば始めて之を全滅するを得ん乎

故を以て若し全國に適法なる乾燥倉庫の設備を完ふするに至ては蠶絲業に於ける諸種の弊害を驅逐し去り眞に斯業界の大革新を遂行し得べきなり然ども此繭倉法の實施即ち乾燥場及倉庫の建設費及殺蛹諸費は假りに二萬圓とし繭五千石に對し七掛の貸金をなさば一石四十圓として十四萬圓合せて一ヶ所十六萬圓を要す此資本金を當業者間に募集せんとするは望み難き所にして又其融通資本を要する重もなる期間は僅に二三ヶ月間に過ぎざれば之が爲めに殊更に此巨資を蓄積するの要を見ず其設立方法にして完全ならしめば到る處の銀行は喜んで之が特約をなすべきなり特に彼の農工銀行なる者は是等農工上に於ける改良事業に對し融通を與ふる目的を以て起れる機關なれば是等の事業に對して喜で出資すべきは言を待たざるなり又本年公布せられた産業組合法の如き是等の働をなさしむるが爲め政府は特別の保護を與ふるものなれば當業者にして奮發之が設置に從事せば融通資金は容易に之を得らるべしと信ずるなり

以上述ふる處は敢て余が架空の理想を此に陳辨するものにあらず穀物に於ては歐米諸國夙に穀倉法なるものゝ設あり魯西亞の如きは國費を以て數多の大穀倉を建設し平時及軍事上に於ける種々の便宜を計り北米の如きは大資本を有する穀商等大穀倉を各地至便の要地に建設し相互に氣脈を通じ且銀行家と聯絡し其組織極めて整頓せるのみならず全國を通じて其等級品種を一定せしめ見本をも要せず第何號の穀物若干を幾千の相場を以て賣却すべしとの電報を發すれば歐州大陸の穀商は此電報のみに依て直ちに其品買を知了し諾否を返電するが如き完全なる組織となれり又獨逸政府は多年攻究の末議會の協贊を經て千八百九十六年及仝七年の二ヶ年に繼續して五百萬マルクの國費を支出し國内各所に適當の位置を撰び穀倉の建設を爲せり今同政府が議會に該經費を要求せる理由書中穀倉より生ずる利益として擧げたるものを抄譯すれば左の如し

(一)穀倉に積入れたる穀物を精選し分類し混交又は分類して成るべく同一の品質の善良にして而かも賣行き良き品物を整ふるの便益を與ふること

(二)從來の如く收穫時期に於て一時に多量の供給をなし穀價を下落せしむることをなさずして需用に應じ漸次に穀物を供給し以て穀價を整理し得ること

(三)積入れたる穀物に對し資金を貸與するを以て農業者をして信用を得せしむること

(四)穀倉を經て穀物を賣却するときは仲間商業者の爲めに利益を占めらるゝことなく又運搬費を節約し得るの利あること

此穀倉は地方産業團體の請求により政府に於て倉庫を建設し條件を定めて貸付するものなり其利益と必

要は彼れと我れとに依て異ることなく又獨り穀物に對してのみ適切なるにあらず寧繭の如き乾燥貯藏の如何に依て大損益を來すものに對しては一層緊要適切なりと謂はざるべからざるなり

以上の所論從來我國に於て或る一部分は之か經驗を爲せるものなきにあらざるべしと雖も之を綜合して實驗したるものあるを聞かず其事素より蠶業界の重要問題に屬するを以て輕々に之を實驗し得べきにあらず又其順序方法宜しきを得ざれば意外の蹉跌失敗なきを保せず宜く當業者諸氏に於て充分なる調査を遂げ其利害得失を審考し實施の方法を研究せられんこと切望に堪へざる所なり

去五月中關東地方に於ける御法川式乾燥器械を設立したる諸氏は東京に會して協議し依托乾燥を爲すと共に金融を與ふる旨を新聞紙上に廣告したるを見たり其組織及目的の如何は之を詳かにせずと雖も思ふに本論の趣旨に近似せるものなるべき乎果して然らば是等は所謂蠶業界革新の端緒を開くものにして其經驗を積むに從て遂に成効するに至らん

然れども繭倉庫の建設を普及し以上述ぶる所の方法を完成せんとするには獨り二三少數者の私設を以て遂行する能はざるべし何となれば單に乾燥及金融の便宜を圖るに於ては尙個人の營業となし得べしとするも之を共同販賣せんとするに於ては當業者の一大團結を圖り其協贊同意に依らざれば目的を達すべからざるなり現今全國に於て蠶絲同業組合を設置するもの七十餘其他舊法に依れる蠶絲業組合其他の團體少しとせず是等は平素如何なる働きを爲しつゝあるや全國同業組合に於て年々費す所の組合費のみを以てするも尙十萬圓に達せり而して各組合業務の成蹟を觀察すれば頗る見べき活動をなせるものなきにあらずと雖も組合中の多くは經費の大部分を事務所費會議費に支出し生產獎勵的事業に使用せらるゝものに至ては甚だ少額なるが如し如此は組合設置の本旨に副ふものにあらざるべし是等の諸團體は乾燥倉庫建設の如き蠶業界の組織改良的緊要問題に就て調査攻究に力め斯業百年の大計を企劃するは蓋し其任務なりと云ふべきなり

●擬絹絲に就て

京都府城外蠶業講習所
大日本蠶絲會員　松下憲三郎

近來人工絹絲或は擬絹絲と稱する多種の化學的織物の纖維顯出して天然蠶絲を壓倒するてふ聲喧傳せらるゝに至れり余輩は是等發明者の此偉業に向て嘆賞措く能はざると同時に新原料の多量に產出して社會を裨益するを悅ぶ者なり何となれば擬絹絲は如何に改良せられて其缺點を補ふと雖も擬物の天然物に對し其品位に於て打ち勝つと能はざるべきは獨り絹絲に限らず總ての工藝品に於て然るを知ればなり又今日に於ける諸種の人工絹絲が其優點は到底其缺點を補ふに足らず其價格に於ても性質に於ても到底蠶絲と衡を市場に爭ふが如き者に非ざること先輩諸氏の試驗によりて明白なる事實となりたるを以てなり

近頃吾國に於ても擬絹絲の製造盛んになり工業界に喝采を博するに至れり仍て今各種絹絲の大要を述べて蠶業界に紹介するは敢て無益の事にあらざるべし

抑も人工絹絲と稱し擬絹絲と謂ひ今日世間に行はるゝものは要するに植物纖維に絹の如き光澤を有せしめたるものか又或方法を以て膠より之を製出せるものにして其種類は約そ七八種に上れり其中著名なるものを擧ぐれば左の如し

▲シルクツト（元名マーセライズト、コツトン）と稱するものは西曆千八百八十四年ジヨン、マーサーの發見したるものにして英國のブラツドフオード府に於て盛んに製造せらるゝものなり即ち木綿若くは布をターキレツト油にて煮たる後適宜の枠に掛けて緊張しつゝボーメー三十二度乃至、四十度の苛性曹達液（苛性曹達は空氣中の炭酸瓦斯と化合し易く其結果として染上げの際色に不同を生ずるの缺點あるを以て之れに代ふるに硫化曹達若くは硫化加里を用ひ且つ安息香又はナフサ油の如きものを混ずれば其結果一層良好なりと謂ふものあり）中に通じて絞り上げ清水にて能く洗ひ後水中に硫酸若くは鹽酸を滴下して酸性となしたる液中に通じアルカリーの餘剩を中和し再び水洗して乾燥するなり近來此法は吾國にて漸次盛んに行はれ所々に其製造を觀るに至れり此法元來絹の代用品として發明されたるものにあらずして木綿を苛性曹達に浸すときは著しく收縮して且つ諸種の色素に對し染附良好なる性質を有するにより施されたるものにして初めは單に縮み類、又は靴下、紋緞子等の製造に用ひられたるものに過ぎず然るに漸次改良を行ひアルカリー液中にグリスリン等を加へて其收縮を制するときは殆んど絹に類する光澤を有するを以て現今に於ては絹絲の代用品として盛に使用せらるゝに至れり發明者マーサー氏の學說によればシルクツトはセルロース即ち纖維素（$C_6H_{10}O_5$）の水酸化物にして木綿を苛性曹達液中に通ずるときは最初セルロースと酸化ソヲユーム（Na_2O）との複鹽を造り次に之れを水洗するときは酸化ソヲユ

ームは水と置換せられセルロースの水酸化物となるものなりと云ふ之れを要するにシルクツトは木綿纖維の表面に化學的作用によりて一種の絹絲光澤を有せしめたるものに過ぎざるなり

▲シヤードンチー絹絲　是はコロヲオン絹絲を改良したるものにして西暦千八百八十五年佛國の化學者コアン、イレール、ド、シヤードンチー氏の發明に係りたるものなり故に之れをシヤードンチー絹と稱するなり目下該國にてはアヴオン河畔ウオルストンに製造所を設立し器械の据附等も全備し毎週七千封の人造絹絲を製出しつゝありと云ふソウヂアル氏は綿花を以て硝酸及硫酸にて操作し得たる硝酸纖維をエーテル及アルコールの混合液に溶解し或る金屬鹽類の〇、二%を加へて爆發の憂ひなからしめ此溶液を天然絹絲大の直徑を有する毛細管を排列したる器械中に壓迫して熱湯中に逃出せしめ其熱によりてエーテル及アルコールを飛散せしめて之れを製せり然れども斯くの如くして製出したる絹絲は燃燒し易き性質あるが故に氏は更に五百萬法の株式會社を設けて幾多の改良を加へたり即ち綿花に換ゆるに廉價の木材纖維を以てし其硝酸纖維を醋酸及硫酸にて操作し硝酸を去り又ソルフアイドレート、オフ、カルシヤムを作用せしめて以て可燃性を減ぜしめたるが如き即ち是なり

又千八百八十九年に佛國巴里のウィビール氏及獨乙國のレーチル氏は人造絹絲の製法に關して特許を得たり、其他獨國のヴヲウヰー氏、カラダー氏、及ランクハウス氏等の製法ありと雖も是等は皆シヤードンチー氏の法と大同小異なりと云ふ

▲ヴァンヂュラ絹絲　此絹絲の發明者即ち特許主はアダムミーラー氏にして膠（ゼラチン）より製する絲なり其成分は動物纖維に近く且つ能く天然絹絲に類せり此は其原料膠を適度の濃度に溶解し此溶液を極めて微細に引き延ばしたる玻璃毛細管の排列したるものより迸出せしめ之れを不斷運行の帶布上に移し適當の巨離を通過せしめ乾燥したる後之れを金屬製枠に卷き取りたるものなり然れども素と膠質なるを以て之を以て直に染色すること能はざるなり故に液の狀態にある時に於て之れを着色するを要す、尙此絲を一室に於て少量のフオルマリンを撒布してフオルムアルデハイト瓦斯を發揮せしめたる室に入るゝときは膠絲は瓦斯の爲めに作用せられて不溶性となり沸湯及種々の試藥に對して溶解せられず且つ輝々たる光澤を有するに至る然れども此絹絲は頗る强伸力に乏しと云ふ

▲ダイヤモンドコットン　是れ綿絲に光澤を附したるものにして綿絲を蠟及澱粉質の溶液に通じて急に乾燥し然る後急轉刷子を具備せる光澤出しの器械に掛けて以て絹樣の光澤を與ふるものにして其外見手觸り等は殆んど天然絹絲に類するに至る此擬絹絲は蠟引きの後染色することは出來難きにより豫め所好の染色をなし然る後に仕上げの工程を施すなり此者は專ら純絹との交織に使用せられ外國にては隨分多量に需要せらるゝと云ふ

▲玻璃絹絲　是は玻璃より製出せらるゝものにして其光澤は實に天然絹絲を凌駕するの價値あり然れども此纖物を以て防寒の用に供することは殆んど困難なりとす何となれば玻璃は素と熱の傳導體なるを以てなり玻璃は元來硬くして脆性なるにも係らず毛細管によりて極く纖細に引き延ばすときは其性柔撓となり實に鮮麗なる絲となる此者も仕上げ後に於て染色することは出來得べからざるにより初め其液狀にある時に於て之れを染色するの必要あり又種々の色を煉合して紡出するときは一種縞樣の製品を得ると云ふ此擬絹絲は婦人用の裝飾品として最も妙なり

又獨乙國プレメンに於ける米國領事近頃人造絹絲に關して本國へ報告して曰く可燃性のナイトセルロースを用ひずして屑綿をアンモニアの酸化銅液中に溶解せしめ其物を細管中より抽出せしめて之を稀薄中に通じ銅とアンモニアを分離せしめて得たる模造絹絲は天然絹絲に代用せらると此方法は The Journal of the Society of Arts の記する所によればシヤードンチー氏の法に比すれば其製法に危險少なく且つ簡易にして代價も甚だ廉なりと又瑞典國ベルンに於ける米國領事が本國へ報告したる所によれば英國リーズのヨークシヤイヤーの教授ヒンメル氏の發明に係る方法を擧げたり此法は膠より製するものにして其裝置極めて簡易一人の職工一日四十七萬ヤードを製出することを得べく其額殆んど二千四百個の繭より製出し得る額に均しと謂へり

以上擧げたる數種の絲は即ち現時擬絹絲として使用せらるゝ所のものなり然れども其何れにも多少の缺點ありて天然絹絲より數等劣るも決して優れるの點は毫も觀出すこと能はざるなり

是れ何を以て天然絹絲を凌駕することを得べき資格を有するか到底是等の價値を有せざるは明白なる事なりとす然れども其生產費に於て充分の改良を加へ廉價に販賣せらるゝ場合には或は中流社會に多く需用せらるゝやも知るべからず是れ即ち社會を益するものにして大に賀すべきことなりとす然れども吾人蠶業家は此際大に奮て生產費の削減に向て歩を進め豫め之れを警戒するの必要なきにしもあらず要する

に先づ今日に於ては天然絹絲を壓倒する事實のあらざるは勿論之に追及するの時期も尙遠遠なりと言ふを憚らざるなり

統計

四月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表（大日本外國貿易月表に據る）

種目	三十三年四月分 數量	三十三年四月分 價額	三十二年同上 數量	三十二年同上 價額	三十三年一月以降累計 數量	三十三年一月以降累計 價額	三十二年同上 數量	三十二年同上 價額
輸出 生絲	一四四、六六六	一、六六四、六六六	一、六六四、六六六	一、四四〇、〇〇〇	一、六六四、六六六	一、六六四、六六六	四三、一五六	四四、九四六、八四〇
蛹紙	一一、六〇〇	一七、〇〇〇	一〇、四〇〇	九、六〇〇	一〇、四〇〇	一〇、四〇〇	五三、一五六	五三、一五六、八四〇
屑絲	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
蛹粉	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
玩絲	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
屑紬	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
紬	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
羽二重	四一、四〇〇	八四四、八四〇、九〇	四一、四〇〇	八四四、八四〇、九〇	四一、四〇〇	八四四、八四〇、九〇	一、四〇〇	一、四〇〇
甲斐絹	一、〇八〇	三、〇八〇、〇〇	一、〇八〇	三、〇八〇、〇〇	一、〇八〇	三、〇八〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
他の諸絹布	四、一四〇	三、一八〇、〇〇	四、一四〇	三、一八〇、〇〇	四、一四〇	三、一八〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
絹製手巾	五三、一四〇	六四、一六〇、〇〇	五三、一四〇	六四、一六〇、〇〇	五三、一四〇	六四、一六〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
刺繍絹布	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
他の諸絹製品	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
計	三六、六三〇	七、三六九、〇〇〇	三六、六三〇	七、三六九、〇〇〇	三六、六三〇	七、三六九、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
輸入 蛹生絲	一七、六〇〇	四、八四〇、〇〇	一七、六〇〇	四、八四〇、〇〇	一七、六〇〇	四、八四〇、〇〇	六、八三〇	一、九四〇、〇〇
蛹紙	七、九六六、〇〇	七、九六六、〇〇	七、九六六、〇〇	七、九六六、〇〇	七、九六六、〇〇	七、九六六、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
蛹粉	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
玩絲	三、八六〇、〇〇	三、八六〇、〇〇	三、八六〇、〇〇	三、八六〇、〇〇	三、八六〇、〇〇	三、八六〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
屑紬	六、六六〇	六、六六〇	六、六六〇	六、六六〇	六、六六〇	六、六六〇	一、四〇〇	一、四〇〇
紬	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
絹織子	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
絹織天鵞絨	七、六六〇	七、六六〇	七、六六〇	七、六六〇	七、六六〇	七、六六〇	一、四〇〇	一、四〇〇
他の諸絹布	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	一、九六〇	一、四〇〇	一、四〇〇
絹製手巾	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
他の諸絹製品	—	—	—	—	—	—	一、四〇〇	一、四〇〇
計	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	三、〇六〇、〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇

〔參照〕自本年一月至四月輸出入品價額連月比較表

月次	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 增	減
一月	五、一六六、九六六、四円	三、六六九、〇〇〇、〇〇円	八、八三五、九六六、四円	一、四九七、九六六、四円	—
二月	四、四四四、〇〇一、六〇	五、〇一七、三四〇、九六	九、四六一、三四〇、九六	五、七二三、三四〇、九六	—
三月	六、六六〇、〇三一、八〇	三、四四〇、八六六、七〇	一〇、四〇〇、八九七、六〇	三、二二〇、一六六、一〇	—
四月	三、六六九、八六四、一四	三、八四四、九六六、九六	七、五一四、八一〇、一〇	一、六六四、六六六、四四	—
通計	一九、八六六、八六〇、一六	一二、一六四、一六六、一七	三一、〇三〇、〇二六、三三	七、八九六、九五〇、〇九	—

（備考）

昨三十二年四月中は輸出千二百五十一萬千五百〇五圓五十三錢、輸入千四百二十萬六千二百五十一圓七十二錢、通計二千六百七十一萬七千七百五十七圓二十五錢にして輸入超過百六十九萬四千七百四十六圓十九錢なり

◉問答

●桑樹の件に就き質問

東京府南多摩郡稻城村
大日本蠶絲會員　小池喜太郎

桑樹に雌雄の別ありと聞く依て其鑑別法を問ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　本多岩次郎

普通の樹木にありては雌雄兩精は一花中にありと雖も桑樹の如きは然らず即ち雌雄は其樹を異にするものあり又は一枝中にありて雌雄其所を異にするありて決して一花中に兩精を有することなし而して雄精即ち雄花は概して開花に際して房の如き形狀をなし開花後に於て地上に落下す雌花にありては永く枝上にありて結實して椹と爲る俗に之をクワイチゴと稱するものなり是則ち實業上に於ける鑑別法なりとす

●肥料と蠶卵との關係に就き質問

群馬縣多野郡新町
大日本蠶絲會員　茂木爲三郎

實業老練家の說を聽くに肥料の種類に由り產卵の色澤大小等に至大の相違を來たすと云ふ全く然るや否や若し右の如くならば其理由を詳細御明示を願ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　菅野平右衛門

蠶卵の色素なるものは桑園の地質により其色澤を異にするものなれども何種の培肥を問はず一時施したる養肥の爲に蠶卵の色澤、粒顆の大小等に關係を及ぼすものにあらず然れども養肥累年の能力により桑園の地質をして全然變態を來たすときは色素の幾分をも變ずることあり又蠶卵の大小は養肥の爲に幾分增大を來すことありと雖も其多くは飼育中に於て蠶兒を蠶座に居らしむる厚薄に關するものなりとす

●蠶卵不發生に就き質問

宮城縣玉造郡岩手山町
大日本蠶絲會員　櫻井順藏

蠶卵發生の期に際し蠶種に青色を呈し掃立凡そ二日前蠶種を美濃紙に包み其紙上表裏に桑實の手にて揉みしものを籠にて撒布し凡そ十二時間經過したる頃之を除去し後更に掃下し紙に包み華氏六十五度內外の溫度を與へ二十四時間目位にて掃立普通の飼育法により年々好結果を得たり依て昨年も以上の方法により催青法を施したるに如何なる譯にや蠶種平附一枚の內境界を立て過半發生したるも他の一半は發生せず而して其の蠶卵を檢するに異狀あるを認めず尙其發生したる分は病蠶なく實に案外の上結果を得たり此の如く不發生卵を生じたるは如何なる理由によるや御明示あらんことを乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　土屋泰

蠶種不發生の原因は其實物に就て調査するにあらざれば判明し難し即ち不發生卵は卵殼內に於て既に蠶躰を完成し後斃れたるものなるか或は胚子は少しも發育せずして活力を失したるものなるか若し前者なれば被害の時期は近かるべく後者なれば被害は遠く第一期若くは第二期保護中にあるべし而して前者なりとせば催青器等に入れて局部に過激なる溫度を感ぜしめたるにあらざるなきか又後者なりとせば有害なる液躰（例へは石油の如きもの）を浸潤せしめたるにあらざるなきか或は他物と密接せしめて久しきに涉り呼吸作用を妨げたるにはあらざるなきか冬期貯藏中多數の蠶種を平面に重ね壓迫し置く時は往々種紙の中央のみ不發生なることあり宜しく前年以來該蠶種の取扱手續に就き調査せられたし

●二化蠶に濕桑給與の利害に就き質問

東京府南多摩郡境村
大日本蠶絲會員　青木榮

夏秋蠶を飼育するに殊更に桑葉に淸水を撒布して給與する者あり因て余本年聊か研究の爲め掃下せし蠶兒を分ち一方には日中四五回は必ず濕桑を給與せり（貯藏の桑葉に非ず）而して雙方結繭上著しき差異を認めずと雖も濕桑を給せしものは膿蠶即ち節蠶の多かりしが如し右は余の結果の如く蠶躰生理上甚しき被害なき者なるや從來世人の行ふ如く實際是とすべき方法なるや否や綿密の試驗に非ざれば依る所に苦しめり委細明敎を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　吉池慶正

育蠶上濕桑を用ゆるの有害無益なる事は今更言ふを要せざるも唯夏秋蠶飼育にありては春蠶に於けるより比較上其害多からざるなり何となれば夏秋蠶飼育期に至れば桑葉老硬となり水分を減少するを以てなり故に時として大氣非常に乾燥するときは忽ち桑葉を枯凋せしむるを以て適宜水を撒布するを可とすることあり然れども概して水分に富む桑葉若くは水分の附着する桑葉を給すれば或は蠶躰を虛弱ならしめ或は蕨桑濕潤を致し延て蠶躰に害を與へ或は各種病菌を繁殖せしめ蠶作を失敗に終らしむることあれば

深く注意する所なかるべからず

●蠶兒に適する濕度に就き質問

長野縣下伊那郡智里村　大日本蠶絲會員　小松覺次郎

蠶兒に適當なる對比濕度は何%位なるや

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　川島勝次郎

蠶兒を養ふに適當なる濕度は凡そ七十五度乃至八十度にして溫度の高低と共に多少增減せしむべきものなり

〔備考〕　通常空氣の濕度を示すには絕對濕度（又は濕量）と關係濕度との二種あり

質問者の對比濕度と云ふは關係濕度を指せるものならん即ち關係濕度とは或溫度に於ける現在の量を其飽和に於ける最大量に比したる百分比例(%)にして之を表すには濕度何度と稱するを普通とす

●木材熏烟に就き質問

愛媛縣東宇和郡多田村　大日本蠶絲會員　稻垣義敎

蠶室を消毒するに熏烟法を施さんとす其用材は何を以て第一となすや又松、杉、栗、楢、檜等の含有せる蟻酸アルデヒート瓦斯は百分中幾何あるや詳細御敎示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木忠次郎

蠶室消毒に用ゆる熏烟は何れの木材にても宜し大抵木材の熏烟中には〇、五ペルセントの蟻酸アルデヒッド瓦斯を含むものなり桑樹の幹枝の熏烟及び栗樹の熏烟は最も有效なるものなり

●消毒用蟻酸アルデヒート液の件に就き質問

滋賀縣高島郡廣瀨村　大日本蠶絲會員　長宗彌一郎

(一)東京市田中李次郎より發賣する蟻酸アルデヒッド液は壹磅を水二斗五升に溶解して奏效すとあり此溶液は散霧器を用ひ消毒して實際効力ありや若し消毒完全ならずとすれば溶解の度如何

(二)蟻酸アルデヒッド液を以て消毒するには被消毒品を清水にて洗ひたる後にすると消毒後洗ふと何れか効多きや又消毒したるのみにて清水にて洗はざるも差支へなきや

(三)蟻酸アルデヒッド液を散霧器に依り消毒したる物品を消毒後直ちに日光に曝露するも其効は失せざるや

(四)蓬を酒に浸し飼育中蠶室に於て之を熏蒸すれば病蠶を生ぜずと云ふ蓬或は酒は消毒の効を有するや且蠶兒に被害なきや

(五)古來より梅雨中濕氣を除去する爲め漢藥蒼朮を室内に熏蒸す右は蠶兒飼育中蠶室排濕に用ゆるも害なきや又消毒の効あるものなるや

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　大森順造

(一)蟻酸アルデヒード液は原封の儘（セーリング會社製品）一ポンドに八升五合の水を混合し（即ち三十九倍の液）之れに四分の一ポンドのクスリンを混合して撒布すれば充分消毒の効あり

(二)被消毒品を清水にて洗ひたると洗はざると孰れにても宜し消毒後は清水にて洗ふに及ばず

(三)蟻酸アルデヒード液にて消毒したる物品は直ちに日光に曝露せずなるべく久しく堆積するを要す之れ直ちに曝らせば瓦斯飛散す

(四)酒（アルコホール）は殺菌の効あれども頗る濃厚のペルセントを有する者なる可し蓬は恐らくは消毒の効なかるべし

(五)若朮の殺菌力の有無は試驗せしことなしそれより奏効確實なる藥品を用ゆるを可とす

●上簇中の溫度に就き質問

島根縣八束郡二子村　大日本蠶絲會員　門脇雅雄

蠶兒上簇の時低溫度なれば絲を吐き盡さずして蛹化すと云ふ說あり然れども六十八九度の溫度にて上簇したる繭を剪り其蛹を切解したるに一も絲線を認めず然らば右の溫度にても悉皆絲を吐き盡したるものなるや又蛹に化すれば絲線も他のものに變化するものなるや

答　大日本蠶絲會技藝委員　芝山直清

上簇中の溫度六十八九度なれば絲を吐出す蓋し溫度低きときは絲を吐ずとの說は六十度以下の低溫を云ひしものならん又溫度低きも絲腺は他に變ずるものにあらず

●外報

●米國に於ける養蠶業

（三月十九日附在桑港帝國領事館公報）

米國加里福尼亞州の蠶業に關し過日ロス、アンセルス市商業會議所の例會に提出されたるカリー、ウヰリアム夫人の斯業に關する意見書は斯業者の參考と

なるべきものなるを以て左に譯記せんとす

蠶業は之を大別すれば三種となる

第一　蠶種製造

第二　製絲

第三　絹布製造

右三業は各相應に開發振張すべきものにして且つ之に要する勞力に對し充分の報酬を收領すべきものなり

歐洲及亞細亞洲の蠶業は最近四五十年以内に於て蠶病の爲に殆ど全滅せられたることあり當時日本國は數年間に蠶種を以て八千五百萬弗を獲得せり實に其の頃大洋を航行せる大汽船數隻は蠶種のみを積荷として五十萬磅の保險を附せしことありたり

當時佛國政府は右蠶病の原因を闡明し之が驅除法を發見することに努力し有名なる科學者パストール氏を聘雇し巨額の費用を投じて科學上の研究を爲さしめしに其結果頗る觀るべきものありしが該病は尚ほ未だ全滅に至らずして歐亞兩洲養蠶國の中に其の痕跡を止むるを見る

其後數年にして南濠洲陸軍大佐チヤーレス、ブラッヂー氏蠶業に傾心し歐洲より最良の蠶種を輸入し數年間孜々として研究の功を積み以て世界無比の良蠶種を製出せり此蠶種より得たる繭は絹絲千八百碼を生じ一蛾の產卵數は二百五十顆乃至六百顆なり卵子一オンスは蠶兒四萬に相當し其代價は三弗五十仙乃至六弗なり

歐亞兩洲に於ては蠶病の爲に二割五分乃至五割の損失を見積るを常とす然るに布哇島、ヲヨーシヤ、フロリダ其他諸州に於て飼育せるサン、ヂエーゴの蠶種は僅に一分の損失を示せり

最大養蠶國は清國にして日本國之に次ぎ伊國其次位に居る清國に於ては蠶種製造法蠶兒飼育法製絲法とも近年進歩改良せし所甚だ鮮し之に比すれば日本國は蠶業其他文明に進むべき諸般の事物に對して着眼すること頗る高しとす伊國は蠶種の供給を多く日本國に仰ぎ一噸六萬弗の價格にて毎年七十噸乃至八十噸を購買す清國は最近數年間蠶病の爲に大に其の產額を減少せり同國政府は目下其驅除法を講究中なりと雖も何等の結果を收むべきや未だ知るべからず

養蠶は富國の基なり何となれば多數の民生に職業を授くるを以てなり

十三世紀中木綿の印度より支那に入るや土人之を利とし四千年間成効を收め來りたる蠶業を捨てゝ綿業に從事したり然れども十七世紀に至て再び比較的愉快にして且つ利益多き蠶業に就けり

清國に於ける內國用絹絲の產額頗る多し然れども之が精細なる統計に至ては之を知るに由なし清國に於て使用の織布類及衣服は大概絹絲を以て製造せるものなり後年に至ては我國に於ても事此の如きを見るべし南方諸州に於て殊に然りとなす何となれば同地方に於ては人蠶業の重要なるを醒覺し近年の設立に係る製絲工場に於ては職工として黑人を試用するの氣運に向ひたるを以てなり

養蠶に就ては何等の神秘あるなし常識に依り且つ判斷力を勞するは他の事業に於けるが如く必要なりとす而して左に記する數箇の簡單なる規則を遵守すれば最上の結果を見ることを得べし

第一　就眠中の外時を定めて善良なる食料を多量に給すべし就眠中は靜に休養せしめ多量の光線を入らしむべからず

第二　養蠶室內の溫氣は常に純精新鮮なるを要す數日毎に新鮮なる有加利樹葉を用ゐて熏蒸法を施し病毒の驅除を圖るべし此場合に於て蠶兒は厚く煙を被るも些少の害を受けざるが如し然れども煙草の煙に至ては之に觸るゝもの皆斃死す

右熏蒸法を執行するときは通風器を開て煙を戶外に出さしむべし

第三　室內の溫度は晝夜異變なく華氏七十度なることを要す

第四　毎日一回清潔なる盤器に蠶兒を移し三時間又は四時間毎に清潔乾燥なる桑葉を給すべし蠶兒は直接に日光及外氣に當らしむべからず

以上の諸規則を遵守し其他仔細の事に就て注意を懈らざるときは當地方の氣候に在ては毎年八九ヶ月間毎日毎十日又は毎三十日に成繭を收獲することを得べし

南方カリフォーニヤ州に在て桑樹は他の農產物と同樣の耕作法及灌水法を用ゐて善く成長せしむるを得植樹法及剪枝法宜きを得れば十二月と雖も五月と同樣なる軟葉の收穫を見ることを得べし桑樹の種類異なるに因り成繭に大なる相違あり波斯桑は粗鬆なる葉と大形の光澤ある黑色の子實を有し頗る强靭粗鬆なる絹絲を生じ蠶兒をして二十五日乃至二十七日間に成熟せしむ

シリヤに於ては蠶兒疾病の觀あるとき此桑葉を給し常に元氣回復の効を收むと云ふ

諸般の準備善く整頓するときは三十日乃至三十五日毎に成繭を市場に持出すことを得べし新繭は直に製絲の用に供すべく又之を乾燥して後日の使用に供する爲に貯藏し置くことを得べし

製絲の第一着歩は繭より絲を抽出するに在り絲は繭の外面より連續して離れ出づるものにして長さ二百五十碼乃至千八百碼あり此等の細絲を撚合はすを製絲と云ふ

茲に看過すべからざることあり外國より輸入に係る價格數百萬弗の絹絲は稍して生絲と云ふと雖も實は

上記の製法を經たるものにして二割五分丈製造を了したるものなり隨て其趣を送狀に記入すべきものなり然るに送狀に生絲と記載し勿論無稅にて輸入せらる米國絹物協會の統計を視るに千八百九十九年十二月中紐育港を經て製造業者の絹絲絹布類を輸入したる價格は有稅品百九十九萬二百二十七弗にして無稅の生絲類は

生絲	一、一九一、七六七弗
繭	五、二四四
屑絲	二一、一六〇
合計	一、二一八、一七一

なりとす

右の內生絲と稱して輸入せられたる撚絲價格百十九萬千七百六十七弗のものは實際二割五分丈製造を經たるものにして送狀に其趣を記載するを要し且つ其割合を以て課稅するを要せしものなり眞に生絲と云ふべき輸入品は繭及屑絲なりとす苟も器械の運用に成りたるものは之を生品と看做すことを得ざるなり然るに南北戰爭以來我官吏は絹物製造業者の爲に常に此事を默許せり該聊爭以前には撚絲は一割乃至一割五分の稅を課せられたり撚絲は今送狀中に記入せられざるも再撚絲は則ち之に記入せらる而も撚絲あるや明瞭なる事實なりとす今や此曲事を矯正するの時機到達せりと云ふべし

昨年中タコマを經て輸入せられたる生絲（撚絲）の價格は二百三十四萬七千六百六十五弗三十二仙にしてサン、ヂエーゴより入りたるもの數千弗ありたり

里昂絹物製造業協會の調査に據れば千八百九十八年中全世界の產出に係る生絲は濠洲及南北亞米利加洲の分を除き三千四百五十八萬三千五百五十五封度ありたりと云ふ

今之に乘ずるに生絲一封の平均價格五弗を以てすれば一億七千二百九十一萬七千七百七十五弗となる之を絹物絹絲の小賣年額六億弗より引くときは四億二千七百八萬二千二百二十五弗となる此金額は即ち製造業者及商業者の手に入るものなり

數年前迄は合衆國中絹物製造所の數四百餘に過きざりしも今や七百餘の上に出で此製造の行はれ居る州の數十九を見るに至れり而して絹絲製造工場を有する町村の數は凡二百三十なり

米國は世界の最大絹物製造國なりとの評あり又最大の養蠶國となることを得べし何となれば目下野獸蛇蝎の棲所たる未開の土地數百萬町歩を有するを以てなり

ベンシルヴェーニヤ州に於ては人蠶業の重要なるを覺し目下製絲工場の他洲及歐洲より此洲に移轉せらるゝ者頗る多きが故に今より五箇年の後には斯業に於て國內第一に位するに至るべしと豫言する者あり然れども產繭に於ては充分の成効を見ることを得ざるべし尤も今より七十五年前にスチーヴン、タロールド氏が養蠶業を起すの目的を以て輸入したる彼のタロールド園は頃日再び桑樹植付を見たりタロールド氏が養蠶を試みたる當時に於ては之を記錄に徵するに蠶兒成長して二吋半に達し成熟に至る迄四十二日を要せり然るにサン、ヂエーゴに於ては蠶兒二十四日の成熟期を以て四吋の長さに達するを常とす余は實に本年一二月の交に於て四吋の蠶兒を得たり

太平洋沿岸に於て三十三年前初めて養蠶業を起したるルクネス、ヴロヴオスト氏曰く余は或時獨力を以て十萬頭の蠶兒を飼養し各兒皆善く成繭するを見たり佛國又は伊國に於て此事を爲すには八人の勞力を要せしならんと勞力に於て此の如き差等あるは氣候の佳良なると桑葉の容易なるとに由るなり

ヴロヴオスト氏の時代に於てはサン、ヂエーゴの最良健康地たることは未だ世の知る所とならざりしなり乾燥健全の氣候と豐饒の土地とは養蠶業に缺べからざる二大要素たり而して此地方が此二者を有するや疑なし四萬頭の蠶兒（蠶種一オンスの產出）を飼育して成繭せしむるには要する所の桑葉千五百乃至千七百封度にして桑葉は同一の桑樹より少なくも一年に三回收納することを得べし而して相當の町數に桑樹を植付け相當の屋舍を設備すれば一年に八ヶ月は連續して蠶兒を飼育することを得べし

日本國養蠶業者が昨年中收めたる純益は千萬弗に達せりサン、ヂエーゴに於て苟も少しく奮發すれば數年以內に之と同一若は之に超過する所の利益を收むることを得るに至るべし而も是迄從事し來りたる何等の業務をも廢するの要なかるべし

世界中當地方より健全なる蠶種を產する地なきに因り當地方は久しからずして世界の蠶種地となるに至るべし

絹布の需要は駸々として增加の勢あり其の製造業は世界大產業の一にして數百又數千の男子女子及小兒に職業を授くるものなり

サン、ヂエーゴに一個の絹物製造所を起すは目下の急務なり之を爲す頗る容易にして且つ一たび其の起るを見れば之に倣ふて起るもの續出すべし蓋し此地の繁榮を增し市外地の開拓を助くること蠶業の如く有力なるものは他に其比儔を見ること能はざるべし

乾燥したる繭二封度半乃至三封度より撚絲一封を得乃至十二碼を製造し得べし

布哇島玖瑪島及比律賓群島は養蠶地として既に滿足

なる實驗を經たるものにして米國に其市場を求めんと欲するものなり我地方は門戸の地に在り故に右諸島蠶業產物の集散を企劃するに於ては一大利益を收むることを得べし

（本會報第九拾四號雜報欄內米國に於ける養蠶の成蹟參照）

●上海蠶絲商況年報

（在上海帝國領事館六月十九日附公報）

本期間上海より諸外國へ輸出せし各種の蠶絲は總計十萬八百十五捆にして近年の最多額なり之を前期即ち一昨三十一年六月より昨三十二年五月に至る一年間に比すれば其增加額一萬四千八百三捆にして更に過去十箇年間の平均輸出高と對比するに二萬二千六百六十捆の增加なり今重要なる蠶絲取引の槪況を述べんに本期間白絲の輸出高は每捆八十斤入六萬五千六百捆にして之を過去の記錄に徵するに明治十三年六月より同十四年五月に至る十箇年間七萬七千百八十三捆の輸出ありしを除く外最多額を示せり而して本期末に於て當地市場に殘存せるもの尙は凡そ四千五百捆ありしを以て本期間實際輸出し得べき高は殆ど七萬捆に達し之を期初の見積高と對比するに凡そ一割二分の增加なり蓋し例年內地に於て銷費せらるべきものも本期間當市場の絲價高かりしため轉じて當市場に輸送せられ此の如く增加の結果を見るに至りしならん

白絲の內七里絲の冠たる金鹿麟牌の取引は本期に於て蠶絲取引上一新事例を開けり即ち新絲の未だ市場に現れざる以前盛に先約物即ち定期取引行れたること是れなり是を以て五月末日までに約定濟と爲りしもの旣に二萬五千捆あり六月末日には三萬五千捆即ち本期間白絲全取引高の半額以上に達せり而して其過半は約定後絲價槪れ騰貴せしも悉皆實際の受渡を了したるは以て賣主が如何に信用を重んずるかを知るに足る曩に三月初先約物の約定成りたる噂ありしも其確報を得たるは凡そ一箇月の後にして初回の取引相場は五百五兩乃至五百十兩なりしが四月末には騰貴して五百三十五兩と爲れり其頃より需要稍々衰へ隨つて絲價も漸次下向して六月中旬には四百九十五兩となれり市況は其儘沈靜の狀態にて凡そ四箇月を持續し更に一般の需要現るゝに至りしは十一月に入りたる後なりしが賣手の意外なる高直を唱へ居りしため買手は頗る躊躇の姿なりき即ち同月末に於ける金鹿麟牌絲の相場五百八十五兩にして引續き一月上旬頃までは捗々しき手合なかりしが同月中旬に至り弗々買手現れ金鹿麟牌五百九十兩にて投機的取引あり清曆新年後は五百九十五兩にて二十捆の手合ありしのみにて爾後殆ど記するに足るべき取引なく價格も漸次下落しつゝ遂に金鹿麟牌四百七十六兩四分一に小口取引ありて本期の終了を告げたり

今過去四期に於ける金鹿麟牌絲每封の最高最低、及平均英貨相場を對照すれば左の如し

相場＼期別	自三十二年至三十三年 志	片	自三十一年至三十二年 志	片	自三十年至三十一年 志	片	自二十九年至三十年 志	片
最高	一四	二	一二	五	一〇	一〇1/2	九	四
最低	一一	三	九	二	八	一〇1/2	八	九1/2
平均	一二	九	一〇	八	九	九1/2	八	一〇1/2

又本期間各種蠶絲の取引高を示せば左の如し

七里絲	二七,〇〇〇捆	無錫絲	四,五〇〇捆
杭州及海寧絲	一六,〇〇〇	漂陽絲	二,五〇〇
嘉興絲	七,〇〇〇	坐繰絲	一九,〇〇〇
		計	七六,〇〇〇捆

本期各絲の絲質は甚好なりしと雖も期初の市況好望にして需要盛なりしを以て之に應ぜんため匆忙繰方を爲し多少外觀の美を損ぜり

本期間坐繰絲の紐育へ輸出せしもの一萬五百三十捆にして前期輸出高六千三百六十捆に比し凡そ六割の增加なり而して前途の如く從來當市場の慣行上曾て其例を見ざる先約取引行れしを以て前記一萬餘

捆の內四千捆は三月下旬より五月末までに取引濟と爲りしものなり本絲の內花車牌は市價每擔六百九十兩に始り十月中七百七十五兩まで騰貴し歲末には八百六十兩と爲れり又里昂向本絲は六百三十兩に始り歲末には七百八十兩に上り本期より後期へ繰越在荷高は凡そ二千捆なり

器械絲も他絲に伴ひて騰貴し上品にて最初八百二十兩なりしもの千兩まで上れり本期に於ける器械絲輸出高は總計一萬千三百六十四捆にして前期に比し三千餘捆の增加なり

黃絲も絲質、產出額及需要共に好況にして相場は綿州最上品にて三百八十五兩より漸次四百二十兩まで騰貴せり輸出額は一萬四千四百七十三捆にして前期に比し五十餘捆の增加とす而して殘荷は殆ど皆無なり

野蠶絲は立枠最上品は百七十兩より漸次下落して百三十七兩二分一と爲り八關燃合最上品は初上騰して四百兩に達せしも中頃より下落して終に百五十兩と爲れり輸出高は一萬二千二十一捆にして前期に比し四千二百四十捆の減少なりとす

左に過去五期間上海より諸外國に輸出せし各蠶絲の捆數を示す但し白絲歐洲向は每捆八十斤、米國向は百斤を包容し其他黃絲、器械絲、野蠶絲は仕向先の如何に拘らず總て每捆百斤を包容するものなり

白、黃絲輸出高

絲別＼期別	自三十二年至三十三年	自三十一年至三十二年	自三十年至三十一年	自二十九年至三十年	自二十八年至二十九年
白絲	六二,九五七捆	五三,四五九捆	四四,二一〇捆	四八,五九〇捆	五五,〇〇〇捆
黃絲	一四,四八三	八,九九八	九,二〇八	七,〇三八	一三,六六一
計	七七,四四〇	六二,四五七	五三,四一八	五五,六二八	六八,六六一
右仕向先					
倫敦	六,〇四四	二,一二四	一,六六二	二,八六六	三,三八四
佛國	三五,二二四	三三,六六六	三七,二九一	三〇,一九一	三六,六五一
伊國及瑞西	一〇,八四〇	一〇,三三八	七,六八四	一〇,九二三	八,五四五
獨國	一,四三五	一,四四〇	二,三三六	—	—
米國	一〇,五五〇	六,五五〇	六,一六九	五,五九四	七,七〇〇
孟買及其以東諸港	八,一九二	六,四四九	五,七七六	三,八八七	八,四四四
清國海岸諸港	五,一五七	二,〇〇〇	二,四七〇	二,二六五	三,六九七
計	七七,四四〇	六二,四五七	五三,四一八	五五,六二八	六八,六六一

器格絲歐米仕向輸出高

歐洲	六,九八二	四,六三五	四,六二五	四,五九五	二,一三五
米國	四,三七二	三,三六七	五,八八四	四,〇六六	四,三五〇
計	一一,三五四	八,〇〇二	一〇,五〇九	八,六六一	六,四八五

野蠶絲輸出高

輸出先不明	一三,〇二三	一六,五五三	一一,九七七	一一,三〇六	一〇,二六八

又廣東より過去五期間に輸出せし蠶絲の捆數を仕向先に依り區別すれば左の如し但し歐洲向の分は每捆八十斤入、米國向は三十年乃至三十一年期までは每捆七十五斤入、三十一年乃至三十二年期以降は每捆八十斤入にして印度向は百斤入なり

仕向地＼期間	自三十二年至三十三年	自三十一年至三十二年	自三十年至三十一年	自二十九年至三十年	自二十八年至二十九年
歐洲	三四,一四六捆	三四,三〇八捆	三四,四七五捆	三三,五九七捆	一九,五五三捆
米國	一〇,七三四	一三,一八一	一三,三八七	一五,四三五	九,八八二
印度	三,八二三	四,三〇〇	一,八〇九	一五,五五二	二,九六〇
計（八十斤入換算の）	四八,六六五	五一,八〇四	四八,三三九	五五,〇八〇	三二,四三五

●里昂蠶絲市況

（在里昂帝國領事館四月十六日附公報）

相場騰貴の時に當りて買手は屢々實際入用高以上の量を仕入るゝことあり數月前の騰貴期に於て殊に然るが如し

最近三箇月間里昂地方の織物業は其前期より引續き槪して盛況なりしに拘らず生絲市場に活氣を傳へざりしは蓋し前項の推測を確め得べき事實なるべし

織物業者所有の原料生絲高は現今に於て著しく減少せるものゝ如しと云ふ而して是に拘らず三月中需も生絲市況の間復た見ざりしは蠶し同月中最常寒氣のため組織物の新注文なかりて遲延せしめしこと其一原因なりべしと云ふ

然るに道し氣候春暖に向ひ織物小實も漸々に至れば夏に織屋は新注文を受くるに至るべく從て生絲市況亦同復すべしと目下一般の景期するものゝ如し

生絲相場は頃來益々下落して現今は昨年の同期に比し尚ほ遠く在ること僅に左記の程度と爲るに至れり

欧洲及日本絲　百分の二乃至六　座東絲　百分の三乃至十

支那座絲　百分の一乃至五

歐米生絲相場は左右すべき出勢力は買方注文の多少と次期收繭見込の強弱とに在るが如し

本年三月中の相場對照表を左に掲ぐ但し表中の相場は九十目乃至百目撚の相場なり（表中法定なし以下同様位とする）

	三十二年四月七日	三十三年三月七日	三十三年四月七日
歐洲蠶絲			
佛蘭西			
生絲（ヴヤエンヌ）最上等	7/6	7/6	7/6
伊太利			
生絲 最上等	7/6	7/6	7/6
最上等	7/6	7/6	7/6
歐細亞產生絲			
支那			
Italian No.3 (nisi to kiri)	三六・三七	三五・三六	三五・三六
Italian filatures novella No. 2 & 3	三六・三七	三五・三六	三五・三六
Italian filature No.	六・七〇	四・四〇	四・四〇

日本

機械製			
No. 1 best	17/18	四三・四四	四六・四七
No. 2	15/16	四二・四三	四四・四五
No. 3	13/14	四〇・四一	四二・四三
No. 4	11/12	三六・三七	三八・三九
short reel	14/15	三六・三七	三八・三九
最上等	17/18	三一	三一
一番	15/16	三一	三一
一番半	13/14	三〇・三一	三一・三二
機械製 同	11/12	三〇・三一	三一・三二
一番	9/10	三〇・三一	三一・三二
二番	17/18	三〇・三一	三一・三二
同	15/16	三〇・三一	三一・三二
二番	13/14	三〇・三一	三一・三二
同	11/12	三〇・三一	三一・三二
二番	9/10	三〇・三一	三一・三二
一番半	17/18	四九・五〇	四九・五〇
掛田絲	15/16	四九・五〇	四九・五〇
二番	13/14	四九・五〇	四九・五〇
（備考）	11/12	四八・四九	四八・四九

撚絲に關する價格は唯す本會報第九拾壱號本欄參照

◉雜報

◉練木高橋前兩幹事に銀杯を贈る

練木喜三高橋信貞兩氏は大日本蠶絲會創立の際より翼賛せられ幹事に當選以來孜々として會運の隆興を圖り會務の整頓を努められたりしが今回滿期退任せられたるにより同會幹事長は其勞に酬ゆる爲め評議員の協賛を經て銀杯一箇に感謝狀を添へ贈呈せられたり今左に盛謝狀の寫を掲げん

拜啓時下向暑之候益御清健之段欣賀之至に存候隙ば貴下本會幹事に御當選以來孜々として會務に鞅掌せられ候處今回滿期御退任に相成其情別の情に禁へず候押ミ本會の會運大に振興し會務漸く整頓するに至り候は畢竟貴下鋭意御盡力の結果に外ならざる儀と本會々員一同深く感謝する所に御座候依て聊か謝意を表する爲め評議員會の議決に據り銀杯一箇贈呈致候間御銷收被下度候右御挨拶迄如此御座候早々敬白

明治三十三年六月八日

大日本蠶絲會幹事長　岡　穀

練木　喜三殿
高橋　信貞殿　（各通）

◉技藝委員囑託

大日本蠶絲會にては規則第四章第十五條に據り本月十日同會特別會員田島棟平、高橋元助、山本竹藏、町田穣、農學士須田金之助の五氏に技藝委員を囑託せり

◉蠶業講習所蠶兒（第三報）

東西兩京に於ける蠶業講習所共に本年の蠶兒は極めて佳良なりし今前號に掲載以後の詳兒を摘錄すべし（本會々報第九拾六號本欄參照）

▲東京蠶業講習所　本齡即ち第五齡中に於ける天候は概するに其前半季に於ては降雨連日歇まず隨て低溫多濕なりしが故に蠶兒の發育遲緩なりしと雖も其後半季は降雨少く晴天多かりしを以て蠶兒は良好の發育を遂げ無事上簇を了れり要するに蠶兒掃立以後本齡の如く降雨の多かりし天候を見ざりしなり然れども五齡中は寡濕低溫に其經過日數の多きを可とするものなるを以て本齡の天候にして降雨寡く濕度亦隨て少かりければ本年の氣候は養蠶上一の缺點なかりしなるべし

今本齡中に於ける室外の溫濕度等を表示すれば左の如し

月	日	晴雨		溫度		濕度	
五月	二十七日	曇	最高	七〇度	最高	五八度	
	二十八日	曇	最低	五九	最低	七六	
	二十九日	曇雨	最高	七二	最高	六四	
三十日		曇雨	最低	六九	最低	八八	
三十一日		雨蠶	最高	六一	最高	八八	
六月一日		蠶晴	最低	五九	最低	七二	
二日		蠶	最高	七六	最高	五四	
三日		晴	最低	五四	最低	九四	
四日		蠶晴	最高	七九	最高	五一	
五日		晴蠶	最低	五七	最低	九四	
六日		雨蠶	最高	七四	最高	六一	
七日		晴	最低	五七	最低	八三	
平均				六七・一〇〇		七八	

原種用蠶兒の經過　角叉種は平均溫度六十九度、同

濕度八十四度にして本齡餉食より其終熟に至る經過日數は八日、小石丸種は平均溫度六十九度七、同濕度八十度三にして其經過日數は角又種と同じく八日を要し青熟種は平均溫度六十九度、同濕度八十二度四にして其經過日數七日十九時間を要せり今各種本齡中に於ける經過の大要を表示すれば左の如し

種別	日標　第五齡餉食月日	催熟月日	終熟月日	給桑回數	蟻一匁に對する給桑量
角又	五月二十七日午後二時	六月三日午前十時	六月四日午後二時	四〇	二九、九一五匁
小石丸	五月二十八日午後十二時	六月五日午前五時	六月五日午後十二時	四〇	三五、二五〇
青熟	五月三十日午前十時	六月六日午前五時	六月七日午前五日	三九	三一、七八八

傳習室に於ける蠶兒の經過　本科二年は平均溫度六十八度七、同濕度八十三度三にして本齡餉食より終熟に至る經過日數は七日十八時間、本科一年は平均溫度六十九度七、同濕度八十二度三にして其經過日數は七日二十二時間、別科に在りては甲組即ち青熟種は平均溫度七十度六、同濕度八十二度八にして其經過日數は七日十五時間、乙組即ち小石丸種は平均溫度七十度五、同濕度八十一度二にして其經過日數は青熟種と同しく七日十五時間を要せり今本齡中に於ける經過の大要を表示すれば左の如し

級別	日標　第五齡餉食月日	催熟月日	終熟月日	給桑回數	蟻一匁に對する給桑量
本科二年(角又)	五月二十六日午前五時	六月四日午前五時	六月四日午後十二時	三九	三三、九〇二匁
本科一年(小石丸)	五月二十九日午後六時	五月五日正午	六月六日午後四時	三九	三五、二三九
別科甲組(青熟)	五月二十八日午後十二時	六月四日午後二時	六月五日午後二時	三八	三五、四二六
前科乙組(小石丸)	五月二十八日午後十二時	六月四日午後二時	六月五日午後二時	三八	三四、八五九

蠶兒の上蔟より其收繭に至る間即ち上蔟中に於ける天候は概するに晴天多くして溫度及濕度亦其當を得たるものと謂ふべきなり乃ち室外に於ける溫濕度等を表示すれば左の如し

月日	晴雨	溫度 最高	溫度 最低	濕度 最高	濕度 最低
六月四日	曇晴	七九度	六二度	九四度	四二度
五日	晴曇	七六	六一	一〇〇	四八
六日	雨	七四	五七	一〇〇	八三
七日	晴	七四	五七	九三	七八
八日	晴	七六	四五	一〇〇	四五
九日	晴	七六	五一	八八	四三
十日	晴	七八	五六	九四	六四
十一日	曇雨	七〇	六一	一〇〇	八三
十二日	曇晴	七九	六〇	九四	六一
十三日	晴	七九	六二	九四	六一

今原種用蠶兒及傳習室蠶兒の上蔟中に於ける經過の大要を表示すれば左の如し

種別及級別	上蔟月日	收繭月日	平均溫度	平均濕度
原種用角又	六月四日午後二時	六月十日午前十時	七〇度	八二度
原種用小石丸	五日午後十二時	十二日午後二時	七〇	八三
原種用青熟	七日午前五時	十二日午後二時	七〇	七八
本科二年(角又)	四日午後十二時	十日午前十二時	七〇	七九
本科一年(小石丸)	六日午後四時	十二日午後二時	七〇	七六
別科甲組(青熟)	五日午後二時	十一日午後二時	七〇	八一
別科乙組(小石丸)	五日午後二時	十一日午後二時	七〇	七九

(備考)　上蔟月日は終熟月日にして收繭月日は其收繭を終りたる時を記入せり

面して其收繭額を舉ぐれば原種用蠶兒蟻量一匁に對し角又種は二斗一升一合五勺、小石丸種は二斗六升二合にして青熟種は二斗四升九合一勺なりき倘ほ其收繭の容量及衡量左の如し

種別	掃立蟻量	收繭額 容量	收繭額 重量
角又	三・〇匁	六・三四五〇斗	六、三九九匁
小石丸	六・〇	一五・七二〇〇	一七、八四六
青熟	三・〇	七・四七三三	七、七二八

傳習室に於ける蠶兒は蟻量一匁に對し本科二年は二斗六升三合九勺、本科一年は二斗七升九合五勺、別科甲組は三斗三升五合九勺、同乙組は三斗一升五合七勺なり倘ほ其收繭の容量及衡量左の如し但し別科に在りては二齡餉食に際し蠶數を調査し傳習生一人に附き六千五百頭を割當て蟻量七分として爾後の取扱を爲せり

級別	掃立蟻量	收繭額 容量	收繭額 重量
本科二年(角又)	二八・二匁	七四・四一一斗	七八、五〇四匁
本科一年(小石丸)	一七・一	四七・七八六	五二、七七六
別科甲組(青熟)	一六・八	五六・四二五	五八、三七一
別科乙組(小石丸)	一四・〇	四四・二〇〇	四七、五六九

今掃立より收繭に至る間の天候に就きて觀るに概ね頁好にして唯其第四齡後半季より第五齡前半季に亘るの間に於て陰雨ありしのみなりしが故に克く蠶兒の生育に適し豐饒なる收穫を見るを得たり倘ほ全齡を通じて蠶兒の經過を概揭すれば左の如し

原種用蠶兒に在りては角又種は五月三日午前十一時掃下し飼育日數三十二日と三時を要し六月四日午後二時悉皆上蔟を了れり而して平均溫度七十度三、同濕度七十五度八にして其給桑回數百七十二回、蟻量一匁に對する給桑量は三十七貫六百十七匁六分を要し二斗一升一合五勺の收繭を得たり

小石丸種は五月三日午前十一時掃下し飼育日數三十三日と十二時を要し六月五日午後十一時悉皆上蔟を了れり而して平均溫度七十一度三、同濕度七十三度二にして其給桑回數百七十八回、蟻量一匁に對する給桑量は四十四貫九百十匁七分を要し二斗六升二合の收繭を得たり

青熟種は五月四日午前十一時掃下し飼育日數三十三日と十八時を要し六月七日午前五時悉皆上蔟を了れり而して平均溫度七十度三、同濕度七十五度五にして其桑給回數百七十四回、蟻量一匁に對する給桑量

は四十貫八十九匁九分を要し二斗四升九合一勺の收繭を得たり

傳習室に於ける蠶兒に在りては本科二年の飼育に係る角又種は五月三日午前十一時掃下し飼育日數二十二日と十二時を要し六月四日午後十一時悉皆上蔟を了れり而して平均温度七十度二、同濕度七十五度七にして其給桑回數百七十一回、蟻量一匁に對する給桑量は四十二貫七百四十七匁九分を要し二斗六升三合九勺の收繭を得たり

本科一年の飼育に係る小石丸種は五月四日午前十一時掃下し飼育日數三十二日と五時を要し六月六日午後四時悉皆上蔟を了れり而して平均温度七十一度、同濕度七十三度六にして其給桑回數百七十二回、蟻量一匁に對する給桑量は四十四貫四百七十七匁三分を要し二斗七升九合五勺の收繭を得たり

別科甲組の飼育に係る青熟種は五月四日午前十一時掃下し飼育日數三十二日と三時を要し六月五日午後二時悉皆上蔟を了れり而して平均温度七十一度三、同濕度七十七度四にして其給桑回數百六十四回、蟻量一匁に對する給桑量は四十四貫七百七十一匁四分を要し三斗三升五合九勺の收繭を得たり

別科乙組の飼育に係る小石丸種は同甲組の飼育せる青熟種と其掃立月日及上蔟月日相同しきを以て其飼育日數亦等しく平均温度七十一度六、同濕度七十五度八にして其給桑回數百六十四回、蟻量一匁に對する給桑量は四十四貫四百三十一匁九分を要し三斗一升五合七勺の收繭を得たり

▲京都蠶業講習所

試驗室蠶兒飼育　本室蠶兒第五齡中は雨天一日、曇天二日、晴五日にして温度稍々低かりしも蠶兒は毫も異狀を呈せず高温室は六日と十四時三十分間、普通室は七日と四時間を以て本齡を了れり今五齡中の氣候及蠶兒發育の概況を示せば左の如し

	最高温度	最低温度	平均温度	最高濕度	最低濕度	平均濕度
天然氣候	八七	六〇	六九	九四	四二	六八
普通室	七八	六五	七二	八八	六五	七七
高温室	八二	六四	七五	九四	五七	七五

	餉食日時	催熟日時	終熟日時	齡中日數
普通室	五月二十三日午後十二時	五月二十九日午後二時	五月三十日午後六時	七日と四時間
高温室	五月二十日午前四時三十分	五月二十五日午前五時	五月二十六日午後七時	六日と十四時三十分

今掃立より上蔟に至るまで氣候及飼育日數を擧ぐれば左の如し

	温度			濕度			飼育日數
天然氣候	八四	四八	六六	九四	三二	七〇	—
普通室	七七	六四	七二	八六	五八	七二	三十日と十七時間
高温室	八一	六六	七九	七七	四八	六二	二十六日と五時間

而して試驗各室に於ける收繭額左の如し

第一室	一六四・五〇	一七、二七三
第二室	一三二・六九	一三、九三三
第三室	一五三・二四	一六、〇九〇
第四室	八五・四〇	八、九六七
第五六室	二八〇・七一	二九、四七五
第七室	三一六・五〇	三三、二三三
病蠶室	七七・三〇	八、〇八八
計	一、一二〇・〇七	一一七、〇五九

傳習室蠶兒飼育　本科生擔當蠶室の温度は平均七十度、同濕度は七十八度にして蠶兒は本月二日午後八時催熟、同四日午後二時終熟、八日と九時間を以て五齡を了り別科生擔當蠶室內の温度は平均七十一度、同濕度は七十九度にして蠶兒は同一日午後五時催熟、同三日午前六時終熟、八日間を以て五齡を了れり今其經過の概況を示せば左の如し

	餉食日時	催熟日時	終熟日時	齡中日數	給桑回數	蟻量一匁に對する給桑量
本科生(青熟)	五月二十七日午前五時	六月二日午後八時	六月四日午後二時	八日九時	四一	四一、三五二匁
別科生(小石丸)	五月二十六日午前六時	六月一日午後五時	六月三日午前六時	八日	四〇	三六、七一七

今掃立より上蔟に至るまでの室內平均温度、同濕度及飼育日數、給桑回數、給桑量を擧ぐれば左の如し

	室內平均温度	室內平均濕度	飼育日數	給桑回數	給桑量
本科生(青熟)	七一	七三	三十三日四時間	一七〇	五二、〇四二・五匁
別科(小石丸)	七一	七二	三十一日十九時間	一四四	四六、九五二・〇

而して傳習室に於ける收繭額左の如し

本科生	三〇二・五九	三一、七七二
別科生	八四一・四五	八八、三二五

●生絲檢查月報

橫濱生絲檢查所に於て四月中內外生絲貿易商及地方生絲製產者の請求に應じ檢查を施行せられしものは左表の如し

檢查項目	生絲種別件數 器械	坐繰	計	請求人員 內國人	外國人	計
原量、正量、再繰、纎度、類節、強力、伸度	二	—	二	二	—	二
原量、正量	八二	五	八七	三	—	三
再繰、纎度、類節、強力、伸度	九九	五	一〇四	一三	二	一五
再繰、纎度、強力、伸度	四一	四	四五	—	一	一
再繰、纎度、類節	四	—	四	—	一	一
再繰、纎度	九	二	一一	—	一	一
纎度、類節、強力、伸度	一	—	一	一	—	一
纎度、類節	四	—	四	一	—	一
纎度	四	—	四	三	—	一
合計	二四六	一六	二六二	二四	四	二八

右合計二百六十二件の內本檢查百九件、見本檢查百五十三件にして本年一月より四月に至る檢查件數は千八百六十十件なり

▲同所に於て五月中檢查を施行せられしものは左表の如し

檢査項目	生絲種別件數 器械	生絲種別件數 坐繰	生絲種別件數 計	請求人員 內國人	請求人員 外國人	請求人員 計
原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度	四	一	四	四	一	四
原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度	六七	九	七六	四	一	四
再繰、繊度、強力、伸度	一九	四	二三	一		一
再繰、繊度、類節	二	二	二	二	一	二
再繰、繊度、強力、伸度	一七	一	一七	一	一	一
繊度、強力、伸度	一	一	二	一	一	二
繊度	三	一	二	二	一	二
計	三七六	四五四	四〇一	三七	九	四五三

右合計四百十四件の內本檢査百十二件、見本檢査二百九十八件にして本年一月より五月に至る檢査件數は二千二百七十件なり

又神戸生絲檢査所に於て五月中檢査を施行せられしものは左表の如し

檢査項目	件數(器械)	請求人員(內國人)	請求人員(外國人)	計
再繰、繊度、類節、強力、伸度	八	四	二	六
繊度、強力、伸度	二二	二		二
計	三〇			

❸佛國の勞働時間改正と本邦製絲家

勞働時間に關しては學者間の一問題を構成しブレンタノ氏の如きは勞働時間愈短ければ生産力愈多しとの說を公にするあり歐洲に於ける各國政府も勞働時間制限の法律を實施するも多し斯の如き經濟問題に至りては大に其國の人情習慣等に關し斟酌すべきもの多ければ直に歐洲學者の稱賛を受け外國政府の亞流を酌むは贊成を表する能はざる所なりと雖も足一たび信甲兩州の如き煙突林立汽笛續吠の地に至り蒼顏の工女に對し一日十五時間以上の就業を勸ると云ふを聞くに至りては人をして虔に慄然なりとの感情を起さしむるものあり然れども製絲工業の如きは比較的奬勵の方法備りて工女を刺激するものあれば勞働時間長きに比し他工業に比すれば休憩の疲勞すること尠しと云ふ果して然らば幾時間の勞働を以て好適とすべきや今や我政府は工場條例を發布するの必要を感じ之が調査中なりと聞く、佛國勞働時間改正の飛報は遽なくも茲に數言の前提をなさしむ

佛國にては千九百年三月三十日付公布の法律を以て工業的勞働上女工及び十八歲以下の男女工保護に關する千八百九十一年十一月二日付の法律及男女工勞働時間制限に關する千八百四十八年九月の法律を改正したり其要點は左の如し

（甲）勞働時間を減少すること即ち目今女工及十八歲以下の男女を每日正味十一時間以上工業上勞働に使役することを得ず此每日の勞働時間は一回又は數回の休息を以て切斷せらるゝことを要す此休息の時間は通じて一時間に降ることを得ず但一日正味勞働時間制限（十一時間）本法發布二ヶ年後（一千九百二年三月三十日以後）は十時半同四ヶ年後（一千九百四年三月三十日以後）は十時間を越ゆることを得ず

（乙）千八百九十二年法律の定めたる夜業禁制の原則（女工及十八歲以下の男女工に對し）一層嚴にする事

（內）交代繼續式の勞働を禁ずる事

（丁）男工と他種工人と共働の場合には其勞働時間を均一にすること

❹桑園品評會

蠶業界に於ては斯業奬勵の手段として蠶種に關に將た生絲に品評會を開設すること他の生産物に比すれば遙に其數多きにも拘らず桑園に就ては未だ嘗て該會の設けられたることを聞かず然るに德島縣麻植郡にては昨明治三十二年より郡費を以て桑園品評會を行ひつゝあり其成蹟頗る良好なりと蓋し是れ本邦に於ける桑園品評會の嚆矢ならん今左に其規則を揭げて參照となさん

桑園品評會規則

第一條　本會は每年四月より翌年三月に開設す◎第二條　出品は本郡處在のものに限る、但本郡在住者の處有にして本郡接續の地にあるものは此限りにあらず◎第三條　一人にして數ヶ所出品することを得◎第四條　左に揭ぐるものは出品を許さず、一壹ヶ所五畝歩以下のもの、二植付後三ヶ年に滿たざるもの、三他郡市在住者の所有に係るもの、四前年出品し一等賞を得たるもの◎第五條　出品せんとする者は別紙書式の屆書を造り每年三月末日限り桑園地所在地の村役場を經て郡役所に差出すべし其期限を經過したるときは受理せず、但明治三十三年に限り屆書差出期限に四月末日とす◎第六條　審査は實地に就き左の三回に分査するものとす、第一回は其年四月五月中、第二回は其年八月九月中第三回は翌年一月二月中◎第七條　審査委員は四名とし內三名は郡長之を選囑し審査委員長及審査委員一名は郡書記郡吏員中より之れを命ずるものとす◎第八條　優等者は左の區分に依り賞與を授與す、一等大本杯、二等中本杯、三等小本杯、四等賞狀◎第九條　賞品は審査成績に依り其高點なるものより順次授與するものとす◎第十條　前年出品せし桑園は前年より審査成績の勝れるものにあらざれば賞與せず◎第十一條　褒賞授與式は第三回審査終了後本郡議事堂に於て執行す◎第十二條　出品の再審査を請求し又は授與の褒賞を返還する事を得ず◎第十三條　一人にして數ヶ處に於て褒賞を授與する場合に等差あるときは其中最優等なる一品に對し賞品を授與し其他の優等には等級相當の賞狀のみを付與するものとす

書式

出品　屆
何郡何村大字何村字何々
一桑　園　何反何畝歩
但種類何々　明治何年植込分
右は本年度御開設相成候桑園品評會に出品致度候間此段御屆仕候也
年　月　日
郡村大字何村何番屋敷
何　某　印
麻植郡長宛
村長奥印
但他郡に屬する分は出品人居住地村長の奥印とす

●世界の生絲供給高

近頃紐育より齎せる報道は去四月一日現在世界に於る生絲供給高百十四萬餘基にして昨年同時期に比し殆んど二倍なりと云へり尚ほ過去數年間四月一日の供給額を列記すれば左の如し

年次	斤量	年次	斤量
一九〇〇	一、一四九、六九三基	一八九七	一、三八四、五八二基
一八九七	五七三、九一六	一八九六	二、四三二、二二四
一八九八	一、一七三、一七八		

更に昨今兩年四月一日の現在額を區別すれば如左

	一九〇〇年	一八九九年
歐洲絲	二八一、五三二基	二三五、四九五基
日本絲	一八二、五二一	四二、六八八
支那絲	六八五、六四〇	二九五、七三三

目下紐育市場動靜觀察に強弱の二說あり強氣家は曰く絹物の需要は格別著しき增加盛況を現はさずと雖も平順に賣行あり從て機屋も遠からず原料たる生絲の買入に着手するらんと然るに弱氣の人曰く近き將來に於て絹物商業の盛繁を現すこと希望し難し殊に絹リボンは此頃不流行甚しく其他の絹布も嗜好の度を高めず故に市中の機屋は一週間中三日間のみ製造に從事するもの多しと又製絹家の云ふ處に據れば原料たる生絲の價格未だ高貴に過ぎ就中日本生絲を以て然りとなすと故に彼等は多くは日本絲を捨て支那及伊太利生絲を專ら使用する狀況なりと云ふ

●三重縣室山伊藤製絲場の繭購入

三重縣三重郡室山伊藤小左衛門氏（大日本蠶絲會技藝委員）の製絲場にて年々蠶繭購入に際し優等の繭を一石以上携帶し來りたるものには賞與を行はるゝを以て遠近を問はず良繭を收穫せるもの門前に馳集すと、是れ一面に於て繭購入の爲め出張する費用を省き座にして良繭を求むると一面に於て養蠶家を奬勵し改良に向しむるに効果を奏するものなれば製絲家たるもの悉く學で以て此法に則るときは蠶業界の一難問題として特て餘さるゝ種類の改善一定の如き敢て出來得ざるを苦むの要なからんか蓋し同製絲場の今日あるを致せしは全く此等の方法與て力ありと云ふ本年同場に於て賞金（賞金壹圓）を贈られし人員は七百十六名にして一志郡小畑長之助、河藝郡佐野重太郎、三重郡田中善次郎の三氏には賞金の外藏桝一組づゝを與へられたりと

●衡器改正の協定が賣買兩者に及ぼず影響

從來輸出生絲は和百斤に就き其價格を定むるに拘らず實際の取引は英の量目を盛りたる秤量に掛けて英斤を出し更に之を和量に換算して仕切勘定をなすの慣例をなせり然るに英秤量の上に於ける百斤の實量は和十二貫九拾五匁八分一厘に相當すれども之を和量に換算するときは世間普通の呼聲たる英一斤百二拾匁の比例を用るを以て英百斤に就き和九拾五匁八分一厘は購求者に取りて敢て享有すべからざる利益を穫得すれども販賣者に取りては當然收入すべき物品を消耗する奇觀を演じ來れり故に今生絲和百斤を千二百圓の價格として其隔差を通貨に見積れば九圓五拾八錢となる之を以て衡器改正の協定は生絲貿易上の弊害を矯めたること尠からざるものあり蓋し其弊害一の慣習を作りしを以て改正の協定頗る躊躇の狀を呈せしは止むを得ざりしものあらん而して協定後に看貫する衡器は生絲は和二百十斤秤屑物は五百斤秤を用ると云ふ（東京貿易生）

●島根縣蠶業講習所と羽前北進社蠶業傳習所

▲島根縣蠶業講習所　島根縣美濃郡高津村は縣下有名の養蠶失敗地なりしを以て特に此地を撰て蠶業講習所を置き東京蠶業講習所の紹介を以て山梨縣人堀內金太郎氏を招聘し專任教師とし同縣農事巡回教師海上靜氏之を監督せるが職員の老練懇篤と生徒の熱心勤勉とは兩々相須て未曾有の好果を奏したる以て同地有力者は此機に乘じ蠶業改善の方法を講じ郡立養蠶傳習所を設け巡回教師を置き益進歩の實を擧ぐるの計畫ありと云ふ（本會々報第九拾四號本欄參照）

▲羽前北進社蠶業傳習所　羽前國楯岡町北進社蠶業傳習所は近來生徒增加校舍狹隘を告げたるを以て更に屋舍を新築し過日其工を竣へたれば養蠶の上簇を期し六月廿九日其落成式を擧行し併せて簇中の成繭を縱覽せしめたり此日來賓は林田縣知事代理本田北村山郡長田中縣屬吉野山形縣農學校長其他郡書記警察署長學校長新聞記者等無慮百有餘名にして縣知事代理及北村郡長其他數人の祝辭朗讀あり社長松田宗兵衛氏の答辭あり頗る盛會なりしと尙同社の目的は單に生徒の養成のみに甘ぜず教師を派遣し蠶業の講話或は蠶種の檢査の依頼に應じ又蠶種の配布分教場の設立品評會の開設等もなすべしと云ふ

●本年の蠶況

曩に各地の會員に蠶況の通信を囑託し百忙中一閑を割りて煩したる報道は全國到る處掃立當時に於ては氣候不順にして桑葉の發芽遲延し之に加るに蠶兒の掃立量多く蠶業界は全く暗雲に覆はれ一點の光明も仰ぐ能はざるの觀ありしが蠶兒の三四齡頃に至ては

一轉して氣候順調に復し蠶兒は健全に發育し桑葉は頓に伸長し蠶桑能く其權衡を保ち本年も亦蠶業の萬歳を三呼するに至らんとの觀念を懷かしめたり更に經過は進み五齡に至りては桑葉缺乏の聲は四國、關東の或方面又奥羽地方に高く甚しきは一貫の桑葉三拾錢以上に達せし所あり爲に可憐の蠶兒を或は土中に埋め水中に葬りたるもの尠からずと傳ふ何たる慘聞ぞや露軍が支那の人夫を屠殺し船に積みて白河に流し之を燒棄したるに劣擬たり而して又關の東西各地より蠶兒面白からずとの報告を齎せしものありしも甚しき迷蠶にはあらざるが如し概して之を言へば蠶作は昨年に若かざるも先つ一般に佳良なりと云ふを辭せず故に收繭額も昨年に比し掃立量の多かりし丈夫れ丈幾多の增收をなせしならん然れども桑葉價格の昂騰に加て養蠶人夫の賃銀低からず是を以て養蠶の結果は良好にして玲瓏たる美繭累々たるも養蠶家の嚢中敢て重きを致さゞるなり絲況は沈滯絲價は下落すれども養蠶費用嵩まりし結果繭價案外不廉にして製絲家の原料購入頗る圓滑を欠き現今に於ける絲價と購入せる原料とは權衡を失するの傾きあり將來は如何將來の絲況は如何貿易上の觀察に一種の烱眼を有せる中外商業新報は此頃本年の蠶絲業なる題下に左の如き觀察を下せり

昨年生絲の需要は歐米兩大陸共に非常の激增をなし從て我絲價の暴騰に伴ひ一時千三百五十圓の最高價格を示すに至れり即ち巴里大博覽會の開設は出品用若くは被服用として歐米諸國民に生絲の需用を促し又米國に於ける二年間の豐穰は一般農民の奢侈を增進し遂に斯の如き好結果を奏したりしに外ならず然るに本年は農業上若くは商工業上等歐洲に於て何等生絲の需要を喚起すべき原因を認ざるのみならず米國の諸種の事情亦頗る恃むに足ざるの狀態あり、即米國に於ける生絲の停滯品は目下頗る多額にして自然今後の輸出に少からざる妨礙となるべく且例年大統領の選擧は米國々民をして政治熱に狂奔せしめ我生絲の如きも之が爲め常に販賣上の阻格を受くると甚し然るに本年は實に大統領の改選期に當れり、又米國鐵類輸出の不況は現に世の注目を牽き麥作も天候適良ならざりしの故を以て既に減作に終り棉花の植付亦同一の障害を蒙れりと云へば或は平年より豐穰なりと速斷すべからざる者あるを信ずべきか（中略）特に清國暴動事件は其關係する所世界の各國に跨り且局面益々困難の狀態ありて經濟界の疑惧を起し延て一般驕奢の觀念減退せるものあるが故に啻に輸出すべき生絲に止まらず例年多額なる內國の消費高亦非常の少額と變ずべきは殆んど奪ふべからざる者あり、由是觀之、我本年の絲況は先以て甚だ好望ならずと斷ずるに於て毫も支障あるべかからずと是に關しては吾人も所見を同ふするもの唯庶希くは米國の大統領撰擧激烈なる競爭を見ずして終極を告げ清國拳匪の騷亂速に戡定の功を奏し英國が戰捷後の好調絹布の購買心を惹起せしむるに至らんことを祈るのみ果して然らば蠶業界の現象所謂局面展開の觀あらん殊に四大蠶絲國中最も產出高の多き清國は昨年に比し二三割の減額なりと傳へ伊佛諸國は未だ詳細なる通信に接せざるも最近の電報は伊太利養蠶は減作なりと云へり兎に角諸に產繭額の昨年に比し優ることあるも劣ることなきは我日本國のみにして昨今絲況多少好景に向たるは蓋し是等の關係與て力あらんか速に妖雲一掃光風霽月曩の觀察をして眞の杞憂に終らしめんこと切に悃望する所なり

今左に各地の會員より報道せられたる蠶況を摘要し參考に資せんとす尤も人により地方により其見解を異にするあり茲には其多數に從ひ項目の缺如せるものに至りては其儘之を記載せり讀者之を諒せよ

道府縣	桑葉發芽の模樣	桑葉の價格	蠶種掃立枚數	蠶種掃立時日	各齡の經過	上蔟時日	收繭の豫想	收繭の價格
北海道	十日間遲れたるも二三割の增	一貫目二錢五厘乃至五錢	昨年より三割五分增	六月上旬乃至中旬	—	七月中旬	—	—
東京	平年に比し一週間遲し	一貫目十二三錢	昨年より一割增	五月三日乃至七日	稍佳	六月六日乃至十日	昨年より一割五分增	一貫四圓二三十錢
京都	—	—	—	—	宜し	—	二割以上增	—
大坂	平年に比し四五日遲し	一貫目十二三錢	昨年より二割增	四月二十日	宜し	五月廿五日乃至六月七八日	—	一貫四圓內外
神奈川	發芽宜し	三十貫目二圓內外	昨年より一割增	五月二三日頃最も多し	宜し	六月六七日	一割增	一貫四圓
兵庫	宜しけれども後る收穫多からん	一貫目十五六錢	昨年に比し一割增六萬四千枚	四月廿四五日 五月三四日	佳良	六月三日乃至同六七日	一割以上增	一貫三圓七八十錢
長崎	平年に比し少し後る	一貫目九錢內外	七百枚	四月三十日前後	宜し	五月廿五六日	平年より增收	一貫四圓以上五圓以下
新潟	三週間位後るるも宜し	十貫八十錢乃至一圓五十錢	昨年に比し一割增十二萬枚	六月五日五月二十日	異狀なし	六月十四五日	七萬二千石	一貫四圓五十錢
埼玉	伸暢極めて良好	三十六貫二圓	昨年に比し一割中の增加	四月廿八九日 五月五六日	良好	五月廿八九日 六月十日	—	一貫四圓內外
群馬	後れたれども宜し	三十六貫一圓五十錢內外	昨年に比し一割五分增し	四月三十日 五月四五日	—	五月廿七八日 六月五六日	昨年に同し	一貫四圓十錢

千葉	昨年に比し一割の減	三十六貫一圓五六十錢	平年より二割の増加	四月廿六七日五月二三日	佳良	五月廿八九日六月六七日	平年より一割増	一貫三圓八九十錢
茨城	昨年に比し七日間後るゝも良好	三十二貫一圓五十錢二圓	昨年に比し一割増	五月四五日同十二三日	良好	六月七八日同十四五日	昨年に比し一割以上の増加	一貫三圓八九十錢
栃木	—	三十六貫二圓内外	—	—	佳良	—	昨年より一割以上増加	一貫三圓七八十錢
奈良	昨年に比し三四日後たるも良好	一貫二十七八錢	昨年より増普通製一萬六千七八百枚框製十一万	—	極て良好	六月一二日	昨年より二割以上の増加	一貫四圓二三十錢
三重	昨年より一週間後るゝも悪しからず	一貫十二三錢	昨年より多きこと三割	四月中旬	氣候寒冷の爲め時日長し稀なる豊作	五月二十日前後	二割増	一貫四圓内外
愛知	極て宜し	一圓に付十二貫	二割増	四月廿六七日五月一二日	頗る佳良	五月廿七八日六月二日	二割以上の増加	一貫四圓内外
靜岡	例年に比し四五日後くる	一圓に付十二貫	一割乃至二割の増加	四月二十日前後	頗る良好	五月廿一二日	昨年に同し	一貫三圓七八十錢
山梨	平年に比し五六日後れたるも收葉多からず	一貫十四五錢	平年に比し一割五分増十四五萬枚	四月廿七八日五月十五六日	良好	五月二十日五月二十三日	十二萬石	一貫四圓五十錢
滋賀	一週間後る	十貫一圓四五十錢	昨年より二割増	四月廿四五日五月四日	—	—	昨年より二割増	—
岐阜	昨年より一週間後れ收穫一割減	十貫一圓六十錢	—	五月十二三日最も多し	極めて好良	六月十日	昨年に比し二割増加	一貫三圓八十錢
長野	前年に比し一週間後るゝも悪しからず	十貫一圓五十錢	昨年に比して二割の増加	四月廿八日五月十五六日	佳良	六月十五六日乃至二十日	昨年さ大差なし	一貫五圓二十錢
宮城	昨年に比し二割の減	一貫十錢	昨年に比し二割の増加	五月十四五日	宜し	—	—	—
福島	佳良	三十六貫二圓五十錢	昨年に比し二割増	五月十日乃至同十七八日	良好	六月十二三日	昨年より一割増	一貫四圓
岩手	宜しからず	五貫一圓	掃立量増加	五月十五六日同廿五六日	一般に宜しさ云ふを得ず	—	—	一貫三圓
青森	宜し	一貫三錢乃至三錢五厘	二割増加二千五百枚	五月廿五六日前後最多し	—	—	一千七百五十石	—
山形	佳良	一貫十錢	昨年より一割の増加	五月十日乃至同廿一二日	佳良	—	昨年に比し二割方の増收	一貫四圓
秋田	宜し	十貫六十錢	昨年より二割増	五月二十二三日	—	—	—	—
福井	昨年に比し後るゝこと三四日	十貫一圓二三十錢	昨年に比し幾分の増	五月十日	良からず	—	—	—
石川	昨年に比し四五日後くる	一貫二十錢	二萬八千枚	五月九日前後	稍可	—	—	—
富山	通常	一貫二十錢内外	二割以上の増加	—	宜し	—	—	—
鳥取	昨年に比し三四日後るゝも良好	十貫一圓七八十錢	二萬一千九百八枚	四月三十日五月一二日	良好	六月四五日	二萬石内外	一貫四圓二三十錢
島根	稍可	一貫七八錢	—	四月廿七日五月十日	極て良好	—	昨年より一割増加	一貫四圓二三十錢
岡山	昨年に比し四日後れ且宜からず	一貫八九錢	昨年より幾分増	五月一二日	至て良好	—	一萬二三千石	一貫四圓四五十錢
廣島	昨年に比し一週間後るゝも良好	一貫七八錢乃至十錢	昨年より一割増九千枚	四月十四五日同三十日	稍良好	六月二三日	平年に比し増加	一貫四圓
山口	宜し	十貫四十五錢五十二三錢	昨年より一割以上の増加	四月廿四五日五月五日	極て佳	—	—	一貫四圓五十錢
和歌山	悪しからず	一貫二十錢	一割二三分の増加	—	良好	—	—	一貫四圓
德島	良好	十貫一圓四五十錢	掃立多し	—	近年稀なる豊況	五月二十日前後	昨年に比し三割増八千五六百石	十二貫四十五圓
香川	—	一貫六錢乃至十錢	—	—	佳良	—	昨年に比し二割の増加	一貫四圓二三十錢
愛媛	可なり	十貫一圓内外	昨年より三割増	—	頗る良好	—	昨年より増加	一貫四圓内外
高知	宜しからず	一貫四十錢	昨年より三割五分増	四月十六七日	良好	五月二十日乃至同二十五日	平年に比し減ずならんか	一貫四圓二三十錢
福岡	昨年より幾分減收	—	昨年に同しからん	四月二十日	良好	五月廿八九日	二割餘の増加	一貫四圓
大分	平年に比し四日遅く收葉三割減	十貫五十錢乃至六十錢	昨年より増加二萬枚位	四月二十日五月四五日	佳良	—	一割増二萬石	一貫四圓内外
佐賀	不良	一斤二錢五厘	昨年に比し二割の増加	四月二十日前後	宜しからず	—	昨年より幾分の増收	—

熊本	昨年より二割減	一貫十錢	昨年より二割増	四月二十日前後	多少の病蠶を認む		五月下旬	昨年より二割増加	一貫四百以上五十錢
宮崎	昨年より一割減	—	昨年より二割減少	—	良	好	五月二十日	昨年より幾分増加	一貫四百五六十錢
鹿児島	繁茂佳	—	一割の増加	—	—	—	—	—	—
沖縄	周年落葉することなし	一貫五六錢以下	昨年に比し二割の増加	自一月中旬至四月中旬二月中最多し	良	好	—	百四五十石	一升三十五錢

又蠶兒掃立より三齢に至る農商務省の調査に據れば蠶兒掃立枚數に於て九分五厘増し收繭額の豫想は六分五厘を増す割合なりと云ふ

	掃立の初終	掃立枚數 三十三年豫想	掃立枚數 三十二年	掃立枚數 增減高	生育の善悪	桑葉の過不足	收繭高 卅三年豫想	收繭高 三十二年	收繭高 增減高
		枚	枚	枚			石	石	石
東京	四月下旬より五月中旬	六、六六六	六、五九三三	七〇七五	佳良	有餘	六、〇七四	五、七六六五	三三九
京都	四月下旬より五月上旬	五、八〇〇〇	四、六三三六	一、一七三三	普通	過不足なし	三、一五〇〇	三、〇九六八	五六二
大阪	四月下旬より五月中旬	四〇四	三四八八	五七六	佳良	稍不足	三三二五	三二七七	三八
神奈川	四月下旬より五月上旬	七、五〇五八	七、一四六五	三五七三	佳良	過不足なし	五、八五二〇	五、五四三三	三二〇七
兵庫	四月下旬より五月上旬	六、四九二九	五、九〇六六	五九〇五	佳良	有餘	五、三五六九	四、七三二九	六二四〇
長崎	四月中旬より五月上旬	二六〇	二五〇	四七〇	普通	不足	二三三五	一八六四	二〇一
新潟	五月上旬より全下旬	七、〇三一	六、四三〇一	六四〇〇	佳良	過不足なし	五、一八〇〇	四、九一五四	二四六六
埼玉	四月下旬より五月下旬	二二、六七一	一九、七〇六八	一、九三〇五	佳良	過不足なし	一六、七五五五	一四、五四六二	二、二〇四一
群馬	四月下旬より五月上旬	二九、六四五	二九、七〇五五	三三三〇	佳良	有餘	三三、二一六八	三三、〇四六	五三二
千葉	四月下旬より五月中旬	五、五五六三	四、四九〇五	八七七	佳良	有餘	五、六八四六	三、五五二四	二九二二
茨城	四月下旬より五月中旬	六、八七九五	六、四九〇八	三六八七	佳良	過不足なし	五、九八八四	五、五五八〇	四二〇四
栃木	四月下旬より五月下旬	四、七〇〇〇	四、二七一一	四三六九	普通	不足	五、二〇〇〇	二、八八九七	二五〇五
奈良	四月上旬より五月下旬	一、三五〇〇	一、一五五五	一九六五	佳良	不足	八〇〇〇	六七四五	一二五五
三重	四月上旬より五月下旬	四、三六三七	三、六五八八	七〇四二	佳良	不足	五、一七九六	五、〇〇〇〇	二七七六
愛知	四月中旬より全下旬	六、五〇七六	五、七五六四	一、二五三三	佳良	不足	七、一五八四	六、七〇八四	八四〇〇
静岡	四月中旬より五月上旬	八、六二八一	七、八五四七	七六八四	佳良	過不足なし	四、七四〇〇	四、五〇九一	四三〇九
山梨	四月中旬より五月下旬	一〇、八二九五	一〇、一二三〇	七〇八五	佳良	過不足なし	七、五七〇七	六、九九三六	四三五一
滋賀	四月下旬より五月上旬	五、七九九五	四、八三九	九六六六	佳良	—	五、四二七一	四、二六七〇	一、二五〇一

	掃立の初終	掃立枚數 三十三年豫想	掃立枚數 三十二年	掃立枚數 增減高	生育の善悪	桑葉の過不足	收繭高 卅三年豫想	收繭高 三十二年	收繭高 增減高
岐阜	四月下旬より五月下旬	八、〇三五	六、八五六二	一、一六八一	佳良	不足	七、八九四九	七、一七三二	七一七七
長野	四月下旬より六月上旬	二一、五〇七	二一、〇五〇七	三三七	佳良	不足	[illegible]	一〇、〇八六六	一、〇六〇六
宮城	五月上旬より全下旬	五、三七一	五、二七一	—	佳良	不足なし	五、五五三二	五、五五三二	—
福島	—	—	—	—	—	—	一四、二六六三	一四、二六六三	—
岩手	五月中旬より全下旬	五、四四六七	二、八七〇五	五〇四四	佳良	不足	二、七五七四	三、一九八五	×四〇二
青森	五月中旬より全下旬	二三七	一八二九	五四八	佳良	過不足なし	一七一〇	一五一六	五九四
山形	五月上旬より全下旬	一〇、七〇五八	一一、一〇四	×四〇五六	佳良	不足	八、八四〇三	九、〇五九二	×一六三四
秋田	五月中旬より全下旬	一、五五八八	一、五五五一	一八三七	佳良	不足なし	一、三四五〇	一、〇八六六	一九八八
福井	四月下旬より五月下旬	五、〇五四四	二、八五六八	一九七六	佳良	有餘	二、五四〇七	三、一五六八	七〇一
石川	五月上旬より全中旬	五、四四三	二、九九三二	四四九〇	不良	不足	三、五三五五	三、二四四九	四〇二九
富山	五月上旬より全下旬	一、五三六	一、三九六六	一三〇	佳良	有餘	一、四九五一	一、四六九八	七八六
鳥取	四月下旬より五月上旬	七、〇四七五	一、八六二四	一八六一	佳良	不足	一、八四七一	一、六七九二	一六七九
島根	四月下旬より五月中旬	六、五〇〇〇	二、五七七五	一三三五	佳良	過不足なし	二、〇〇〇〇	一、八八〇五	二一六
岡山	四月中旬より五月上旬	一、八〇〇〇	—	—	佳良	不足	一、五〇〇〇	一、一〇六三	三五九八
廣島	四月下旬	九八九一	八四〇〇	一四六七	佳良	過不足なし	七九二五	六九九九	九一四
山口	四月中旬より五月下旬	六三三九	五三九九	一〇四〇	佳良	有餘	四六八四	五五六八	一〇〇六
和歌山	四月上旬より五月上旬	[illegible]	一、三五七一	一四二九	佳良	不足	一、〇〇〇〇	九五五四	四〇六
徳島	四月中旬より五月上旬	一、二〇〇〇	五七四〇	四〇五	佳良	過不足なし	四九七	三五〇四	一二九三
香川	四月下旬より五月上旬	二四二四	一九五一	四八五	佳良	不足	二〇五一	一四七五	五七六
愛媛	四月上旬より五月上旬	一、五七四五	九九五〇	—	佳良	不足	一、二二六一	一、二二六八	九七五
高知	四月上旬より全下旬	一、一〇〇〇	一、六八二〇	×四八〇	佳良	有餘	一、二〇〇〇	一、五六六四	×三六五四
福岡	四月上旬より全下旬	一、〇五二五	一、〇五二五	—	佳良	過不足なし	七九七五	七九七五	—
大分	四月下旬より五月上旬	二、〇〇〇〇	—	—	佳良	不足	一、六〇〇〇	一、三五〇一	二五九九
佐賀	四月中旬より五月上旬	五〇三	四四一九	八四	不良	不足なし	三三一五	三九二三	二九三
熊本	四月上旬より全下旬	二、一七六八	一、九七八四	一九七四	佳良	不足	一、七五七九	一、五九五三	一四二六
宮崎	四月下旬	一、〇〇〇〇	一、〇五〇四	×五〇二	普通	過不足なし	八三六〇	八八一八	×四五八
鹿児島	四月上旬より全中旬	九〇五四	九一五五	×七九	佳良	不足	六七四七	七一六六	×四一九
沖縄	一月上旬より三月下旬	五〇〇	二五八	三	佳良	有餘	二〇〇	一三九	六一
北海道	—	二九四	二九四	—	—	—	二三三一	二三三一	—
計	—	二三〇、一六八一	二〇〇、九八〇九	一九、三二七	—	—	一九五、五四三	一八二、七〇六八	一二、八三五四

福島及北道海は報告未達に付暫く前年の數を以て之を塡補せり×は減

●褒賞下賜

神奈川縣草山貞胤氏は賞勵局より左の通褒賞を下賜せらる

神奈川縣相模國中郡南秦野村　草山貞胤

資性篤實夙に本地の特產葉煙草の改良振張を圖り刻苦淬礪自ら驗して衆を導き鋭意弊風を矯正し多方民心を鼓勵し農談品評の會に臨み若くは遠邇を歷遊して作業の得失を講授し密植法を始め秋稅の期を早めて風災雨害を免かれしめ水車を用ゐて剪刻の勞力を省き品質を精良にし產額を增進して秦野煙草の聲價を市場に發揚し利澤を地方に被らしむ其他桑樹を移植して蠶業を啓誘する等齡古稀を踰ゆるも孜々として倦まず洵に實業に精勵し衆民の模範たる者とす仍て明治十四年十二月七日勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

●特例銀杯下賜

賞勵局に於て六月四日特例銀杯を下賜せられたる者左の如し

石川縣能登國羽咋郡堀松村　國田武信

夙に本郡蠶絲業の振はざるを憂ひ桑園を闢き良桑を購ひ之を移植蕃殖して衆に頒與し尋で力を製絲の改善に致し器械を備へ敎師を聘し傳習所を設けて多く工女を養成し或は職工を羽咋鹿島兩郡に派して輸出に適する製法を奬勵し能登製絲の名聲を橫濱神戶貿易市場に博するに至る洵に奇特とす依て爲其賞銀杯一箇下賜候事

石川縣士族　山本八十吉

夙に志を蠶業に勵まし居を本縣能美郡湊村に移し間地を購ふて桑園を闢き蠶室を築き敎師を聘し傳習所を建て生徒を養成して專ら斯業の普及を圖り上信地方を巡遊して製絲改良の方を講究し工場を新設し器械を增置して精品を製出し販路を神戶橫濱に開て利益を衆に示し勸導誘掖地方を益すること尠なからず洵に奇特とす依て爲其賞銀杯一箇下賜候事

又追賞として同局に於て同日銀杯を下賜せられし者左の如し

石川縣能登國鹿島郡越路村　眞館貞造

亡父與四郎夙に志を殖產に注ぎ桑園茶圃を墾拓して養蠶製茶の業を創め尋で桑茶種苗の培育所を起して以て勸誘に努め或は桑苗を施與し資金貸附の法を設け或は遠近の子女を集めて傳習する等率先啓迪到らざる所なし是に於て有志輩出遂に斯業をして居村傍近より延て隣郡にまで發達せしむるに至る洵に奇特とす依て爲其賞銀杯一箇下賜候事

●人事彙報

▲河原次郎氏　大日本蠶絲會技藝委員にして蠶業講習所技師なる河原次郎氏は今回高等官六等に陞敍せられたり

▲紫藤章氏　大日本蠶絲會幹事にして技藝委員を兼ねらるゝ農商務技師紫藤章氏は富山縣に開設せる關西聯合共進會審査長として出張せられたり

▲石渡繁胤氏　大日本蠶絲會技藝委員なる京都蠶業講習所技師石渡繁胤氏は前同共進會に繭審査官として出張されたり

▲松田昌德氏　大日本蠶絲會特別會員なる京都蠶業講習所技手松田昌德氏も前同會へ生絲審査官として出張されたり

▲佐藤傳平氏　大日本蠶絲會特別會員なる福島縣若松市佐藤傳平氏は福島縣知事より左記の賞辭に銀盃一個を下賜されたり

若松市元佐藤傳兵衛改佐藤傳平資性溫厚夙に殖產に志し率先蠶業に身を委ね自ら荒蕪地を拓きて二十餘町の桑園を設け廣く各地を巡歷して養蠶の術を學び精良の蠶種を頒ち繭品評會を開きて當業者を啓誘し養蠶及織物傳習所を設け製絲其他の改良に森林の增殖に將た農事團體の成立に力を致す等洵に實業に精なる者とす仍て本縣勸業褒賞規程に依り銀盃壹個を賞與す

特別廣告

●會員諸件

本年六月中本會に入會せられたるもの左の如し

○通常會員

京都	細谷寬藏	山梨	依田豐
神奈川	露木清司	長野	兒玉與左衛門
同	宮本愛麿	同	北宮菅一
兵庫	木田與一郎	同	戶塚巳之助
同	大橋仙之助	岩手	伊藤健夫
新潟	田中榮八	秋田	神谷德治
同	根立郡平	山口	椿角太郎
同	難波猶七	同	小島泰一
群馬	間庭長十郎	德島	七條養蠶傳習所
同	相原馬次郎	同	島文八
千葉	鶴岡順之助	同	阿部速三郎
茨城	篠原和三郎	愛媛	高田新五郎
同	橫手龍一	大分	齋藤正治
三重	堤愿之輔	鹿兒島	黑坂千逸
愛知	鈴木純次	北海道	安部孝太郎
同	鈴木林平	同	赤松義高
同	今泉鐵三郎	同	內馬場忠良
靜岡	山田伊平	同	宮原光藏
同	內藤武次郎	同	大島龜藏
同	內山琴次郎	同	町田熊一郎
同	梅原啓一郎	同	松原弘
同	矢田部正敏	同	折井正雄
		同	飯島柳太郎

北海道　藤野　幸三郎一　計　四十六名

右の内に（鯛谷、木田、藤波、鱒岡、塙、鈴木純次、鈴木秋平）、矢田部、宮田、戸塚、小島、阿部（遠三郎）の十二氏、七條養蠶傳習所より各自に申込まれ露木氏は二宮鶴松氏。宮木（鎌原、横手の三氏は吉池榎正氏。大橋氏は井上信麗氏。田中、横立の二氏は新潟支會。開庭氏は高橋喜寿太郎氏。和原氏は高橋清七氏。今泉氏は鈴倉五平氏。山田（鳴澤、内山の二氏は四遠支會。櫛原、伊藤の二氏は中村高樹氏。兒玉氏は養田恒三郎氏。北宮氏は信濃下伊那支會。神谷氏は弘宣喜一郎氏。梅氏は寺尾千代藏氏。島氏は大澤茂八氏。高田氏は梁田熊雄氏。宮澤氏は溝口常次郎氏。黒坂氏は鎌倉五郎氏。阿部（孝太郎）氏及以下九氏は本所荻吉氏。晩れも紹介せられたり

又同月中本會規則第二章第六條第一項に據り通常會員より特別會員に變更せられしもの左の如し

兵庫　田中　勝次郎

又同月中死亡せられしもの左の如し

新潟　堀井　義文　　福島　春山　富彌

○通常會員

一金參圓　●宮城支會寄附金報告　早川　智寛君

一金壹圓　横山　安吉君

右之通當支會基本金として寄附相成候に付此段報告す

大日本蠶絲會宮城支會

●島根支會寄附金報告

一金參圓　野村角太郎君

一同　和田孫二郎君

一金武圓　堀内金太郎君

一同　梶村柳治郎君

一同　高橋丑太郎君

一同　楫修七郎君

一同　松隆慶君

一同　恒松律造君

一金壹圓　岡崎佐吉君

一同　池野伴力君

一同　櫻義久君

一金七拾錢　熊谷吉二郎君

一同　柳井保次郎君

一同　稲崎兼吉君

一金五拾錢　松尾三一郎君

右當支會基本金として各頭書の通り寄附せられたり

茲に掲げて其厚意を謝す

大日本蠶絲會島根支會

生徒募集

本校本科生ヲ募集シ試驗ノ上來九月一日ヨリ入校ヲ許ス

但規則書入用ノ向ハ其旨申出ラルベシ

埼玉縣兒玉郡兒玉町

明治三十三年七月十五日　競進社蠶業學校

第三版

蠶體病理

實價金卅五錢　郵稅四錢

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎先生校閲
蠶業講習所技師農學士河原次郎先生著述

附蠶種檢査法註解

養蠶家ニシテ毎歲黑ゆタル美繭ヲ收メ且無毒强壯ナル蠶種ヲ製造セントセバ須ラク傳染性蠶病ノ撰淑ニ勉メ適切ナル豫防法ヲ施サヾル可カラズ之レ今回當局者ガ消毒ノ爲行ヲ訓令セラレタル所以ニシテ實業諸君モ亦其必要ヲ認メ經營劃策ニ勉メラル、モノヽ如シ本書ハ蠶昨病理ニ精通ノ聞ニアル學士ノ筆ニ成リ平易ナル文章ト精巧ナル圖書トヲ以テ蠶病ノ原因徵候經過及豫防法ヲ詳述シ殊ニ蠶病消毒ニ關シテハ確固タル成蹟ニ據リ各種新式ノ方法ヲ說キ其得失ヲ論ズルコト最モ叮嚀ナルヲ以テ此書ヲ閲覽セバ何人モ至便至利ノ方法ニ從ヒ完全ナル消毒ヲ實行スルヿ容易ナリトス世ノ蠶業改良ニ志アルノ士切ニ購讀アランコトヲ請フ

（明文堂主敬白）

本會々員請求にして前書の購求を望まるゝ向は規定の代價と郵稅とを添（御申込ゆらば直に送呈す

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會下野支會第一回品評會開催廣告

來る八月九日十日の三日間下都賀郡生井村大字下生井渡邊吉助氏の蠶室に於て本會第一回品評會開催致し候に付全國の大日本蠶絲會員（蠶種、繭）勿論會員外の篤志者は成る可く多數の出品あらんを希望致し候

一品評會事務所は假りに下都賀郡生井村大字下生井野蠶業試驗所内に置く

一出品目錄は七月廿五日限り出品物は七月廿五日迄に到着する可し

一出品目錄用紙は申越次第郵送す

明治三十三年六月三日

大日本蠶絲會下野支會

結城蠶種豫約販賣

白玉　又昔　白姫　支那（餘抗）

改良大草

右豫約代價原種用百蛾に付金壹圓八拾錢普通製壹枚金壹圓貳拾錢但支那種ニ限リ原種用壹銀貳錢郵費ハ百蛾迄八錢○尚多數ノ注文ハ相當ノ割引ヲナス

茨城縣結城郡上山川村　櫻井佐十郎養蠶場

春蠶

白玉

改良大草

夏蠶

白玉　又昔　白姫　支那（餘抗）

●大日本蠶絲會● **會員名簿** ●明治三十三年三月末日現在

代價郵稅共金拾五錢

本會々員名簿の件に就ては屢々會員諸君より照會の向も有之候に付今回之を印刷に附し廣く其需に應じ會員相互の交通に便せんとす本書御要望の向は代價郵稅を添へ御申込相成候はゞ直ちに御送附可致候此段廣告候也

明治三十三年六月

大日本蠶絲會

追て爲替御取組に御不便の向は郵券代用にて不苦候

溪水池田謙藏先生併農濤水三男熊先生序
戸塚己之助著

秋蠶 秋蠶種實驗錄 壹部金參拾錢

秋蠶種 七月十日ヨリ八月十日迄製造 壹枚金壹圓五十錢 詳細乞御照會

信州北佐久郡岩村田町 **國蠶館**

相馬愛藏君著 **秋蠶飼育法** 價十五錢 十部以上一部十錢宛

日次 ●緒言●温度●給桑時刻●給桑度及切分●給桑時空氣●蠶飼育法●空頭病●水分●睡時●注意●早晩●蠶種購入注意●輸送注意●秋蠶經濟●大蠶蠶●小蠶蠶●飼育日表●秋蠶原種製造法等

秋蠶種 全面付一圓半 五分付金一圓

風穴種 全面付金一圓

八月一日發生より十日發生迄製造 春蠶期より七月廿日迄

信濃國南安曇郡温村（電報は東穗高郵便局宛）

電報略號ヨヤク

秋蠶種豫約會社

同窓諸君ニ告ク

全國同窓會ノ儀豫テ協議ノ方針ニ基キ本春期ニ於テ大會開設ノ運ニ致候積ヲ以テ夫々計畫致シ居リ候處去ル十一日京濱間在住同窓者會合ノ準備會ニ於テ左ノ通リ議決相成候條御諒知被成下度此段全國同窓諸君ニ謹告候也

一 本年ハ時期頗ル切迫セルノミナラス同窓會未設ノ府縣尚少ナカラザルガ故ニ大會ハ更ニ秋高馬肥ノ日ヲ期シ東京ニ開設スルコト

一 同大會開設マテニハ是非共各府縣同窓會設立ノ完成ヲ期スルコト

右ノ次第ニ付同會未設立ノ各府縣同窓諸君ニ於テハ本年秋期マテニハ是非共御設立ノ上速ニ御賛同相成候樣希望致シ候

西ヶ原同窓會假幹事

一 **蠶具製絲器械一式**並に**小道具販賣**

一 旭鶴印**燃簇製造器械** 定價 ●七分用金六圓參拾錢 ●五分用金五圓九拾五錢

一 **九桑扱具** 定價 金貳拾五錢

右諸品何れも精廉迅速に御用辨可仕候間多少とも御用向御仰付度此段願上候

東京神田鍛冶町 大通り卅貳番地

㊥中川安次郎

特許上簇器普及委員募集

余ガ發明ノ波畦式田村上簇器ハ農商務大臣ヨリ十五年間ノ特許ヲ與ヘラレタリ即チ上圖ノ如シ本器ノ効益ハ第一繭ノ光澤解舒ヲ善良ニシ從テ絲量ヲ增加シ第二玉繭汚繭薄繭等ヲ減少シテ繭形ヲ齊整ス第三上簇及收繭ノ際時間ト勞力ヲ節減ス（本項ハ一人ニテ五人乃至十人ノ仕事ヲ爲シ得ル）第四貯藏輕便ニシテ且永年ノ使用ニ堪ユ以上ノ効ノ養蠶家ニテ一回本器ヲ使用セアリ本器ヲ普及スル爲各地方ニ

益アルニ付繭一石ハ十圓內外ノ利益普及委員ヲ置ク委員ニハ一ケ年**金三百圓**ノ內外**報酬**ヲ贈與ス望者ハ郵券二錢送レハ規則書ヲ呈ス

春蠶種 支那種谷種角又又昔青熟小石丸一枚壹圓四拾錢 原種用百蛾貳圓五拾錢

風穴蠶種 發生ハ五月下旬ヨリ七月下旬迄隨時 壹枚壹圓五拾錢 外ニ夏蠶種モアリ

秋蠶種 發生ハ七月下旬ヨリ九月上旬迄隨時 壹枚壹圓五拾錢 拾枚以上割引ス

秋蠶種製造法傳授

本法ハ何レノ地方ニ於テモ風穴ヲ有セス普通ノ秋蠶種ヲ製造シ得ル秘法ナリ傳授料金百圓郵券三錢送レハ傳授規程書ヲ呈ス

電信略號（モタ）

大和國磯城郡織田村大字芝

蠶業專門 **田村多門**

養蠶實用 **船來乾濕計** 金壹圓拾五錢 金壹圓八拾錢（檢定濟）

他ニ類ナキ船來品ニシテ度目精確價廉也攝氏華氏對照度目ニシテ湯暖計其他温度計ヲ代用ス

各一具每木箱入ニシテ運賃ハ左表ノ通リ

遠近ニ拘ラス

一具十二錢	四具二十四錢
二具十六錢	五具二十八錢
三具二十錢	六具以上卅二錢

郵便爲替振込局 東京室町

郵券代用 一割增シ

大日本蠶絲會報第廿九號に（現品を一見せしに度目も正しく其言の虚ならずして實用に適するを認む）と揭載せられたり詳細は同欄內御參看あれ

東京市日本橋區本町三丁目十一番地

電信略號 タマシ 電話本局 一七九四

玉屋支店

新刊　東京蠶業講習所御編纂
蠶事報告 第十六號
井二華座
賣價六十錢　郵稅八錢

右は昨三十二年東京西ヶ原講習所の試驗成績にして蠶糸家の必讀すべき良書也例に據て發賣す

新刊　**蠶病消毒法**　賣價三錢　郵稅五錢

同　**春蠶飼育標準表**　同　同　同　五錢

同　**夏秋蠶飼育表**　同　同　同　二錢

秋蠶飼育表　各　同　二錢

松永伍作先生著
第五版　**桑實驗說**　賣價十八錢　郵稅二錢

第三十版　再訂增補　**養蠶術講義**　同　四十錢　同　四錢

農商務省農務局御刊行
蠶種檢査成蹟　賣價五十錢　郵稅六錢

新刊　**蠶種檢査法規**　現行

蠶絲業諸問會　議事速記　賣價七十錢　郵稅八錢

新刊　東京蠶業講習所御編纂
桑樹萎縮病調査報告　第四號　賣價八十錢　郵稅六錢

毛呂正容先生校訂信陽油井彌一郎君著
夏秋蠶之燈　賣價五十五錢　郵稅四錢

信州田村兵司君著
二化蠶業全書　同　廿錢　同　二錢

信州上條嘉一郎君著
秋蠶種製造法　同　十錢　同　二錢

新刊　實地應用　池田孝之助先生講述　總ふり假名附
栽桑養蠶術　全一冊　賣價　郵稅　洪井二錢

本書は先生多年の實驗に依り案出せられたる栽桑法並養蠶術を詳述したるものにて養蠶に於て諸種の改良法にして今回大に增訂特に總て振假名を附したれば何人も能く了解し易き良新著なり

發賣所　東京麻布區南部町壱丁目　**穴山篤太郎**

在大學院農學士大森順造先生著

蠶業教科書

全一冊　**近刻**

定價金壹圓廿五錢　郵稅十二錢

精圖挿入洋裝美本

●目次大要　第一章總論(1)桑樹の品種(2)桑樹の栽培法(3)桑樹の栽培法(4)桑樹の栽培法(5)桑樹の栽培法(6)桑樹の栽培法(7)桑樹の栽培法(8)桑樹の栽培法(9)桑樹の栽培法(10)桑樹の栽培法(11)桑樹の栽培法(12)桑樹の栽培法(13)桑樹の栽培法(14)桑樹の栽培法(15)桑樹の栽培法(16)桑樹の栽培法(17)桑樹の栽培法(18)桑樹の栽培法(19)桑樹の栽培法(20)桑樹の栽培法(21)桑樹の栽培法(22)桑樹の栽培法(23)桑樹の栽培法(24)桑樹の栽培法(25)桑樹の栽培法(26)桑樹の栽培法(27)桑樹の栽培法(28)桑樹の栽培法(29)桑樹の栽培法(30)桑樹の栽培法(31)桑樹の栽培法(32)桑樹の栽培法(33)桑樹の栽培法(34)桑樹の栽培法(35)桑樹の栽培法(36)桑樹の栽培法(37)桑樹の栽培法(38)桑樹の栽培法(39)桑樹の栽培法(40)桑樹の栽培法(41)桑樹の栽培法(42)桑樹の栽培法(43)桑樹の栽培法(44)桑樹の栽培法(45)桑樹の栽培法(46)桑樹の栽培法(47)桑樹の栽培法(48)桑樹の栽培法(49)桑樹の栽培法(50)桑樹の栽培法(51)桑樹の栽培法(52)桑樹の栽培法(53)桑樹の栽培法(54)桑樹の栽培法(55)桑樹の栽培法(56)桑樹の栽培法(57)桑樹の栽培法(58)桑樹の栽培法(59)桑樹の栽培法(60)桑樹の栽培法(61)桑樹の栽培法(62)桑樹の栽培法(63)桑樹の栽培法(64)桑樹の栽培法(65)桑樹の栽培法(66)桑樹の栽培法(67)桑樹の栽培法(68)桑樹の栽培法(69)桑樹の栽培法(70)桑樹の栽培法(71)桑樹の栽培法(72)桑樹の栽培法(73)桑樹の栽培法(74)桑樹の栽培法(75)桑樹の栽培法(76)桑樹の栽培法(77)桑樹の栽培法(78)桑樹の栽培法(79)桑樹の栽培法(80)桑樹の栽培法(81)桑樹の栽培法(82)桑樹の栽培法(83)桑樹の栽培法(84)桑樹の栽培法(85)桑樹の栽培法(86)桑樹の栽培法(87)桑樹の栽培法(88)桑樹の栽培法(89)桑樹の栽培法(90)桑樹の栽培法(91)桑樹の栽培法(92)桑樹の栽培法(93)桑樹の栽培法(94)桑樹の栽培法(95)桑樹の栽培法(96)桑樹の栽培法(97)桑樹の栽培法(98)桑樹の栽培法(99)桑樹の栽培法(100)桑樹の栽培法(101)桑樹の栽培法(102)桑樹の栽培法(103)桑樹の栽培法(104)桑樹の栽培法(105)桑樹の栽培法(106)桑樹の栽培法(107)桑樹の栽培法(108)桑樹の栽培法(109)桑樹の栽培法(110)桑樹の栽培法(111)桑樹の栽培法(112)桑樹の栽培法(113)桑樹の栽培法(114)桑樹の栽培法(115)桑樹の栽培法(116)桑樹の栽培法(117)桑樹の栽培法(118)桑樹の栽培法(119)桑樹の栽培法(120)桑樹の栽培法(121)桑樹の栽培法(122)桑樹の栽培法(123)桑樹の栽培法(124)桑樹の栽培法(125)桑樹の栽培法(126)桑樹の栽培法(127)桑樹の栽培法(128)桑樹の栽培法(129)桑樹の栽培法(130)桑樹の栽培法(131)桑樹の栽培法(132)桑樹の栽培法(133)桑樹の栽培法(134)桑樹の栽培法(135)桑樹の栽培法(136)桑樹の栽培法(137)桑樹の栽培法(138)桑樹の栽培法(139)桑樹の栽培法(140)桑樹の栽培法(141)桑樹の栽培法(142)桑樹の栽培法(143)桑樹の栽培法(144)桑樹の栽培法(145)桑樹の栽培法(146)桑樹の栽培法(147)桑樹の栽培法(148)桑樹の栽培法(149)桑樹の栽培法(150)桑樹の栽培法(151)桑樹の栽培法(152)桑樹の栽培法(153)桑樹の栽培法(154)桑樹の栽培法(155)桑樹の栽培法(156)桑樹の栽培法(157)桑樹の栽培法(158)桑樹の栽培法(159)桑樹の栽培法(160)桑樹の栽培法(161)桑樹の栽培法(162)桑樹の栽培法(163)桑樹の栽培法(164)桑樹の栽培法(165)桑樹の栽培法(166)桑樹の栽培法(167)桑樹の栽培法(168)桑樹の栽培法(169)桑樹の栽培法(170)桑樹の栽培法(171)桑樹の栽培法(172)桑樹の栽培法(173)桑樹の栽培法(174)桑樹の栽培法(175)桑樹の栽培法(176)桑樹の栽培法(177)桑樹の栽培法(178)桑樹の栽培法(179)桑樹の栽培法(180)桑樹の栽培法(181)桑樹の栽培法(182)桑樹の栽培法(183)桑樹の栽培法(184)桑樹の栽培法(185)桑樹の栽培法(186)桑樹の栽培法(187)桑樹の栽培法(188)桑樹の栽培法(189)桑樹の栽培法(190)桑樹の栽培法(191)桑樹の栽培法(192)桑樹の栽培法(193)桑樹の栽培法(194)桑樹の栽培法(195)桑樹の栽培法(196)桑樹の栽培法(197)桑樹の栽培法(198)桑樹の栽培法(199)桑樹の栽培法(200)桑樹の栽培法(201)桑樹の栽培法(202)桑樹の栽培法(203)桑樹の栽培法(204)桑樹の栽培法(205)桑樹の栽培法(206)桑樹の栽培法(207)桑樹の栽培法(208)桑樹の栽培法(209)桑樹の栽培法(210)桑樹の栽培法(211)桑樹の栽培法(212)桑樹の栽培法(213)桑樹の栽培法(214)桑樹の栽培法(215)桑樹の栽培法(216)桑樹の栽培法(217)桑樹の栽培法(218)桑樹の栽培法(219)桑樹の栽培法(220)桑樹の栽培法(221)桑樹の栽培法(222)桑樹の栽培法(223)桑樹の栽培法(224)桑樹の栽培法(225)桑樹の栽培法(226)桑樹の栽培法(227)桑樹の栽培法(228)桑樹の栽培法(229)桑樹の栽培法(230)桑樹の栽培法(231)桑樹の栽培法(232)桑樹の栽培法(233)桑樹の栽培法(234)桑樹の栽培法(235)桑樹の栽培法(236)桑樹の栽培法(237)桑樹の栽培法(238)桑樹の栽培法(239)桑樹の栽培法(240)桑樹の栽培法(241)桑樹の栽培法(242)桑樹の栽培法(243)桑樹の栽培法(244)桑樹の栽培法(245)桑樹の栽培法(246)桑樹の栽培法(247)桑樹の栽培法(248)桑樹の栽培法(249)桑樹の栽培法(250)桑樹の栽培法(251)桑樹の栽培法(252)桑樹の栽培法(253)桑樹の栽培法(254)桑樹の栽培法(255)桑樹の栽培法(256)桑樹の栽培法(257)桑樹の栽培法(258)桑樹の栽培法(259)桑樹の栽培法(260)桑樹の栽培法(261)桑樹の栽培法(262)桑樹の栽培法(263)桑樹の栽培法(264)桑樹の栽培法(265)桑樹の栽培法(266)桑樹の栽培法(267)桑樹の栽培法(268)桑樹の栽培法(269)桑樹の栽培法(270)桑樹の栽培法(271)桑樹の栽培法(272)桑樹の栽培法(273)桑樹の栽培法(274)桑樹の栽培法(275)桑樹の栽培法(276)桑樹の栽培法(277)桑樹の栽培法(278)桑樹の栽培法(279)桑樹の栽培法(280)桑樹の栽培法(281)桑樹の栽培法(282)桑樹の栽培法(283)桑樹の栽培法(284)桑樹の栽培法(285)桑樹の栽培法(286)桑樹の栽培法(287)桑樹の栽培法(288)桑樹の栽培法(289)桑樹の栽培法(290)桑樹の栽培法(291)桑樹の栽培法(292)桑樹の栽培法(293)桑樹の栽培法(294)桑樹の栽培法(295)桑樹の栽培法(296)桑樹の栽培法(297)桑樹の栽培法(298)桑樹の栽培法(299)桑樹の栽培法(300)桑樹の栽培法(301)桑樹の栽培法(302)桑樹の栽培法(303)桑樹の栽培法(304)桑樹の栽培法(305)桑樹の栽培法(306)桑樹の栽培法(307)桑樹の栽培法(308)桑樹の栽培法(309)桑樹の栽培法(310)桑樹の栽培法(311)桑樹の栽培法(312)桑樹の栽培法(313)桑樹の栽培法(314)桑樹の栽培法(315)桑樹の栽培法(316)桑樹の栽培法(317)桑樹の栽培法(318)桑樹の栽培法(319)桑樹の栽培法(320)桑樹の栽培法(321)桑樹の栽培法(322)桑樹の栽培法(323)桑樹の栽培法(324)桑樹の栽培法(325)桑樹の栽培法(326)桑樹の栽培法(327)桑樹の栽培法(328)桑樹の栽培法(329)桑樹の栽培法(330)桑樹の栽培法(331)桑樹の栽培法(332)桑樹の栽培法(333)桑樹の栽培法(334)桑樹の栽培法(335)桑樹の栽培法(336)桑樹の栽培法(337)桑樹の栽培法(338)桑樹の栽培法(339)桑樹の栽培法(340)桑樹の栽培法(341)桑樹の栽培法(342)桑樹の栽培法(343)桑樹の栽培法(344)桑樹の栽培法(345)桑樹の栽培法(346)桑樹の栽培法(347)桑樹の栽培法(348)桑樹の栽培法(349)桑樹の栽培法(350)桑樹の栽培法(351)桑樹の栽培法(352)桑樹の栽培法(353)桑樹の栽培法(354)桑樹の栽培法(355)桑樹の栽培法(356)桑樹の栽培法(357)桑樹の栽培法(358)桑樹の栽培法(359)桑樹の栽培法(360)桑樹の栽培法(361)桑樹の栽培法(362)桑樹の栽培法(363)桑樹の栽培法(364)桑樹の栽培法(365)桑樹の栽培法(366)桑樹の栽培法(367)桑樹の栽培法(368)桑樹の栽培法(369)桑樹の栽培法(370)桑樹の栽培法(371)桑樹の栽培法(372)桑樹の栽培法(373)桑樹の栽培法(374)桑樹の栽培法(375)桑樹の栽培法(376)桑樹の栽培法(377)桑樹の栽培法(378)桑樹の栽培法(379)桑樹の栽培法(380)桑樹の栽培法(381)桑樹の栽培法(382)桑樹の栽培法(383)桑樹の栽培法(384)桑樹の栽培法(385)桑樹の栽培法(386)桑樹の栽培法(387)桑樹の栽培法(388)桑樹の栽培法(389)桑樹の栽培法(390)桑樹の栽培法(391)桑樹の栽培法(392)桑樹の栽培法(393)桑樹の栽培法(394)桑樹の栽培法(395)桑樹の栽培法(396)桑樹の栽培法(397)桑樹の栽培法(398)桑樹の栽培法(399)桑樹の栽培法(400)桑樹の栽培法(401)桑樹の栽培法(402)桑樹の栽培法(403)桑樹の栽培法(404)桑樹の栽培法(405)桑樹の栽培法(406)桑樹の栽培法(407)桑樹の栽培法(408)桑樹の栽培法(409)桑樹の栽培法(410)桑樹の栽培法(411)桑樹の栽培法(412)桑樹の栽培法(413)桑樹の栽培法(414)桑樹の栽培法(415)桑樹の栽培法(416)桑樹の栽培法(417)桑樹の栽培法(418)桑樹の栽培法(419)桑樹の栽培法(420)桑樹の栽培法(421)桑樹の栽培法(422)桑樹の栽培法(423)桑樹の栽培法(424)桑樹の栽培法(425)桑樹の栽培法(426)桑樹の栽培法(427)桑樹の栽培法(428)桑樹の栽培法(429)桑樹の栽培法(430)桑樹の栽培法(431)桑樹の栽培法(432)桑樹の栽培法(433)桑樹の栽培法(434)桑樹の栽培法(435)桑樹の栽培法(436)桑樹の栽培法(437)桑樹の栽培法(438)桑樹の栽培法(439)桑樹の栽培法(440)桑樹の栽培法(441)桑樹の栽培法(442)桑樹の栽培法(443)桑樹の栽培法(444)桑樹の栽培法(445)桑樹の栽培法(446)桑樹の栽培法(447)桑樹の栽培法(448)桑樹の栽培法(449)桑樹の栽培法(450)桑樹の栽培法(451)桑樹の栽培法(452)桑樹の栽培法(453)桑樹の栽培法(454)桑樹の栽培法(455)桑樹の栽培法(456)桑樹の栽培法(457)桑樹の栽培法(458)桑樹の栽培法(459)桑樹の栽培法(460)桑樹の栽培法(461)桑樹の栽培法(462)桑樹の栽培法(463)桑樹の栽培法(464)桑樹の栽培法(465)桑樹の栽培法(466)桑樹の栽培法(467)桑樹の栽培法(468)桑樹の栽培法(469)桑樹の栽培法(470)桑樹の栽培法(471)桑樹の栽培法(472)桑樹の栽培法(473)桑樹の栽培法(474)桑樹の栽培法(475)桑樹の栽培法(476)桑樹の栽培法(477)桑樹の栽培法(478)桑樹の栽培法(479)桑樹の栽培法(480)桑樹の栽培法(481)桑樹の栽培法(482)桑樹の栽培法(483)桑樹の栽培法(484)桑樹の栽培法(485)桑樹の栽培法(486)桑樹の栽培法(487)桑樹の栽培法(488)桑樹の栽培法(489)桑樹の栽培法(490)桑樹の栽培法(491)桑樹の栽培法(492)桑樹の栽培法(493)桑樹の栽培法(494)桑樹の栽培法(495)桑樹の栽培法(496)桑樹の栽培法(497)桑樹の栽培法(498)桑樹の栽培法(499)桑樹の栽培法(500)桑樹の栽培法(501)桑樹の栽培法(502)桑樹の栽培法(503)桑樹の栽培法(504)桑樹の栽培法(505)桑樹の栽培法(506)桑樹の栽培法(507)桑樹の栽培法(508)桑樹の栽培法(509)桑樹の栽培法(510)桑樹の栽培法(511)桑樹の栽培法(512)桑樹の栽培法(513)桑樹の栽培法(514)桑樹の栽培法(515)桑樹の栽培法(516)桑樹の栽培法(517)桑樹の栽培法(518)桑樹の栽培法(519)桑樹の栽培法(520)桑樹の栽培法(521)桑樹の栽培法(522)桑樹の栽培法(523)桑樹の栽培法(524)桑樹の栽培法(525)桑樹の栽培法(526)桑樹の栽培法(527)桑樹の栽培法(528)桑樹の栽培法(529)桑樹の栽培法(530)桑樹の栽培法(531)桑樹の栽培法(532)桑樹の栽培法(533)桑樹の栽培法(534)桑樹の栽培法(535)桑樹の栽培法(536)桑樹の栽培法(537)桑樹の栽培法(538)桑樹の栽培法(539)桑樹の栽培法(540)桑樹の栽培法(541)桑樹の栽培法(542)桑樹の栽培法(543)桑樹の栽培法(544)桑樹の栽培法(545)桑樹の栽培法(546)桑樹の栽培法(547)桑樹の栽培法(548)桑樹の栽培法(549)桑樹の栽培法(550)桑樹の栽培法(551)桑樹の栽培法(552)桑樹の栽培法(553)桑樹の栽培法(554)桑樹の栽培法(555)桑樹の栽培法(556)桑樹の栽培法(557)桑樹の栽培法(558)桑樹の栽培法(559)桑樹の栽培法(560)桑樹の栽培法(561)桑樹の栽培法(562)桑樹の栽培法(563)桑樹の栽培法(564)桑樹の栽培法(565)桑樹の栽培法(566)桑樹の栽培法(567)桑樹の栽培法(568)桑樹の栽培法(569)桑樹の栽培法(570)桑樹の栽培法(571)桑樹の栽培法(572)桑樹の栽培法(573)桑樹の栽培法(574)桑樹の栽培法(575)桑樹の栽培法(576)桑樹の栽培法(577)桑樹の栽培法(578)桑樹の栽培法(579)桑樹の栽培法(580)桑樹の栽培法(581)桑樹の栽培法(582)桑樹の栽培法(583)桑樹の栽培法(584)桑樹の栽培法(585)桑樹の栽培法(586)桑樹の栽培法(587)桑樹の栽培法(588)桑樹の栽培法(589)桑樹の栽培法(590)桑樹の栽培法(591)桑樹の栽培法(592)桑樹の栽培法(593)桑樹の栽培法(594)桑樹の栽培法(595)桑樹の栽培法(596)桑樹の栽培法(597)桑樹の栽培法(598)桑樹の栽培法(599)桑樹の栽培法(600)桑樹の栽培法(601)桑樹の栽培法(602)桑樹の栽培法(603)桑樹の栽培法(604)桑樹の栽培法(605)桑樹の栽培法(606)桑樹の栽培法(607)桑樹の栽培法(608)桑樹の栽培法(609)桑樹の栽培法(610)桑樹の栽培法(611)桑樹の栽培法(612)桑樹の栽培法(613)桑樹の栽培法(614)桑樹の栽培法(615)桑樹の栽培法(616)桑樹の栽培法(617)桑樹の栽培法(618)桑樹の栽培法(619)桑樹の栽培法(620)桑樹の栽培法(621)桑樹の栽培法(622)桑樹の栽培法(623)桑樹の栽培法(624)桑樹の栽培法(625)桑樹の栽培法(626)桑樹の栽培法(627)桑樹の栽培法(628)桑樹の栽培法(629)桑樹の栽培法(630)桑樹の栽培法(631)桑樹の栽培法(632)桑樹の栽培法(633)桑樹の栽培法(634)桑樹の栽培法(635)桑樹の栽培法(636)桑樹の栽培法(637)桑樹の栽培法(638)桑樹の栽培法(639)桑樹の栽培法(640)桑樹の栽培法(641)桑樹の栽培法(642)桑樹の栽培法(643)桑樹の栽培法(644)桑樹の栽培法(645)桑樹の栽培法(646)桑樹の栽培法(647)桑樹の栽培法(648)桑樹の栽培法(649)桑樹の栽培法(650)桑樹の栽培法(651)桑樹の栽培法(652)桑樹の栽培法(653)桑樹の栽培法(654)桑樹の栽培法(655)桑樹の栽培法(656)桑樹の栽培法(657)桑樹の栽培法(658)桑樹の栽培法(659)桑樹の栽培法(660)桑樹の栽培法(661)桑樹の栽培法(662)桑樹の栽培法(663)桑樹の栽培法(664)桑樹の栽培法(665)桑樹の栽培法(666)桑樹の栽培法(667)桑樹の栽培法(668)桑樹の栽培法(669)桑樹の栽培法(670)桑樹の栽培法(671)桑樹の栽培法(672)桑樹の栽培法(673)桑樹の栽培法(674)桑樹の栽培法(675)桑樹の栽培法(676)桑樹の栽培法(677)桑樹の栽培法(678)桑樹の栽培法(679)桑樹の栽培法(680)桑樹の栽培法(681)桑樹の栽培法(682)桑樹の栽培法(683)桑樹の栽培法(684)桑樹の栽培法(685)桑樹の栽培法(686)桑樹の栽培法(687)桑樹の栽培法(688)桑樹の栽培法(689)桑樹の栽培法(690)桑樹の栽培法(691)桑樹の栽培法(692)桑樹の栽培法(693)桑樹の栽培法(694)桑樹の栽培法(695)桑樹の栽培法(696)桑樹の栽培法(697)桑樹の栽培法(698)桑樹の栽培法(699)桑樹の栽培法(700)桑樹の栽培法(701)桑樹の栽培法(702)桑樹の栽培法(703)桑樹の栽培法(704)桑樹の栽培法(705)桑樹の栽培法(706)桑樹の栽培法(707)桑樹の栽培法(708)桑樹の栽培法(709)桑樹の栽培法(710)桑樹の栽培法(711)桑樹の栽培法(712)桑樹の栽培法(713)桑樹の栽培法(714)桑樹の栽培法(715)桑樹の栽培法(716)桑樹の栽培法(717)桑樹の栽培法(718)桑樹の栽培法(719)桑樹の栽培法(720)桑樹の栽培法(721)桑樹の栽培法(722)桑樹の栽培法(723)桑樹の栽培法(724)桑樹の栽培法(725)桑樹の栽培法(726)桑樹の栽培法(727)桑樹の栽培法(728)桑樹の栽培法(729)桑樹の栽培法(730)桑樹の栽培法(731)桑樹の栽培法(732)桑樹の栽培法(733)桑樹の栽培法(734)桑樹の栽培法(735)桑樹の栽培法(736)桑樹の栽培法(737)桑樹の栽培法(738)桑樹の栽培法(739)桑樹の栽培法(740)桑樹の栽培法(741)桑樹の栽培法(742)桑樹の栽培法(743)桑樹の栽培法(744)桑樹の栽培法(745)桑樹の栽培法(746)桑樹の栽培法(747)桑樹の栽培法(748)桑樹の栽培法(749)桑樹の栽培法(750)桑樹の栽培法(751)桑樹の栽培法(752)桑樹の栽培法(753)桑樹の栽培法(754)桑樹の栽培法(755)桑樹の栽培法(756)桑樹の栽培法(757)桑樹の栽培法(758)桑樹の栽培法(759)桑樹の栽培法(760)桑樹の栽培法(761)桑樹の栽培法(762)桑樹の栽培法(763)桑樹の栽培法(764)桑樹の栽培法(765)桑樹の栽培法(766)桑樹の栽培法(767)桑樹の栽培法(768)桑樹の栽培法(769)桑樹の栽培法(770)桑樹の栽培法(771)桑樹の栽培法(772)桑樹の栽培法(773)桑樹の栽培法(774)桑樹の栽培法(775)桑樹の栽培法(776)桑樹の栽培法(777)桑樹の栽培法(778)桑樹の栽培法(779)桑樹の栽培法(780)桑樹の栽培法(781)桑樹の栽培法(782)桑樹の栽培法(783)桑樹の栽培法(784)桑樹の栽培法(785)桑樹の栽培法(786)桑樹の栽培法(787)桑樹の栽培法(788)桑樹の栽培法(789)桑樹の栽培法(790)桑樹の栽培法(791)桑樹の栽培法(792)桑樹の栽培法(793)桑樹の栽培法(794)桑樹の栽培法(795)桑樹の栽培法(796)桑樹の栽培法(797)桑樹の栽培法(798)桑樹の栽培法(799)桑樹の栽培法(800)桑樹の栽培法(801)桑樹の栽培法(802)桑樹の栽培法(803)桑樹の栽培法(804)桑樹の栽培法(805)桑樹の栽培法(806)桑樹の栽培法(807)桑樹の栽培法(808)桑樹の栽培法(809)桑樹の栽培法(810)桑樹の栽培法(811)桑樹の栽培法(812)桑樹の栽培法(813)桑樹の栽培法(814)桑樹の栽培法(815)桑樹の栽培法(816)桑樹の栽培法(817)桑樹の栽培法(818)桑樹の栽培法(819)桑樹の栽培法(820)桑樹の栽培法(821)桑樹の栽培法(822)桑樹の栽培法(823)桑樹の栽培法(824)桑樹の栽培法(825)桑樹の栽培法(826)桑樹の栽培法(827)桑樹の栽培法(828)桑樹の栽培法(829)桑樹の栽培法(830)桑樹の栽培法(831)桑樹の栽培法(832)桑樹の栽培法(833)桑樹の栽培法(834)桑樹の栽培法(835)桑樹の栽培法(836)桑樹の栽培法(837)桑樹の栽培法(838)桑樹の栽培法(839)桑樹の栽培法(840)桑樹の栽培法(841)桑樹の栽培法(842)桑樹の栽培法(843)桑樹の栽培法(844)桑樹の栽培法(845)桑樹の栽培法(846)桑樹の栽培法(847)桑樹の栽培法(848)桑樹の栽培法(849)桑樹の栽培法(850)桑樹の栽培法(851)桑樹の栽培法(852)桑樹の栽培法(853)桑樹の栽培法(854)桑樹の栽培法(855)桑樹の栽培法(856)桑樹の栽培法(857)桑樹の栽培法(858)桑樹の栽培法(859)桑樹の栽培法(860)桑樹の栽培法(861)桑樹の栽培法(862)桑樹の栽培法(863)桑樹の栽培法(864)桑樹の栽培法(865)桑樹の栽培法(866)桑樹の栽培法(867)桑樹の栽培法(868)桑樹の栽培法(869)桑樹の栽培法(870)桑樹の栽培法(871)桑樹の栽培法(872)桑樹の栽培法(873)桑樹の栽培法(874)桑樹の栽培法(875)桑樹の栽培法(876)桑樹の栽培法(877)桑樹の栽培法(878)桑樹の栽培法(879)桑樹の栽培法(880)桑樹の栽培法(881)桑樹の栽培法(882)桑樹の栽培法(883)桑樹の栽培法(884)桑樹の栽培法(885)桑樹の栽培法(886)桑樹の栽培法(887)桑樹の栽培法(888)桑樹の栽培法(889)桑樹の栽培法(890)桑樹の栽培法(891)桑樹の栽培法(892)桑樹の栽培法(893)桑樹の栽培法(894)桑樹の栽培法(895)桑樹の栽培法(896)桑樹の栽培法(897)桑樹の栽培法(898)桑樹の栽培法(899)桑樹の栽培法(900)桑樹の栽培法(901)桑樹の栽培法(902)桑樹の栽培法(903)桑樹の栽培法(904)桑樹の栽培法(905)桑樹の栽培法(906)桑樹の栽培法(907)桑樹の栽培法(908)桑樹の栽培法(909)桑樹の栽培法(910)桑樹の栽培法(911)桑樹の栽培法(912)桑樹の栽培法(913)桑樹の栽培法(914)桑樹の栽培法(915)桑樹の栽培法(916)桑樹の栽培法(917)桑樹の栽培法(918)桑樹の栽培法(919)桑樹の栽培法(920)桑樹の栽培法(921)桑樹の栽培法(922)桑樹の栽培法(923)桑樹の栽培法(924)桑樹の栽培法(925)桑樹の栽培法(926)桑樹の栽培法(927)桑樹の栽培法(928)桑樹の栽培法(929)桑樹の栽培法(930)桑樹の栽培法(931)桑樹の栽培法(932)桑樹の栽培法(933)桑樹の栽培法(934)桑樹の栽培法(935)桑樹の栽培法(936)桑樹の栽培法(937)桑樹の栽培法(938)桑樹の栽培法(939)桑樹の栽培法(940)桑樹の栽培法(941)桑樹の栽培法(942)桑樹の栽培法(943)桑樹の栽培法(944)桑樹の栽培法(945)桑樹の栽培法(946)桑樹の栽培法(947)桑樹の栽培法(948)桑樹の栽培法(949)桑樹の栽培法(950)桑樹の栽培法(951)桑樹の栽培法(952)桑樹の栽培法(953)桑樹の栽培法(954)桑樹の栽培法(955)桑樹の栽培法(956)桑樹の栽培法(957)桑樹の栽培法(958)桑樹の栽培法(959)桑樹の栽培法(960)桑樹の栽培法(961)桑樹の栽培法(962)桑樹の栽培法(963)桑樹の栽培法(964)桑樹の栽培法(965)桑樹の栽培法(966)桑樹の栽培法(967)桑樹の栽培法(968)桑樹の栽培法(969)桑樹の栽培法(970)桑樹の栽培法(971)桑樹の栽培法(972)桑樹の栽培法(973)桑樹の栽培法(974)桑樹の栽培法(975)桑樹の栽培法(976)桑樹の栽培法(977)桑樹の栽培法(978)桑樹の栽培法(979)桑樹の栽培法(980)桑樹の栽培法(981)桑樹の栽培法(982)桑樹の栽培法(983)桑樹の栽培法(984)桑樹の栽培法(985)桑樹の栽培法(986)桑樹の栽培法(987)桑樹の栽培法(988)桑樹の栽培法(989)桑樹の栽培法(990)桑樹の栽培法(991)桑樹の栽培法(992)桑樹の栽培法(993)桑樹の栽培法(994)桑樹の栽培法(995)桑樹の栽培法(996)桑樹の栽培法(997)桑樹の栽培法(998)桑樹の栽培法(999)桑樹の栽培法(1000)桑樹の栽培法(1001)桑樹の栽培法(1002)桑樹の栽培法(1003)桑樹の栽培法(1004)桑樹の栽培法(1005)桑樹の栽培法(1006)桑樹の栽培法(1007)桑樹の栽培法(1008)桑樹の栽培法(1009)桑樹の栽培法(1010)桑樹の栽培法(1011)桑樹の栽培法(1012)桑樹の栽培法(1013)桑樹の栽培法(1014)桑樹の栽培法(1015)桑樹の栽培法(1016)桑樹の栽培法(1017)桑樹の栽培法(1018)桑樹の栽培法(1019)桑樹の栽培法(1020)桑樹の栽培法(1021)桑樹の栽培法(1022)桑樹の栽培法(1023)桑樹の栽培法(1024)桑樹の栽培法(1025)桑樹の栽培法(1026)桑樹の栽培法(1027)桑樹の栽培法(1028)桑樹の栽培法(1029)桑樹の栽培法(1030)桑樹の栽培法(1031)桑樹の栽培法(1032)桑樹の栽培法(1033)桑樹の栽培法(1034)桑樹の栽培法(1035)桑樹の栽培法(1036)桑樹の栽培法(1037)桑樹の栽培法(1038)桑樹の栽培法(1039)桑樹の栽培法(1040)桑樹の栽培法(1041)桑樹の栽培法(1042)桑樹の栽培法(1043)桑樹の栽培法(1044)桑樹の栽培法(1045)桑樹の栽培法(1046)桑樹の栽培法(1047)桑樹の栽培法(1048)桑樹の栽培法(1049)桑樹の栽培法(1050)桑樹の栽培法(1051)桑樹の栽培法(1052)桑樹の栽培法(1053)桑樹の栽培法(1054)桑樹の栽培法(1055)桑樹の栽培法(1056)桑樹の栽培法(1057)桑樹の栽培法(1058)桑樹の栽培法(1059)桑樹の栽培法(1060)桑樹の栽培法(1061)桑樹の栽培法(1062)桑樹の栽培法(1063)桑樹の栽培法(1064)桑樹の栽培法(1065)桑樹の栽培法(1066)桑樹の栽培法(1067)桑樹の栽培法(1068)桑樹の栽培法(1069)桑樹の栽培法(1070)桑樹の栽培法(1071)桑樹の栽培法(1072)桑樹の栽培法(1073)桑樹の栽培法(1074)桑樹の栽培法(1075)桑樹の栽培法(1076)桑樹の栽培法(1077)桑樹の栽培法(1078)桑樹の栽培法(1079)桑樹の栽培法(1080)桑樹の栽培法(1081)桑樹の栽培法(1082)桑樹の栽培法(1083)桑樹の栽培法(1084)桑樹の栽培法(1085)桑樹の栽培法(1086)桑樹の栽培法(1087)桑樹の栽培法(1088)桑樹の栽培法(1089)桑樹の栽培法(1090)桑樹の栽培法(1091)桑樹の栽培法(1092)桑樹の栽培法(1093)桑樹の栽培法(1094)桑樹の栽培法(1095)桑樹の栽培法(1096)桑樹の栽培法(1097)桑樹の栽培法(1098)桑樹の栽培法(1099)桑樹の栽培法(1100)桑樹の栽培法(1101)桑樹の栽培法(1102)桑樹の栽培法(1103)桑樹の栽培法(1104)桑樹の栽培法(1105)桑樹の栽培法(1106)桑樹の栽培法(1107)桑樹の栽培法(1108)桑樹の栽培法(1109)桑樹の栽培法(1110)桑樹の栽培法(1111)桑樹の栽培法(1112)桑樹の栽培法(1113)桑樹の栽培法(1114)桑樹の栽培法(1115)桑樹の栽培法(1116)桑樹の栽培法(1117)桑樹の栽培法(1118)桑樹の栽培法(1119)桑樹の栽培法(1120)桑樹の栽培法(1121)桑樹の栽培法(1122)桑樹の栽培法(1123)桑樹の栽培法(1124)桑樹の栽培法(1125)桑樹の栽培法(1126)桑樹の栽培法(1127)桑樹の栽培法(1128)桑樹の栽培法(1129)桑樹の栽培法(1130)桑樹の栽培法(1131)桑樹の栽培法(1132)桑樹の栽培法(1133)桑樹の栽培法(1134)桑樹の栽培法(1135)桑樹の栽培法(1136)桑樹の栽培法(1137)桑樹の栽培法(1138)桑樹の栽培法(1139)桑樹の栽培法(1140)桑樹の栽培法(1141)桑樹の栽培法(1142)桑樹の栽培法(1143)桑樹の栽培法(1144)桑樹の栽培法(1145)桑樹の栽培法(1146)桑樹の栽培法(1147)桑樹の栽培法(1148)桑樹の栽培法(1149)桑樹の栽培法(1150)桑樹の栽培法(1151)桑樹の栽培法(1152)桑樹の栽培法(1153)桑樹の栽培法(1154)桑樹の栽培法(1155)桑樹の栽培法(1156)桑樹の栽培法(1157)桑樹の栽培法(1158)桑樹の栽培法(1159)桑樹の栽培法(1160)桑樹の栽培法(1161)桑樹の栽培法(1162)桑樹の栽培法(1163)桑樹の栽培法(1164)桑樹の栽培法(1165)桑樹の栽培法(1166)桑樹の栽培法(1167)桑樹の栽培法(1168)桑樹の栽培法(1169)桑樹の栽培法(1170)桑樹の栽培法(1171)桑樹の栽培法(1172)桑樹の栽培法(1173)桑樹の栽培法(1174)桑樹の栽培法(1175)桑樹の栽培法(1176)桑樹の栽培法(1177)桑樹の栽培法(1178)桑樹の栽培法(1179)桑樹の栽培法(1180)桑樹の栽培法(1181)桑樹の栽培法(1182)桑樹の栽培法(1183)桑樹の栽培法(1184)桑樹の栽培法(1185)桑樹の栽培法(1186)桑樹の栽培法(1187)桑樹の栽培法(1188)桑樹の栽培法(1189)桑樹の栽培法(1190)桑樹の栽培法(1191)桑樹の栽培法(1192)桑樹の栽培法(1193)桑樹の栽培法(1194)桑樹の栽培法(1195)桑樹の栽培法(1196)桑樹の栽培法(1197)桑樹の栽培法(1198)桑樹の栽培法(1199)桑樹の栽培法(1200)桑樹の栽培法(1201)桑樹の栽培法(1202)桑樹の栽培法(1203)桑樹の栽培法(1204)桑樹の栽培法(1205)桑樹の栽培法(1206)桑樹の栽培法(1207)桑樹の栽培法(1208)桑樹の栽培法(1209)桑樹の栽培法(1210)桑樹の栽培法(1211)桑樹の栽培法(1212)桑樹の栽培法(1213)桑樹の栽培法(1214)桑樹の栽培法(1215)桑樹の栽培法(1216)桑樹の栽培法(1217)桑樹の栽培法(1218)桑樹の栽培法(1219)桑樹の栽培法(1220)桑樹の栽培法(1221)桑樹の栽培法(1222)桑樹の栽培法(1223)桑樹の栽培法(1224)桑樹の栽培法(1225)桑樹の栽培法(1226)桑樹の栽培法(1227)桑樹の栽培法(1228)桑樹の栽培法(1229)桑樹の栽培法(1230)桑樹の栽培法(1231)桑樹の栽培法(1232)桑樹の栽培法(1233)桑樹の栽培法(1234)桑樹の栽培法(1235)桑樹の栽培法(1236)桑樹の栽培法(1237)桑樹の栽培法(1238)桑樹の栽培法(1239)桑

蠶業新報

（每月一回廿日定時刊行）　第八十五號　（明治三六年月廿日發行）

目次

●口繪　清國蠶學館之眞景

●蠶務私見
◎蠶業博覽會を開くべし …… 一七四

●蠶界時論 …… 一七六
◎蠶兒の清冷育を望む（接八十三號）　理學博士　佐々木忠次郎
◎勢に乘して過つ勿れ　農學士　大森順造
◎種類改良の方法を論す（承前）　宮入長右衛門
◎蠶業刷新の一進步　暗傑
◎白鳥氏の蠶病消毒談
◎歐米蠶業一斑　高橋信貞君調査

●蠶家實驗 …… 一八六
◎本多技師の上簇及繭取扱上の注意談
◎秋蠶飼育術提要

●蠶窓漫錄 …… 一八八
◎蠶界の元老佐々木長淳翁を訪ふ
◎大森農學士の上信旅行談さ經歷雜談
◎咳唾成珠（承前）
◎蠶界名士之手蹟

●蠶架雜陳 …… 一九四
◎富岡製絲場の記（承前）
◎利根の眞砂

●蠶書要覽 …… 一九七
◎蠶絲織物書類發行之紹介
○橫濱神戶生絲檢查所半年報第七回
○歐米蠶業一斑
○明治三十一年橫濱生糸貿易概況
○明治三十二年橫濱生糸貿易概況
○日本蠶病消毒法
○座繰製絲法
○蠶學雜錄第一號
○養蠶社改良第一號實表

●蠶績統計 …… 一九九
◎繭產額十ヶ年比較表
◎生糸橫濱入荷十ヶ年比較表
◎明治三十三年二月中蠶絲蠶種絹布類輸出數量及元價統計

●蠶學資料 …… 二〇〇
◎桑葉滋養試驗　東京蠶業講習所

●蠶事問答 …… 二〇二
◎蠶事質問應答　○蠶兒蠶蛾發生の件○損害さ即死の件○蠶起き縮みの件○蠶兒體色の件○[illegible]割法の件○通信教授所の件○蠶兒質問新題○[illegible]蠶の件○夏秋蠶の件○飼育の件○夏秋蠶給桑の件

●蠶業新報 …… 二〇三
◎蠶界雜俎　○橫濱生糸檢查所檢查數○傳習生募集○特例蠶種下賜○蠶界名士の動靜○本年養蠶の結果○新絲入荷○生絲水分檢查に關する注意書○本邦座繰生絲製造方改良金[illegible]○蠶況通信に就き○本社來訪者○其意匠○廣告の進步さ○海外蠶事（仙山の石）○蠶經十論（趣味可掬）○蠶家手帖（蠶界日記）

●競進社蠶業學校同窓會錄事
◎明治三十三年度競進社養蠶傳習所蠶況（第一報）　正員　酒井與三郎
◎如何せば養蠶家は優美なる眞繭を收獲するを得べき乎　正員　向坂英一
○會員動靜

●附錄
栽桑講義（久保貞次郎著）
高山社養蠶之栞（南毛蠶史編）

壹部郵稅共七錢五厘十二部前金郵稅共八拾四錢●爲替東京本局宛
切手代用一割增

發行所　東京市日本橋區箔屋町拾四番地
蠶業新報社

蠶種貯藏の忽にすべからざるは多年西ヶ原蠶業試驗場に於ける試驗に徵し又當業者の實驗に照らし瞭にして今更喋々を要せず本器は園田技手が苦辛の末發明せるものにて輕便にして完全に實用的に構造せる內外二重匣の外側は金屬張りとし堅牢美麗の着色塗を施し外氣の變化は勿論炭酸瓦斯或は濕氣等の爲め聊か被害なき樣工夫を凝らし構造せる安全貯蠶器なり蠶種を無事越冬せしめ以て圓滿の收繭を得んとする蠶家諸君續々御注文の榮を賜はらんことを希ふ

●代價金五枚入三圓十枚入三圓五十錢十五枚入四圓廿枚入五圓別式廿枚入九圓五十枚入三十圓百枚入四十圓荷造費共●右の外大小御望み次第製造す●運送は通運送●爲替東京本局振込

割引　●來る八月中迄の御注文に對しては特に定價の一割を減ず

發賣元　東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍

●支那蠶種　大圓頭其他數種　●新[illegible]產●下木村
●框製一蛾四錢●平付百蛾一圓五十錢
●角又　框製一蛾三錢五厘●平付百蛾一圓廿錢●
●青熟、又昔　框製一蛾二錢　平付百蛾一圓
群馬縣多野郡小野村　高津仲次郎

●最新發明　專賣特許　繭精撰器販賣

本器は晝間は日光夜間はランプの力を藉り一目能く繭中の死籠內徵等を撰別し得る當業家の坐右一日も不可欠具器なり又本器は折疊み自由なる故携帶持運び最便なり●代價一臺三圓（附屬繭入器除）小包送十里迄十五錢百里迄二十八錢百里外五十六錢●詳細書申込次第進呈

發賣所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍
發賣所　京都市上京區中立賣通七本松東入　丸山舍京都支店

前橋十五銀史君著
座繰製糸法
正價貳十錢　郵税二錢

松永石渡川島三技師校閲　池田榮太郎君著
日本蠶病消毒法
正價廿五錢　郵税四錢

蠶業新報社編　價上製四十錢並製廿五錢　郵税四錢
大日本蠶絲業家人名錄

毛利正雄先生校閲　四化蠶講習會編纂
四化蠶飼育法
正價二十錢　郵税二錢

秋蠶豐熟組々長　戸所林次郎著
秋蠶原論
正價三十錢　郵税四錢

競進社長木村九藏先生閲　折茂佳平君著
養蠶講義　増補三版
正價三十錢　郵税四錢

小縣蠶業學校長農學士三吉米熊先生閲　宮入先生著
節高病蠶論　貳版
正價四十錢　郵税四錢

城丹蠶業講習所教師渡邊義武君著
桑樹病害蟲害災害驅除豫防法
正價二十錢　郵税二錢

蠶業新報社編輯　美麗大寫眞銅版面向
蠶界名士之肖像
正價十錢　郵便料二錢

蠶業新報社編輯
蠶業論文集
正價十錢　郵便料二錢

從五位速水堅曹先生修補　佐野瑛君著
大日本蠶史
正價二圓五十錢　郵税二十錢

理學博士佐々木忠次郎先生閲　農學士大森順造君著
日本蠶病論　第二版
正價一圓五十錢　郵税十二錢

信陽　相馬愛藏君著
秋蠶飼育法
正價十五錢　郵税二錢

竹澤章君著
實地應用　接木法（増補第四版）
正價十五錢　郵税二錢

練木喜三先生校閲　小田勢助君著
簡易蠶桑問答（附春蠶飼育標準）
正價八錢　郵税二錢

丸山舍編輯
蠶業學校案内
減價金十錢　郵税二錢

木村先生諸部先生遞見先生著
競進社流
養蠶實驗説
正價壹圓廿錢　郵税十錢

農學士大森順造岩田次郎二君著
日本蠶業革進策
價七十五錢　郵税八錢

深澤利重君著
日本蠶業論
價送料共十七錢

相馬愛藏君著
蠶種製造論
價送料共三十四錢

發賣所　東京市日本橋區箔屋町　京都中京寺町通七本松東入
丸山舍　本店　支店

健全無毒
四化蠶種製造販賣廣告

弊部ハ明ニ四化蠶種ヲ製造スル桑園ヲ設ケ岩田喜三郎飯島源吉ヲシテ飼育ヲ擔當セシメ部長ノ嚴重ナル監督ニヨリ健全無毒ナル四化蠶種ヲ製造販賣仕候間多少ニ拘ラズ御試育アランコトヲ偏ニ希望ス

蠶種代金　全　撰繭撰蛾特別製壹枚金壹圓廿錢　框製百蛾金壹圓四十錢

蠶種製造期　八月十五日ヨリ八月卅日マデトス
蠶卵產附ヨリ九日目乃至十日目發生

割引法　拾枚以上壹割引　廿枚以上二割引
五十枚以上御照會次第回答スベシ
代金御送付ナキ注文謝絶◎郵便局下總國守谷局

道順案内　東京上野ヨリ水戸行ノ滊車ニ乘リ取手ニテ下車セバ二里餘ニテ達ス

大榮　實玉
茨城縣北相馬郡高野村利根川沿岸ノ地
岩田太郎蠶事部

蠶業之燈　月一回發行　一部郵税共三錢五厘　一ヶ年十二部郵税共三十八錢

増補三版　**日本蠶病論**　農學士大森順造著　郵税共二圓二十錢

再版　**日本蠶業革進策**　大森岩田次郎合著　郵税共八十三錢

通俗　**養蠶術講義**　茨城縣岩田次郎著　郵税共二十九錢

茨城縣北相馬郡高野村九二番地　**蠶業之燈社**

取次販賣所　全　東京日本橋區箔屋町十四　丸山舍
全　京橋區南傳馬町三丁目　有隣堂

健全無毒
四化蠶種販賣廣告

實玉

虫質強壯飼育容易ニ繊維ニ細太ナク光澤優美壹升三百匁以内糸量凡拾匁以上ヲ有スル改良種ナリ

本社之目的

日本四化蠶ノ改良發達ヲ圖リ精良確實ナル四化蠶種ヲ製造シテ販賣シ且ツ之カ委托販賣ヲナスヲ以テ營業ノ目的トス

代價　全　撰繭撰蛾特別製壹枚代金壹圓也　框製百蛾金壹圓廿五錢也

割引法　拾枚以上壹割引貳拾枚以上貳割引
五十枚以上ハ御照會次第直ニ回答スベシ

出張所　八月二十日ヨリ取手驛停車場前旅人宿千代櫻ニ出張所ヲ設ク
電信略號　本社發スル電信ニハ（シカ）ノ略號ヲ用フ
代金振込局　下總國守谷局ニテ受取人小島米吉

道順案内　上野停車場ヨリ水戸行滊車ニ乘リ取手停車場ニ下車セハ僅カニ貳里餘

代金御回送ナキ御注文ハ蠶種發送不仕候
蠶卵產附ヨリ九日乃至十日目發生

蠶種製造期　八月十五日ヨリ九月十日マデトス

茨城縣北相馬郡高井村同地六番地
日本四化蠶改良合資會社

移轉　昨年迄ハ全縣全郡高野村ニ營業所ヲ設ケシモ本年ヨリ全郡高井村同地六番地ニ移轉

蟻酸アルデヒート水（金屬製）

噴霧器　一具

實價　金八圓五拾錢　小包料　百里內二十四錢　百里外四十八錢

簡便安全消毒燈　一具

仝　金拾壹圓　小包料　百里內十六錢　百里外三十二錢

メチールアルコール　一ポンド

價格時々變動ノ爲メ不定　小包料　百里內十二錢　百里外二十四錢

百分中四十プロセント含有

蟻酸アルデヒート原液（フヲルマリン）　一ポンド

（但シ清水八升五合ニ溶解散霧スル者）　金壹圓　小包料　百里內十二錢　百里外二十四錢

本品ハ蠶室蠶具ノ病菌ヲ殺滅スル完全無缺ノ消毒器ニシテ尤モ蠶業家ニ必要ナルヿハ諸大家ノ證明ニテ今更喋々ヲ要セザルナリ故ニ此獎勵ノ爲メ從來ノ製造品ニ改良ヲ加ヘ廉價ヲ以テ需用ニ應ゼントス請フ斯業ニ從事セラルヽ諸志陸續御注文賜ランヿヲ

○取次販賣所望ノ方ハ御申込次第御相談可仕候

○御送金ノ節爲替拂込局ハ東京市本鄉區本鄉郵便電信支局渡リ

○消毒器ノ寫眞圖及使用說明書等ハ別ニ詳細ナル印刷物有之候間御入用ノ諸君ハ郵稅貳錢御送附アレバ直ニ送呈可仕候

製造發賣所

東京市本鄉區本鄉二丁目十七番地

ライルト氏顯微鏡販賣

醫療理化學器械舖

佐々木商店

電話本局六百五十九番

◎緊急廣告◎

佐々木理學博士　河原農學士

大森農學士　清水昆蟲學者

三吉農學士

實驗證明附

蟻酸アルデヒート

◎簡便安全消毒燈（單立）金拾貳圓五拾錢

◎仝（三連立）金參拾貳圓

◎仝（五連立）金五拾參圓

消毒燈點火用

◎メチールアルコール壹廿　金參拾五錢

蟻酸アルデヒート水

◎自動噴霧器壹具　金拾圓

◎蟻酸アルデヒート液壹廿　金壹圓

本器械及藥品ヲ以テ蠶室蠶具ヲ消毒ナストキハ總テノ蠶病菌ヲ滅殺シ一ノ病原ヲ遺スヿ更ニナシ既ニ特效顯著ナルハ諸大家ノ實驗證明セラレ養蠶家諸氏ハ進テ賞用セラレツヽアリ殊ニ在大學院農學士大森順造先生ニ於テハ本消毒燈ヲ以テ消毒法ヲ全國ニ普及スルトキハ蠶業界ニ於テ一ケ年優ニ四千餘萬圓ノ遺利アリト論セラレタル一大利器ナリ

製造發賣元

東京本町三丁目十四番地（電話一五二〇番）

エヽライツ氏顯微鏡日本一手販賣

醫療理化學器械問屋

田中杢治郎

特約販賣店

東京本町三丁目十八番地（電話七五一番）

各國藥種問屋

松本市左衛門

謹　養蠶家之必讀ヲ望ム　告

堅牢保險　完全無欠自働噴霧器

フオルムアルデヒード液ニ至レリ他製品ニ比シ其卓越スル点左ノ如シ乞フ御比較ノ上御注文アランコトヲ

本器ハ病毒除去ノ効能ニ於テ今ヤ驚クベキ大家ノ實驗ニ基キ諸更ニ一層殊ニ本器ハ蠶ノ病毒ニ対シ最モ有効ナル消毒器ニ

正價金九圓　箱入一具

小包料百里内五拾錢　百里外壱拾六錢

簡便安全消毒燈

「フオルムアルデヒード」原液及ヒ「メチールアルコール」ハ時々相場ニ甚キ騰利ヲ以テ御注文ニ應シ可申候

一定ノ價厳密仕兼候ニ付時ノ大相場ニ甚キ騰利ヲ以テ御注文ニ應シ可申候

正價箱入一具金拾壹圓

小包料百里外三拾貳錢百里内拾六錢也

東京市下谷區御徒町一丁目六十九番地

醫療器械製造所

合資會社　職工聯合工進社

緊急廣告

一ラムトリ式噴霧器　金八圓五拾錢
一簡便安全消毒燈　金壹圓五拾錢
一ホルマリン　四十匁　金參拾五錢
一木精　メチルアルコール

本器ハ農商務省蠶業講習所技師理學士河原次郎先生ノ撿定ヲ經テ御需用ニ應シ候故其精巧堅固ナル確實ニ御虫蠶

御農商務省蠶業講習所注文ノ際ニハ

我邦養蠶業ノ益々隆盛ノ域ニ進ムニ從フテ往々細菌ノ侵ス所トナレルヲ以テ帝國大學及東京京都蠶業講習所等ニ於テ斯道ノ博士學士多年深遠ナル研究ヲ攻究セラレタル結果其豫防驅除ノ法ヲ試驗ノ上ニ由リ蠶病ノ發生ヲ表示セラレタリ故ニ弊店ニ於テ是ヲ應用スルノ器械ヲ以テ製造販賣仕候間爲蠶家消毒施行ノ順序ヲ希ソ

大日本蠶絲會第五回品評會出品蠶種悉皆掃下申受有志諸君ニ分讓仕候間來歇向ニシテ申込過多ノ爲メ其ノ筋本樣ニ背キ候段以紙上謝申候而シテ本年ハ付製造家御指名ニ應シ申候尤モ弊店取次販賣ノ各有名蠶種家ヨリ委托ニ由リ不得止取次販賣仕候ニ付キ申込アランコトヲ乞フ

全國各本場蠶種豫約申込

夏秋蠶種ハ消毒施行ノ蠶種ニ無之候テハ一切販賣不仕候故誤解申込アランコトヲ乞フ

農商務省
東京蠶業講習所
京都蠶業講習所

御用達　紙本治太郎

（電信略號カミ）
（電話本局九百五十五番）

顯微鏡各種蠶業器具書籍類

春蠶種販賣廣告

大蓮中蓮 又昔（一升　二百七十顆以內）
（一升　三百顆以內）
（一升　三百顆以內）

青角 熟昔（一升　二百八十顆以內）
清又（一升　三百五十顆以內）

右ハ何レモ飼育容易ニシテ絲質良好ナリ代價等詳細ハ照會次第回答ス

群馬縣多野郡新町
境野清衛

長白 製鶴（一升　二百七十粒）
（一升　二百六十五粒）

群馬縣多野郡新町
田口長治郎

◎會社資蠶種販賣廣告　中野蠶業社

◎又昔○小石丸○角又○青熟○銀白○中野錦○青白○白玉○白龍○緞蠶○信濃錦○飛白○外數種○

○信州本場○純良無毒○春蠶種

及其種數種

◎蠶種定價

平附原壹枚金壹圓六拾錢
全面壹枚金貳錢五厘
壹圓ニ付壹錢

○七月十日迄ニ御申込ノ分ハ名入ニ製造仕候

○郡町村役場農會共同購入及取次販賣代理店要望ノ方ハ特別使利ノ御協議ニ應ス其他紙數ニヨリ割引ス

○蠶種ノ成規檢査ニ於テ負擔可仕候

○換種ノ成規檢査ニ於テ負擔可仕候

○爲替ハ郵便送金ニ付小包ニ於テ負擔可仕候

○濃國下高井郡中野町電信略號（○サンノ）

○退テ本社ニ付今回新絲ノ處置ニ付移轉ノ落成ニ付今回新絲ノ處置ニ付移轉ノ

○附記及ヒ別紙蠶種ノ注意ヲ以テ

祝賣ト例外ノ大割引

勉強

信濃國下高井郡中野町電信略號（○サンノ）

合資會社中野蠶業社

健康蠶種の御披露

貴命ニ依テ化年間ノ創業ニシテ蠶種業ニ精勵シ本年モ一層業務ヲ擴張シ我國養蠶ノ改良ニ適切ナル改良ヲ加ヘ健康ノ實利ヲ基礎トシ種ヲ撰擇仕度ニ付ク

大方ノ諸君至急御注文ヲ願ハン事ヲ

武州橘樹郡稻田村蠶種製造家
清水館主

命種校章拜受
大日本農會員

關山五郎右衛門

種類　白、又昔、青熟昔、夏蠶
代價　壹圓　壹枚
壹圓　拾錢
乃至百枚
前金全面
製一蛾參錢
枠　全一蛾撰特別製

素洲館製種部

一　製種金　方　郡　北庄內
一　蠶種　實　堀　江
一　蠶　費　郵　國
一　蠶　紬　送　遠
一　蠶　果　料　名
一　蠶　報　代　村
一　蠶　告　共　宛
一　蠶　後　義　枝　名
一　蠶　ノ　務　金　恬
一　蠶　眞　アル　七　川
一　蠶　否　際　拾　熊
一　蠶　申　ル　錢　重
一　蠶　込　事　壹　ト
一　蠶　ノ　ア　枚　記
一　蠶　事　ル　入　ア
一　蠶　ノ　事　ル　ル

四化蠶種分與廣告

四化蠶ハ強健ニシテ風穴新種トハ異リ飼育最モ易ク立蠶ニ強ク殊ニ農間九月一日前後ハ最モ有益ナル蠶ナリ實ニ知ラシメンガ爲メ經濟的合理ニ限リ平附百枚實費ニテ分與ス蠶種ノ規定ハ嚴ミ至急ニ壹枚以內ノ事ニ付キ普及ノ目的ナレバ壹名ニ限リ平附百枚實費ニテ分與ス蠶種ノ規定ハ嚴ミ至急ニ壹枚以內ノ事ニ付キ普及ノ目的ナレバ

高橋信貞君著述

製絲法

郵稅共金十錢
實價郵稅共金壹圓
實價金壹圓

訂正
地方

生絲繭蠶種審査法

前野御等諸君ノ講評ヲ賜ハリ改訂ノ上大日本蠶絲會員ニ推薦ス

郵便爲替ノ口數ハ金三十九錢ノ實價及郵稅ヲ添ヘ御申込アレバ

春蠶種販賣廣告

武州本場

文明ノ利器ヲ應用セザル者ハ文明ノ人ト謂ズ信用ヲ重セザレバ其業ハ完カシカラズ例年ノ通リ讓告スリテハ依テ其ノ實費ハ略ボ至

○又昔○大又○金花山○角又

飼育法　火力ヲ用ズ　代價割引ノ行商ノ勞費ヲ省キ特ニ相談可仕候

武州見玉郡賀美村
外氣應用
累代蠶種專門

荒井富五郎

今回肩書ノ所ニ移轉シ一層蠶務擴張茲精良蠶種ノ高需ニ應ス

北海道南龍郡深川村
大日本蠶絲會員

大雲社支部

秋蠶種豫約販賣廣告

白龍馬

製造期 七月廿四五日ヨリ八月一ヶ旬迄

豫約期 七月廿五日迄ニ御申込ヲ乞フ廿枚以上ハ御注文ノ方ニハ割引致スベク

代價 百枚壹圓貳拾錢

爲替 御注文ハ同時ニ信濃村非郵便局ヘ宛ノ郵便局ト特約アル爲ヌ書留ヲ

試驗爲 御試驗ノ方ハ貳拾錢ニテ何ト御心配ノ方ハ壹圓ニテ御試驗ヲ專用セシモノナキ事ハ壹圓ニヨリ明ナル所ナリ但シ廿枚ニ付郵費共拾貳錢

信濃國東筑摩郡芳川村　全國金松本郡村

順氣館　田中增七

東陽堂　赤羽兵八郎

秋蠶種改良合資會社

各種類希望者ヘハ金拾五錢ニテ廿五錢分與ス

無海鮮細ハ御服會次第回答仕候集約八月一日迄

白鶴中草白龍蟲賣錢代金壹枚壹圓五拾錢薄付壹圓

信州小諸傍

本會は明治十八年創立にて學者と染職業に關係ある商工業者千數百名組織して斯道の進歩を圖る爲め團結して唯識員を置き規則を設け改良を加へ次第新の功を擧げ爲め毎月會員に分つ會報を發行し此際有志の士は入會あれ

○會費一年壹圓五拾錢滞納者は拾錢宛追加申込次第進呈すべし

本會は郵券貳錢御報見

東京下谷二長町五十二

大日本織物協會

牧畜雜誌

東京神田區鍋町三丁目

牧畜雜誌社

毎月一回（十五日）發行第百七拾七號本月十五日發兌

定價一冊金拾錢、前金五拾錢、十二冊前金壹圓、郵税不要

春蠶種　夏蠶種　萬倍鶏　秋蠶種　全　全　此他各種

小石丸　又昔　角又　白龍　龍馬

信濃國

小諸郡白瀬村

白瀬兵太郎

天然製種育春蠶種販賣

注意　誤認あるは清原育と誤認すること勿れ

飼育容易蠶兒强壯に絲質善良なるは充實せる桑葉を給し製造せる天然製種育蠶種の本領たり弊家こゝに見るありて累代天然育蠶種を製造し治く世の養蠶家の需めに應ず

○種類○又昔○青熟○角又○一名○眞白○中巢○倭○支那（呉中此種は天然育に獨特の長所あり）

○荷作費全部弊家負擔す○代金は前金に限る乍然公共團體組合申込は此限に非ず○銀行及郵便爲換武藏本庄

○代金一枚一圓五十錢○二十枚以上は相應の割引可致候○遞送費は弊家負擔す

埼玉縣兒玉郡賀美村字

天然育製種家　萩原　李衛

信州本場

春秋蠶種販賣廣告

又昔　信濃錦　小角又　蟻白

萬倍　青熟　白龍

秋蠶

定價

春蠶種半一枚金一圓廿錢也

秋蠶種紙金面附一枚金貳圓也

多數ノ御注文ハ特ニ割引ス　箱賣郵税ハ本場自辨　爲替ハ郵送

信濃中野局受取人ハ本場主任柴本ハ吉ノ事宛

長野縣下高井郡延德村

柴本蠶業場

四化蠶種製造販賣廣告

但八月一日ヨリ連日製造

一濱名錦

代金御同送ナキ御申込ハ御斷申候發生期遲延ハ可致候

ルヲ以テ敏速ヲ要ス

蠶種代價

焦製百蛾ニ付金壹圓廿錢

千林別製壹枚金壹圓也

全並精選一枚金八拾錢

但シ箱代郵送料ハ自辨爲替振込ハ

遠州磐田郡　郡便局

武蔵川村横山郵便局

靜岡縣磐田郡山香村瀬尻

養蚕部主

吉野庄太郎

上蠶種家の毛

上毛蠶種○千本良芳郎

上野國新野郡町

高山氏本科生教授の傍ら研究的に蠶種を製造せり○因て同好の士に謹告す○試驗的蠶種に施肥を實用とわり○購求の士は區別申込あれ○陳列又昔大圓頭下木村錢○代價一枚金壹圓五十錢附一帙金三錢五厘荷造賃金四錢○箱代及郵送料不要○試驗成績は數枚により割引無にしるべしす

器械紬製絲法傳習廣告

前々號本誌を以て詳細廣告致し候器械紬製絲法傳習は今日迄其効績に尤も否難なし而し出發前に本誌に其盛紬絲には製すると得べき蠶糸に有利の育用上顧客の利益なる弊社が始めて世に紹介するのに付無之已に三年前より長野縣等に行はれ其實用を認め各地に普及せられしも其後の習熟に從ひ改良を加へ常り弊社御指揮を確認せられしを感じ各々其地に於て製絲業を起し其後の業績は弊社の利益なるのみならず上大なる益を與へたるは必須の化繭法及蠶種の改良より生産法及蠶方より入用の色染法を傳習せんとする者は日用所の日も切迫にて付志願者は速御申込ありたし

細は御申込次第規則書を呈す○開所七月十日より○卒業迄十日間

東京市日本橋區新屋町十四番地

丸山舍器械紬製絲法傳習部

傳習一枚壹圓五拾錢
原種特別製造繭五拾枚
製絲料八月末日
限前金ノ事
教師金二ヲ加ヘ
送金ハ江州
東京

北海道蠶種

小石丸又昔
南熟

北海道札幌郡江別村屯田兵村

東京

和田義文

例年の毛蠶種豫約製造す

分與

豫約の方は八月十日迄に申込あれば江別郡屯田兵村

北海道札幌郡
屯田兵村

北門蠶業組合事務所

秋蠶種販賣廣告

松本秋蠶ハ蠶界唯一ノ副産物トシテ毎歲各地ニ其産額ヲ增加セシ農務閑際ニ涉ルヲ以テ精良ニ支障與ノ時季時恰モ桑葉ヲ拾集シテ黃金ニセシメ而シテ春蠶ノ加ヘ

秋蠶ハ蠶界唯一ノ副産物トシテ毎歲各地ニ其産額ヲ增加セシ農務閑際ニ涉ルヲ以テ精良ニ支障與ノ時季時恰モ桑葉ヲ拾集シテ黃金ニセシメ而シテ春蠶ノ加ヘ

信州秋蠶種販賣廣告

秋蠶種販賣廣告

信州松本

○○○
糸錦万倍國富

（魚眼強壯ニシテ飼育ニ易ク收獲最多ナリ）
（多量ナル光澤頗ル善良ナリ）
（蠶形稍々中粒ナレ共養蠶壯恐ラク因蠶大ニシテ愛ナシ）
（蠶形肥大ニシテ愛ナシ絲量多ク近來製絲家ノ嗜好スル良種ナリ）

○定價
半付全面付
一枚代壹圓
貳圓
一枚付
三十錢

●申込
期限前金ニ
八月十五日
為替申込ベシ
郵便為替ナレ
バ信濃國中野局
銀行
信濃銀行振

●送金
ハ信濃國中野局
井郡延徳村
字三ツ和

●受取
人ハ長野縣下高井郡
吉宛組アリタシ
高橋愛吉野村

込ミニテ受取
人ハ長野縣下高井郡
吉宛組アリタシ
高橋愛吉野村

●割引
十枚以上一割引
五十枚以上二割引
百枚以上三割引

遠隔ノ地ニテ五十枚以上ノ者ハ必ズ返信券封入ノコト

●照會
復書ニハ郵券五錢呈ス
信州下高井郡延徳村字三ツ和

●電信
ルベシ為替ニテ送金セラ

●遞送
本社自辨共料

●隔
ノ要

會名
會社

高明館本局
（電信略號○タカ）

信濃秋蠶合資會社
（電信略號アキコン）

正撰堂

秋蠶種販賣廣告

信州松本

秋蠶ハ蠶界唯一ノ副産物トシテ毎歲各地ニ其産額ヲ增加セシ農務閑際ニ涉ルヲ以テ精良ニ支障與ノ時季時恰モ桑葉ヲ拾集シテ黃金ニセシメ而シテ春蠶ノ加ヘ

種類
白繭
龍馬
所ナリ
青相成繭氏ノ為ノ絲ク費セラル、

製造期
七月中旬ヨリ四五日間ニ有之候故御請求ノ方ハ可成期日前ニ一枚付二十錢量十二匁ヲ以テ

代價
五分付

右前金ニ非ザレバ郵送セズ送料ハ申受クベシ
為替ハ松本郵便局御振込宛ニ願上候
信濃國東筑摩郡芳川村野溝

正撰堂

蠶業勸平

信濃本場
春蠶種　山勝種

種類定價表詳細御照會次第送呈
本村特産蠶卵直賣取扱販賣問屋　長野縣小縣郡長瀬村
龍精館

春蠶代金
壹枚
白繭
壹圓
五十錢
白錦
壹圓
五十錢
大草
五分付
壹圓
龍鳥
壹圓
代金
壹枚
貳錢
原種
壹枚
貳錢
大又
小又
角又
青熟
青熟
丹石丸
大又

秋蠶
壹枚
白繭
壹圓
五十錢
白錦
壹圓
五十錢
出穴
五分付
壹圓
掛合
壹圓
七十錢
代金
壹枚
壹圓
二十錢
以上
九月
迄
ヨリ

風穴
隨意
代金
壹枚
壹圓
二十錢
以上
遠星
迄

各蠶試育者ハ廿五錢ニテ御試育可仕

信州小縣郡傍陽村　蠶種豊國社

當社蠶種取次販賣望者ハ特ニ御相談可仕

本場四化蠶種製造販賣

弊館ハ四化生蠶種ヲ專門トシテ多年精勵シ三府四十四縣至ラザル處ナク一般飼育好成績ヲ得ザルナク大ニ好評ヲ博セリ本年モ一層業務ヲ擴張シ健康良種ヲ精製仕候ニ付至急御申込アラン事ヲ乞フ

●角又●大鼠●八月五日ヨリ九月十日迄ノ大又●代價●特別精製●平附壹枚壹圓貳拾錢●壹枚金五拾錢●何レモ前金ニテ箱代送料弊館持ノ事

●割引法五枚以上五分引拾枚以上一割引貳拾枚以上一割五分引五拾枚以上二割引百枚以上ハ御照會アレ●特別割引ス

●為替振込ハ遠江氣賀局受取人館主内山喜平宛

●静岡縣引佐郡三嶽村　石川縣河北郡金津村

春蠶種　八重姫　小石丸

販賣仕候御一報次第定價表呈

有爲館
内山喜平

四化專門

實力館

春蠶種販賣廣告

○又昔　○小石丸　原種ハ長形ニシテ絲量多ク最モ製絲ニ好適ス

養蠶地　丹後加佐郡ノ北端舞鶴ノ地ニアリ空氣ノ流通能ク病害蛆害ノ患ナク實ニ製種養蠶ノ新場タリ本社ハ特ニ拾數少所ノ飼育場ヲ設ク

蠶兒飼育　飼育中ハ本社主任福井高五郎養蠶地ハ出張天然ノ氣候ニ則リ火力ヲ用ヒザルノ飼育ヲ施シ就中頗ル健全ノ蠶兒極點ノ好果ヲ得シモノヲ撰拔シテ製種用ニ供ス故ニ蠶種健全ニシテ飼育容易ナリ

蠶種定價　製絲用種　全面付一枚　金壹圓貳拾錢
原種用種　全特別製　金壹圓四拾錢
枠製一枚　金貳錢
但　拾枚以上共同購入又ハ取次販賣望ミノ方ハ御照會アレ枚數ニ應シ相當割引ス

申込　七月三十日迄ニ代金御拂込御注文ヲ乞フ
爲換ハ丹後舞鶴電便電信局振込

蠶種發送　製絲用種ハ九月一日後原種用種ハ十一月一日後本社ノ自排ニテ發送ス

明治三十三年七月

京都府加佐郡餘内村編來
一信製種合資會社
（電信略號一シン）

龍田姫

第三化七月上旬ヨリ發生
第四化八月中旬ヨリ發生　（全面附）一枚　代金壹圓五十錢　代金壹圓貳十錢

框製原種用壹蛾金貳錢○豫約ハ發生十日前代金御添附ノコ○着代郵送料共當方支辨○割引拾枚已上壹割五十枚已上壹割五分百枚已上特別○爲換振込ハ遠州濱松郵便局

弊園明治廿六年中四化蠶種ヲ世ニ紹介シ其有益ヲ絕叫セシヨリ以來、四化蠶ノ聲價各地ニ喧傳シ今ヤ全國其飼育ヲ見ザルノ地ナキニ至レルハ誠ニ弊園ノ面目トスル所而シテ本種ハ弊園多年ノ撰擇改良ニ成レル特得ノ珍種ニシテ繭形大ニ（一升二百五六十顆）飼育容易ニ蟲質亦タ強壯四化蠶種中ノ最優良種ナリ發蛾發生漸ク將ニ其期ニ迫ラントス幸ニ飼育ヲ賜ヘ

靜岡縣濱名郡湍村下四番地
誠養園主　伊藤豐太郎

四化蠶種販賣廣告

●天龍丸　龍白　角又

◎第三化蠶種　◎七月十日ヨリ八月五日迄達日發生　◎七月十五日限豫約申込
◎第四化蠶種　◎八月十日ヨリ九月十日迄達日發生　◎八月二十日限豫約申込

蠶種代價

框製百蛾金二圓　全面平付別撰金一圓五拾錢　全並撰金一圓貳十錢

割引

十枚以上一割引二十枚以上二割引百枚以上御相談ニ應ズ

◎爲替振込局　遠州濱松郵便局

四化蠶種分與

三百名ヲ限リ框製一枚宛分與ス
申込八月二十日限リ實費金十五錢（郵券代用不苦）御送付アレ順次送與ス

靜岡縣遠州濱松停車場田町通リ
●電信略號（コ）　國益社出張所　澤木猪太郎

殘桑利用 霜の下秋蠶種販賣廣告

此種ハ本郡擴進社試驗場ニテ多年經驗ノ結果撰拔セシ繭形大キク玉繭少ク光澤優美ニシテ四化蠶等ノ遠ク及ブ處ニアラズ濡天下ノ篤蠶家各位本蠶ノ實利ヲ驗セラレヨ製卵ハ八月十八日ヨリ全下旬迄代價八十蛾蠶一枚一圓五枚以上五歩引
本館早口蠶種要望者ハ前號第一着ノ廣告ヲ見ヨ

信州東筑摩郡廣丘村
蠶業擴進社員蠶業館　小穴彌十郎

●廣告依賴者に告ぐ

本會報へ廣告依賴の諸君にして往々每月中旬後に御申込相成候もの有之不得止翌月ならでは掲載致兼候場合も有之候に付爾後は每月五日までに廣告原稿（料金を添へ）御送付相成度此段爲念廣告候也

大日本蠶絲會

一千萬圓ノ遺利拾ツベカラズ

秋蠶種ハ通常七月下旬ヨリ八月上旬迄ノ間ニ於テ製造スルモノナリ然ルニ育蠶家ハ天災又ハ遺蠶若クハ桑葉剩餘等ノ場合ニ當リ八月中旬若クハ下旬製造ノ蠶種ヲ補立ントスルモ最早種ナクシテ已ムナク貴重ナル桑葉ヲ徒ニ落葉セシム漸ク一部ノ育蠶家ガ成ル劣等ナル蠶種ニ拘ラズ四化蠶ヲ飼育スルニ止ル何ゾ晩秋蠶種ヲ望ムモ切リ離シ以テ再生法ニ焦ルハ簑暑ノ蠶種ハ熱暑ニ於テ元種ヲ得ルニ至ラズ極メテ困難ナル故ニ弊館ハ多年ノ經驗ト研究トヲ以テ晩秋蠶種ノ製造法ヲ發明シ茲ニ頭毛再生法ニ依リ晩秋蠶種ヲ製造スルニ成功シタリ故ニ今年ヨリ秋蠶種ヲ本年ノ秋ニ於テ實費ヲ以テ製造シ天下一萬圓ノ遺利ヲ收メ得セシメントス蠶家ニシテ豫約ノ法ニ依ラズシテモ其要求アル者ハ入用次第何時ニテモ早晩ノ別ナク需メニ應ズ急ヲ要スル者ハ電報爲替ヲ以テ請求アレ

秋蠶種（早種 七月廿五日頃ト全三十日頃ト八月五日頃ト三回ニ製造ス
　　　（晩種 八月十日頃ヨリ下旬マデ引續キ製造ス
實費　五分附（綠書平坐）一枚一圓也（當方送料籠箱紙電信局諸取人主任）

長野縣南安曇郡南穗高村（電信下略號サイ）
秋蠶本扶桑丸蠶種本舖
帝國農家一致協會蠶種用達扶桑館
信陽實業全志會長
館主　齋藤兵次郎

正七位高橋信貞君編
全二葉解說一冊付　實價廿錢　郵稅四錢

●世界●各國　産繭標本寫眞

繭は生絲の前身にして生絲は繭の後身なり故に繭生絲も又佳良ならざるは人皆之を知る然れども繭は繭なる一般ならざるから爲め生絲の品は亦繭に依るもの今やこれなり繭若くはなかの生絲の品位を知らんとする研究を要する方法として繭の種類に就き各國の繭標本を蒐集しこれを撮影したる寫眞に其産地の名稱を付し且つ解說を加へたるものにて長短適否等を詳記せられたるもの實に斯業に志ある諸君は缺くべからざるの良書なり

高橋信貞君編述

●米國シカゴ府開設●世界大博覽會出品　繭生絲解說

實價拾錢　郵稅貳錢

本書は斯業に精通の譽いある高橋信貞氏が米國「シカゴ」府に開かれたる世界博覽會出品繭生絲の解說をしてものとせられたるものにして先づ雄なる日本蠶業の沿革に起し夫て本邦に於ける桑及蠶の重なる種類に就き其得失を論じ現時の養蠶及製絲法を詳叙し而して日本外に於ける蠶絲の貿易の盛況に論及し將來の當否さしては我我兩民の繭絲品製造少なき其に利益と共に我我勇勢の發達を謀ぐるの要を論述して其間を論はれたる眼明細北の良書たり斯業に關係ある諸氏必讀ふ御購讀あらむことを

本會會員諸君にして前書の購求を望まるゝ向は各規定代價と郵稅とを添へ御申込あらは直に遞送す

大日本蠶絲會

強壯無比 北海道蠶種 小兒青熟 北辰社支部

磐城國伊具郡舘矢間村

電信零符（ホシ）

本會員諸君ニハ特別割引ヲナス委細ハ御一報次第御通知可仕候

春蠶種販賣廣告

鹽尻均業會社商標

均

登録

●當會社ハ蠶種製造ヲ以テ專門トスル有志ノ結合ニシテ其主旨目的ハ蠶業上自他全般ノ實利ヲ標準トシ協力一致以テ精良ノ蠶種ヲ製出シテ是ヲ普及セシムルニ在リ

●種類及代價其他詳細ノ事項御承知相成度方ハ往德業書ニテ御照會被下度候

●豫約ヲ以テ多數合同御申込ノ方ヘハ特別ノ御相談可仕候

●爲替ハ本會社宛ニテ信濃國小縣郡鹽尻郵便受取所ヘ御振込被下度候

長野縣信濃國小縣郡鹽尻村

合資鹽尻均業會社

社員

藤本善右衛門　佐藤八郎右衛門　佐藤國右衛門

佐藤尾之七　馬場源藏　塚田茂平

馬場藤四郎　小岩井茂三郎　瀧澤金右衛門

塚田林太郎　小岩井利藤太　佐藤三右衛門

春蠶種

又音角又

上掲ノ二種類ヲ製出販賣致候營業案内書ハ御一報次第早速御郵送可申上候此案内書ノ紙上ニハ弊家蠶業顧問農學士三吉米熊君ノ蠶病消毒論ヲ掲載セリ●農會其他團體ニ於テ一手ニ多數御購入ノ節ハ特別ニ御相談可仕候

長野縣小縣郡鹽尻村

合資鹽尻均業會社員

佐藤八郎右衛門